

W0793/23

法律雜  
誌拔萃

# 佛國商社法要義

全

佛國法律博士ジエー、アッペール口述  
日本法律學士櫻井一久譯述



東京 時習社 藏

# 佛國商社法要義目次

○第一篇 商業會社總論	一
○第一章 會社ノ定義、會社ノ成立ニ必要ナル條件	一
○第二章 會社ノ無形人タル事及其結果	六
○第三章 商業會社ニ關シテ起ル訴訟ノ裁判管轄	九
○第四章 會社ノ種類	一二
○第二篇 會社ノ創立及ヒ其管理	一五
○第一章 合名會社	一五
○第一節 合名會社ノ性質	一五
○第二節 合名會社ノ成立ニ必要ノ條件	一七
○第三節 合名會社ノ管理	二八

- 第四節 合名會社他人ニ對シテ義務……………三二
- 第一款 會社他人ニ對シテ義務ヲ負擔スル爲メニ要スル條件……………三一
- 第二款 會社カ負擔スル義務ノ結果……………三六
- 第二章 無名會社……………三八
- 第一節 無名會社特有ノ性質……………三八
- 第二節 資本ノ組織……………四八
- 第一款 株券資本……………四九
- 第二款 債券資本……………六七
- 第三款 株券及ヒ債券ノ讓渡……………七四
- 第三節 無名會社成立ノ規則……………一〇〇
- 第四節 無名會社ノ管理……………一三一

- 第一款 無名會社ヲ管理スルニ必要ナル機關……………一三一
- 第二款 無名會社ノ管理ニ關スル特別ノ規則……………一四六
- 第三章 差金會社……………一五七
- 第一節 差金會社共通ノ規則……………一五七
- 第二節 單純ノ差金會社……………一六八
- 第三節 株式差金會社……………一七一
- 第一款 株式差金會社ト無名會社トノ重ナル差別……………一七二
- 第二款 株式差金會社ノ管理……………一七二
- 附錄……………一八三
- 第一附錄 不定資本會社……………一八三
- 第一款 不定資本會社ノ起ル所以……………一八五
- 第二款 不定資本會社ニ付法律ニ定メタル規則……………一九〇

○第二附錄	商業會社ノ形体ヲ裝フタル普通會社	一九六
○第三附錄	外國ノ會社	二〇〇
○第四附錄	共分會社	二〇七
○第一款	共分會社特有ノ性質	二〇八
○第二款	共分會社ヲ支配スル特別ノ規則	二二五
○第三篇	會社ノ解散及ヒ遺產ノ決算	二二八
○第一章	會社ノ解散	二二八
○第一節	解散ノ原因	二二八
○第二節	解散ノ公告	二三三
○第二章	遺產ノ決算及ヒ分配	二三七
○第一款	遺財ノ決算	二三七
○第二款	遺財ノ分配	二四七

四

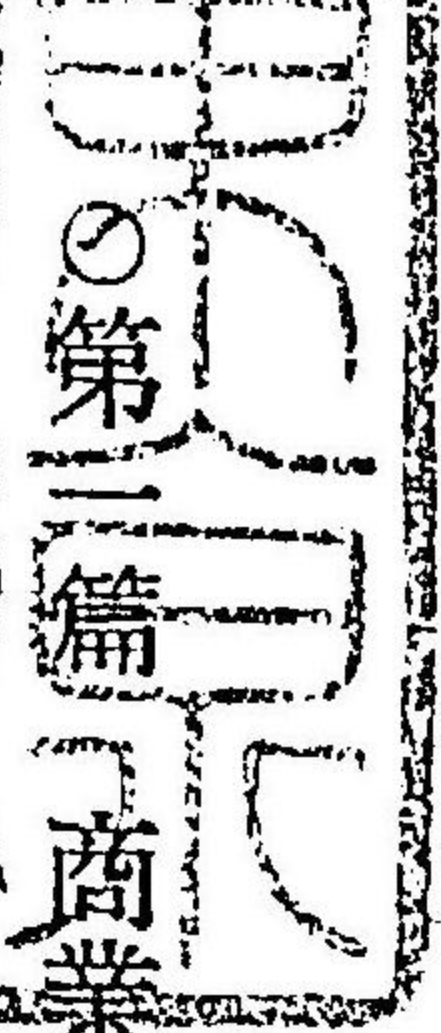
○第三章	義務ノ期滿免除	二五一
------	---------	-----

佛國商社法要義目次畢

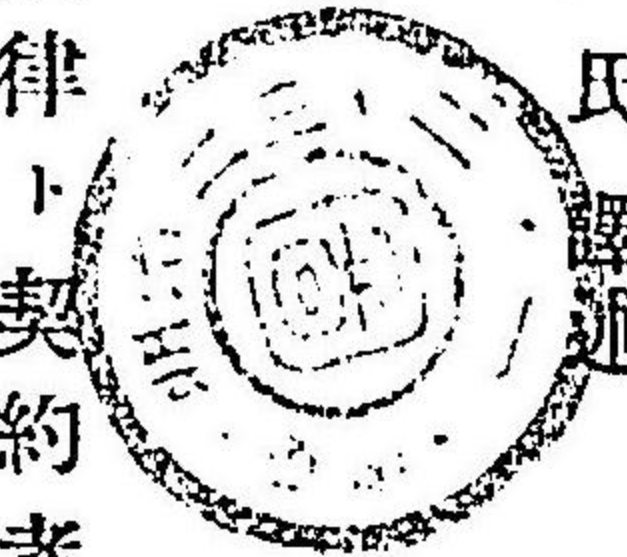
No 793/23

# 佛國商社法要義

佛國法律博士 シエー、アペール氏口述  
日本法律學士 櫻井一久氏譯述



の第二篇 商業會社總論  
第三章 會社ノ定義、會社ニ必要ナル條件



商法第十八條ニ曰ク會社ノ契約ハ民法ト商業ニ關スル法律ト契約者  
ノ約束トシテ規定スト故ニ會社ノ何タルヲ知ラント欲セハ先ツ  
民法ニ因リテサカラス民法第千八百三十二條ニ曰ク會社ハ二人又

ハ數人カ或物ヲ共通シテ之ヨリ生スル利益ヲ分タントスルノ契約ナ  
リト

○會社ハ一ノ契約ナリ故ニ凡テ契約ニ必要ナル條件ハ會社ニモ亦之  
ヲ要ス契約者ノ承諾契約ノ原因契約ノ目的此三者即チ是ナリ又契約

ノ目的法律ニ背クキハ會社ハ成立セサルモノトス例ヘハ密輸入ヲ目的トスル會社ハ法律ノ禁スル所ナリ○茲ニ一ノ疑問アリ即チ會社カ法律ニ禁シタルコトヲ目的トスルキハ其會社ハ無効タリ既ニ無効トナリタル會社ノ社員カ其醜集スヘキ物品ヲ未タ醜集セサルキハ彼唯之ヲ出サ、ルヲ以テ止ム可シト雖モ若シ既ニ之ヲ醜出シタル者ニ返スヘキヤ將タ之ヲ現ニ所持スル者ノ所有トナスヘキヤ今裁判例及論者ノ多數ニ依ルキハ醜出シタル者之ヲ請求スルノ權アリ此權ハ實ニ負擔スヘカラサル物ヲ辯濟シタルキ之ヲ取戻スノ權ニ外ナラサルナリ(一千八百五十五年一月十五日大審院判決)

會社ハ一般ノ契約ニ必要ナル條件ヲ備ヘサルヘカラサルノミナラス其他尙ホ會社ニ特別ナル三箇ノ必要條件アリ○第一普通ト商業トチ問ハス凡テ會社ヲ組織スルニハ其社員各價格アル物品ヲ醜集セサル

ヘカラス而シテ其物品ハ金錢動産不動産等ナリ又工藝ノミチ醜出シテ會社ノ爲メニ勞動スルモ亦一種ノ醜集品トシテ之レヲ許ス或ハ己レノ信用ヲ會社ハ借スノミコテ可ナリト云フノモアルニ至レリ然レハ此信用ハ必ス商業上ニ効驗アル信用即チ之レヲ以テ他ヨリ資本ヲ借入ル、ヲ得ルモノニ限り唯名ヲ出スノミニテ金錢上ノ價格ナキモノ、如キハ醜集物トナスヲ得ス又物品ヲ醜出スルニ其所有權ヲ醜出シ又ハ其使用權享用權ノミチ醜出スルヲ得ヘシ○第二會社ハ利益ヲ收取スルヲ目的トスヘシ故ニ共濟保險會ノ如キハ會社ト稱スルコトヲ得ス何ナレハ共濟保險ハ社員互ニ其損失ヲ償フ而已ニテ利益ヲ收取スルノ目的ナケレハナリト「ンチン」ニ於テモ亦然リト「ンチン」トハ年金ヲ所有スル數多ノ人カ結合シテ前死者ノ年金ハ後存者ノ有ニ歸スヘシトノ約束ヲ爲ス者ニシテ毫モ會員全体カ利益ヲ收取ス

ルノ目的ナケレハナリ○第三各社員ハ利益ノ幾分ヲ取り及ヒ損失ノ幾分ヲ負擔セサルヘカラス故ニ一社員ニ全ク利益ヲ配當セサル會社及ヒ一社員カ全ク損失ヲ負擔セサル會社ハ無効ナリトス然レモ利益ノ配當及ヒ損益負擔ノ割合ハ必スシモ各社員間均一ナルヲ要セス茲ニ一疑問アリ一商人其商店ノ主管ト契約ヲ爲シテ若シ商業隆盛ニシテ利益アルキハ通常ノ給料ノ外ニ利益百分ノ二ヲ主管ニ給スヘシト云ヘリ此契約ニ於テハ上ニ掲ケタル諸條件皆備ハルモノ、如シ第一此契約ハ主人ト主管トノ協力ニテ商買ヲ營ミ利益ヲ博取シ第二主人ハ其資本ヲ出シ主管ハ其勞力ヲ出シ第三利益アルキハ主人主管皆其配當ヲ受ケ損失アルキモ兩人皆負擔スレハナリ然レモ此契約ハ會社ノ契約ニアラス何トナレハ双方未ダ會テ結社ノ意ナク唯主人カ一種ノ方法ヲ以テ主管ノ給料ヲ定メタルニ過キス即チ此契約ハ勞力ノ

賃儲ナリ故ニ會社契約ノ成立ニ三條件ノ必要ナルハ無論ナレモ亦雙方ノ意思ヲ探求セサルヘカラス○此契約ハ已ニ會社契約ト異ナリ且ツ主管ハ社員ニアラサルカ故ニ商業ニ莫大ノ損失ヲ生シ主人ハ其債主ニ對シテ莫大ノ負債ヲ辨償セサルヘカラサルカ如キ場合ニ於テモ主管ハ全ク之ヲ負擔セス又主人破産スルキハ主管ハ其給料等ヲ請求センカ爲メニ他ノ債主ト同等ノ權利ヲ有ス又主人ノ財産ヲ分配スルニ當リ主管ハ其分配ニ預ルコト能ハス又主人ハ其意ニ從テ主管ヲ追放スルコトヲ得ヘシ是レ皆會社ノ契約ニ於テ一社員ノ爲スヘカラサル所ナリ

商業會社ト普通會社トヲ區別スルハ果シテ何ニ依ルヘキヤ曰ク法律ニ明文ナシト雖モ其執ル所ノ事業ニ依リテ之ヲ區別スヘキナリ蓋シ會社ノ事業商事ニ屬スルキハ商業會社タリ民事ニ屬スルキハ普通會

社タリ今商人ト普通人トチ區別スルモ亦其事務ニ依リ以上ハ會社ニ於テ獨リ然ラサルノ理アラシキニ是故ニ商業會社ヲ構成スルコハ社員必ス商人タルヲ要セス又普通會社ヲ結合スルニモ社員必スシモ普通人タルヲ要セサルナリ且ツ會社ノ組織ハ毫モ商業會社ト普通會社トノ區別ニ關係ナキモノナリ例ニハ茲ニ全ク民事ニ屬スル事業ヲ營ム會社アリテ其組織ヲ商業會社ニ取り株券ヲ發シテ資本ヲ集ムルカ如キアルモ此會社ハ商業會社ニアラサルナリ

第二章 商業會社ノ無形人タル事及其結果

普通會社ハ輿論之ヲ無形人ニアラストセリ之ニ反シ商業會社ハ一ノ無形人タルヲ亦疑フヘカラス但シ其分會社ハ例外ナリトス今商業會社ノ無形人タルハ何ニ依リテ之ヲ證スルヤ曰ク法律ニ直接ノ明文ナシト雖モ第一古來ノ習慣ニ於テ已ニ然リ且ツ民法第五百二十九條ニ

曰ク「要求スヘキ金額又ハ動産ヲ目的トスル義務及ヒ訴權銀行業、商業其他工業ニ屬スル會社ノ株式ハ其作業ニ關スル不動産カ會社ニ屬スル時ト雖モ法律ニ因リ之ヲ動産ナリトス」云々ト故ニ銀行業商業又ハ工業ノ會社等概シテ商業會社ニ屬スル株式ハ之ヲ動産トス然ラハ則チ會社ニ屬スル不動産ハ直接ニ社員ニ屬セスシテ別ニ之カ所有者タル者ナカルヘカラス既ニ不動産ニ於テモ社員之カ所有者タラサル以上ハ會社ノ動産ニ於テモ亦社員直接ニ之ヲ有セサルハ勿論ナラン然ラハ則チ會社ノ財産ヲ所有スル者ハ所謂會社ナル一個ノ無形人タラサルヘカラス是レ商業會社ヲ無形人ト爲ス所以ナリ

會社カ無形人タルヨリ生スル結果ハ左ノ如シ

第一會社ハ社員ノ釀出シタル總テノ財産ノ所有者ナリ第二會社ニ釀出シタル不動産ニ付テハ其之ヲ釀出シタル社員ノ資格ニ依リテ法律



ニ定メタル書入質ヲ生スルヲナシ故ニ之ヲ釀出シタル社員妻ヲ娶リ  
又ハ後見人トナルヲアルモ其婦及ヒ被後見人ハ此社員カ初メ釀出シ  
タル不動産ニ付テ法律ニ定メタル書入質ノ權ヲ有スルヲナシ第三會  
社ノ財産ハ會社ニ對スル債主專有ノ抵當タリ今其意ヲ解説センニ茲  
ニ甲乙ノ二人ニテ組織シタル一會社アリ該會社ハ若干ノ財産ト又一  
人ノ債主ヲ有セリ而シテ社員ノ一人ナル甲モ亦一人ノ債主ヲ有ス而  
シテ債主權ノ期限來ルキハ會社ノ債主先ツ一人ニテ會社ノ財産ヲ領  
取シ社員ノ債主ハ之ト共ニ來リテ分配ヲ求ムルヲ得サルナリ  
商業會社ノ財産ハ斯ノ如ク會社ノ債主ノ專有ノ抵當タルヲ以テ會社  
ノ信用之カ爲メニ増加スルヲ莫大ナリ何トナレハ社員ノ一人カ其固  
有ノ財産ヲ維持スルヲ拙劣ニシテ夥多ノ負債ヲ生スルヲアルモ會社  
ノ債主ハ毫モ之ヲ恐ル、ニ足ラス故ニ心ヲ安ンシテ會社ノ債主タル

コトヲ得ヘシ第四若シ會社ハ或人ノ債主トナリ而シテ其人該會社中  
ノ一社員ヘ對シ債主タルコトアルモ是ヲ以テ會社ヘ對シテ相殺ヲ主  
張スルコト能ハス第五會社カ他人ニ對シテ訴訟ヲ起シ及ヒ他人カ會  
社ニ對シテ訴訟ヲ起スキハ社員ノ數ハ幾十百人アルモ其實一人ノ原  
告一人ノ被告ニ止ルノミ故ニ訴訟法第六十九條ニアルカ如ク會社ノ  
敵手原告タルキハ會社本籍ノ地ニ之ヲ訴フルコトヲ得ヘシ各社員ニ  
通知スルニ及ハス  
商業會社ハ商人タルコト勿論ナリ故ニ亦一商人ノ如ク商業ノ帳簿ヲ  
調製スヘシ又會社破産スルキハ通常ノ身代限ノ部ニ入ラスシテ商人  
分散ノ部ニ入ルヘシ

○第三章 商業會社ニ關シテ起ル訴訟ノ裁判管轄

商法ヲ制定シタル時ニ當リテ立法者ハ商業會社ノ社員中ニ起ル訴訟

ハ仲裁人之ヲ判決スヘシト定メタリ(商法第五十一條ヨリ第六十三條マテ)其理由ハ第一、商業會社ノ事ニ就テハ社員皆其事ノ公布セラレスシテ秘密ナランコトヲ欲ス然ルニ裁判所ニ訴フルキハ社事忽チ公布セラル、ノ憂アリ故ニ仲裁人ヲ用ヰテ密カニ之ヲ判決スルノ優レルコト如カスト云フニアリ第二、會社ノ契約ハ社員相信シテ成リシモノナルカ故ニ務メテ平穩ニ事ヲ治ムルヲ要ス而シテ能ク之ヲ調和シ得ル者ハ獨リ仲裁人ノミナリト云フニアリ○然レモ之ヲ經驗ニ徵シテ此理由ハ皆實際ニ行ハレサルコトヲ知リシノミナラス仲裁人ヲ用ヰル爲ニ數多ノ弊害アルヲ發見セリ蓋シ仲裁人ヲ用ヰルキハ之ニ謝金ヲ拂ハサルヘカラス故ニ費用ヲ要スルコト通常ノ裁判所ニ於テスルヨリモ過カニ許多ナリ且ツ法律ニ依ルキハ原被告各一人宛ノ仲裁人ヲ指定スルナリ然レモ此二人ハ互ニ相抵抗シテ容易ニ一致スルコトナシ

於是又第三ノ仲裁人ヲ撰ムノ法アリ之カ爲ニ莫大ノ費用ト時間トヲ要シ其判決ノ如キモ善良ナル結果ヲ得ルコト甚タ稀レナリトス於是一千八百五十六年七月十七日ノ法律ヲ以テ仲裁人ヲ廢シ社員間ノ訴訟モ總テ他ノ商業會社ニ關係スル訴訟ト同シク商事裁判所之ヲ判決スヘシト定メタル故ニ今日ニ在リテハ法律ハ強テ社員ヲシテ仲裁人ノ判決ヲ乞ハシムルカ如キコトナシ然レモ雙方ノ示談ニテ仲裁人ノ判決ヲ乞フハ固ヨリ法律ノ許ス所ナリ但シ未タ訴訟ノ起ラサル前ヨリ社員互ニ契約シテ訴訟ノ起ルキハ必ス仲裁人ノ決斷ヲ仰クヘシト云フコトヲ得ス蓋シ此ノ如キ契約ハ訴訟法第千六條ニ背クカ故ナリ第千六條ニ曰ク仲裁ノ契約ハ必ス諍訟ノ事件及ヒ仲裁人ノ姓名ヲ記セサレハ無効ナリトス今訴訟未タ起ラサル前ニ在リテ何ヲ以テ諍訟ノ事件ヲ知リテ之ヲ契約中ニ記スルコトヲ得ンヤ但シ海上保險會社

ニ於テハ初メヨリ紛議ハ総テ仲裁人ノ判決ニ任スト約スルコトヲ得  
ヘシ(商法第三百三十二條)

○第四章 商業會社ノ種類

商業會社ハ種々ノ點ヨリ之ヲ類別スルコトヲ得ヘシ(第一)其區別ノ最  
モ重要ナルモノハ之ヲ分チテ合名會社無名會社及ヒ差金會社ノ三類  
ト爲スモノ是ナリ合名會社ノ最モ著シキ性質ハ社員悉皆連帶ニテ自  
己財産限リ會社ノ負債ヲ負擔スルコト是ナリ無名會社ノ特殊ノ性質  
ハ社員ノ責任其醜出シタル金高ノミニ止リ其他ニ責任ナキコト是ナ  
リ差金會社ハ以上ノ二會社ヲ混合シタル者ニシテ二種ノ社員ヲ有ス  
其一ハ無限連帶ノ義務ヲ負フ者ナリ之ヲ擔當者ト云フ其一ハ醜出金  
限リノ責任ヲ負フ者ナリ之ヲ金主ト云フ

(第二)ノ類別ハ商業會社ヲ利益會社(又單純ノ會社ト云フ)ト株式會社ト

ノ二類ニ分ツ是ナリ○利益モ株式モ皆社員ノ醜出高ヲ指稱スル語ニ  
過キス即チ社員カ會社ニ對シテ有スル權利ナリ然レモ其醜出高ヲ他  
人ニ讓ルニ通常債主權讓渡ノ手續ヲ用ヰサルヘカヲサルキハ其權利  
ヲ名ケテ利益ト云ヒ特別ノ簡便法ヲ用ヰテ之ヲ讓渡スコトヲ得ルキ  
ハ其權利ヲ名ケテ株式ト云フ

(第三)ノ類別ハ會社ヲ分チテ社員資本ノ不足ナル會社ト社員資本ノ確  
定スル會社トノ二類ニ分ツニ在リ○不定會社ハ一千八百六十七年ノ  
法律ニ因リテ許可セラレタル者ナリ

(第四)ノ類別ハ會社ヲ分チテ公然ノ會社ト共分會社トノ二類ニ分ツ是  
ナリ公然ノ會社トハ凡テ通常ノ會社ナリ即チ會社アルコトヲ世上ニ  
公布シタル會社ヲ云フ共分會社ハ之ニ反シ會社ノ成立ハ社員ノ間ニ  
限ラレ他人ハ其果シテ會社アルヤ否ヤヲ知ルコト能ハサルモノヲ云

フナリ

此他尙ホ二三ノ類別アレモ今之ヲ略ス

## ○第二篇 會社ノ創立及其管理

### ○第一章 合名會社

#### ○第一節 合名會社ノ性質

合名會社、商事會社中最モ普通會社ニ類似スルモノナリ故ニ民法ノ規則ヲ適用スルヲ以テ法律トス然レモ其普通會社ト異ナル性質ハ左ノ二件ニアリトス

第一、各社員ハ會社ノ負債ヲ連帶ニテ負擔ス、○普通會社ニ於テハ全ク之ニ反シ連帶義務ハ特別ノ契約アルニアラサレハ生ズルコトナシ或論者ハ此性質ヲ以テ合名會社ニ必要ノモノトシ契約ニ因リテ連帶義務ヲ免カル、コトヲ得スト説ケリ蓋シ此性ハ左ノ結果ヲ生ズ曰ク會社ノ債主ハ社員ノ數ヨリ一人多ク義務者ヲ有ス即チ社員各自ト會社トチ其義務者トスルナリ然レモ會社ノ債主カ會社ニ對スルノ位置

ト社員ニ對スルノ位置トハ自ラ差異アリ會社ノ債主ハ會社ノ財産ニ就テハ社員ノ債主ニ對シ先取ノ特權ヲ有シ他ノ會社債主ト共分スレ  
 氏社員ノ財産ニ就テハ社員ノ債主ニ共分セサルヘカラス  
 合名會社ニテハ社員連帶義務ヲ有スルカ故ニ其相互ニ固ク信ヲ措ク  
 ニアラサレハ結社スルコト難シ然レ氏已ニ結社シタル上ハ會社ノ信用ノ大ナルハ比類ナキモノナリ  
 統計表ニ由レハ合名會社ハ其數最モ多シトス即チ平均會社ノ三十分  
 ノ二十九ハ名合會社ニシテ他ノ一ハ無名及ヒ差金會社ナリトス  
 第二合名會社ハ社名ヲ有ス○社名トハ社員若干名ノ姓名ヲ集合シテ  
 一名ヲ造リ之ヲ以テ會社ヲ示指スルノ用ニ供スルモノナリ例ヘハ甲  
 乙丙三名ノ會社ナルキハ甲乙丙ノ會社又ハ甲乙商會或ハ甲商會ト稱  
 スルカ如シ但シ社名中ニ社外人ノ姓名ヲ記入スルコト能ハス例ヘハ

兩社員退社シタルキハ猶ホ續テ甲乙丙商會ト稱スルコト能ハス此場  
 合ニハ必ス丙字ヲ除去セサルヘカラス  
 社名ハ何ノ用ヲ爲スヤ曰ク會社ヲ指示スルノ用ニ供スルナリ故ニ會  
 社ト他人ト契約スルキハ必ス社名ヲ記シテ會社カ義務ヲ負擔スルコ  
 トヲ証スヘシ

社名ト社員ノ名トハ互ニ相混スルノ患アルコトナシ何トナレハ社名  
 ニハ必ス二人以上ノ姓名ヲ集合シ又然ラスシテ一社員ノ名ノミヲ用  
 キルキハ必ス商會ノ字ヲ加フルヲ以テナリ

○第二節 會社ノ成立ニ必要ノ條件

會社ノ成立ニハ法律上二個ノ必要條件ヲ設ク  
 第一證書ヲ要ス但シ證書ハ私印證書又ハ公正證書何レヲ用ヰルモ可  
 ナリ○會社ノ成立ニ證書ヲ要スルノ理由如何曰ク會社成立ノ契約ノ

如キハ屢之レアルモノニアラス故ニ證書ヲ要スルモ大ナル不便ヲ見ルモノニアラス且ツ會社ノ契約ハ込ミ入りタルモノニシテ豫メ定ムヘキ條件頗ル多シ若シ證書ニ之ヲ記載セサルキハ後來必ス紛争ヲ生スルノ恐レアラシ故ニ法律ハ豫メ之ヲ防センカ爲メニ證書ニ記載スルコトヲ命スルナリ

此證書ヲ要スルノ條件ハ會社ノ存在ニ必要ナルヤ將タ唯證據ノ爲メナルヤ曰ク證據ノ爲メノミナリ故ニ社員ハ證書ヲ作ラサルキ他ノ方法ニテ之ヲ證スルコトヲ得ヘシ何トナレハ法律上會社ヲ創立スルキハ證據ノ爲メニ證書ヲ作ルヘシ證書ナキキハ會社存在ノ證明ヲ爲スコト能ハストスルハ會社ヲ設立スル者即チ社員ニ對シテノミ云フヲ得ヘキナリ社外ノ人ニアリテハ證書ヲ作ルト否トハ素ヨリ關知スル所ニアラサルカ故ニ法律上社外人ニ對シテ他ノ方法ヲ用ヰテ證スル

コトヲ禁スルノ理ナシ

第二〇法律ハ會社ノ成立ヲ公布スルコトヲ命スル○會社ノ成立ヲ公布スルコトヲ命スルノ理由如何曰ク他人ヲシテ會社ノ設立ヲ知ラシムルニアリ即チ此條件ハ全ク他人ノ利益ノ爲メニ設ケタルモノナリ之ニ反シ第一ノ條件ハ社員ト社外人トヲ合セテ利スル所ノ條件ナリ○公布ノ手續ハ今日ニ在リテハ一千八百六十七年ノ法律第五十五條ヨリ第六十五條マテノ箇條ニ於テ規定セリ然ルニ此法律ニテ會社公布ノ手續ヲ定ムルニ當リ立法者ハ此法律ヲ以テ何レノ會社ニモ一様ニ適用セント欲シタレト此法律ハ無名及ヒ差金會社ニハ適當ノ手續ニテ合名會社ニハ往々不適當ノモノアルヲ免カレサルナリ

此法律ハ二項ノ手續ヨリ成ル○第一項會社契約ノ證書各一通ヲ會社所在ノ地ノ商事裁判所ト治安裁判所ノ書記局トニ備ヘ置クヘシ此手

續ハ全ク無用ノ手續タルヲ免カレス何トナレハ社外人ハ書記局ニ至リ此證書ノ寫シヲ披見スルコト能ハサルヲ以テ公布ノ効全ク無ケレハナリ

第二項ハ之ニ反シ効用顯然タリ即チ會社ハ會社契約證書ノ拔書ヲ新聞紙ニ廣告スル事是ナリ此拔書ニハ社外人ニ必要ナル條件ノミヲ記載スヘキモノトス故ニ利益配當ノ割合ノ如キハ之ニ記載スルコトナシ蓋其記載スヘキ條件左ノ如シ

第一社員ノ姓名 第二社名 第三會社ノ所在地

第四會社ヲ管理スル社員ノ姓名

第五會社資本ノ總高(一千八百六十七年ノ法律第五十七條)○會社ノ資本ヲ記載スルハ果シテ何ノ爲メナルヤ夫レ合名會社ノ債主ハ當ニ會社ノ財産ヲ以テ辨濟セシムルノ權利ヲ有スルノミナラス社員ノ財産

上ニモ亦權利ヲ有セリ然ラハ則チ會社ノ資本ヲ知ルモ特別ノ利益ナキニアラスヤ曰ク眞ニ然リ蓋シ法律上資本ヲ記載スルコトヲ命シタルハ上ニ云ヒシ如ク主トシテ無名及ヒ差金會社ノ爲メニ之ヲ命シタルナリ然レモ法律ニ區別ナキ以上ハ合名會社モ亦同一ノ規定ニ從ハサル可カラサルナリ(千八百七十二年大審院判決) 第六會社開業ノ年月日及ヒ解散ノ年月日 第七商事裁判所及ヒ治安裁判所書記局ニ會社契約ノ證書ヲ納メタル年月日蓋シ此條件モ亦無用ニ屬ス 第八會社ノ性質(其營業)○此拔書ハ司法ニ屬スル事件ヲ公告スル一新聞紙ニ掲載スヘシ且ツ此掲載ハ會社ノ成立ヨリ後一箇月ノ間ニ於テセサルヘカラス

右二條件ノ一ヲ欠クトキハ會社無効ニ屬スルノ制裁アリ然ラハ則チ會社ノ無効ヲ主張スルコトヲ得ル者ハ何人ナルヤ蓋シ法律ニ社員自

ラ會社ノ無効ヲ社外人ニ對シテ主張スルコトヲ許サス其理由ハ右ニ條件ヲ缺キタルハ社員ノ過失ナルニ彼レ自己ノ過失ヲ利シテ他人ヲ困マシムルノ理ナケレハナリ今千八百六十七年ノ法律第五十六條ヲ按スルニ曰ク前條及ヒ本條ニ於テ法律ニ明示シタル規則ヲ履行セサルトキハ利害ヲ有スル者ニ對シテ會社ハ無効タル可シ云々ト蓋シ社員ハ已ニ社外人ニ對シテ會社ノ無効ヲ主張スルコト能ハス然ルニ本條會社ノ存在ニ利害ヲ有スル者トハ意義廣漠ニシテ精密ヲ缺クモノナキニアラス今一々之ヲ列擧センニ其第一ニ數フヘキ者ハ則チ會社ノ債主ナリトス蓋シ會社ノ債主ハ會社ノ存在ニ付テ利害ヲ有スルハ勿論ナレトモ其利益ハ常ニ會社ノ存在ヲ圖ルニ在リテ會社ノ無効ヲ主張スルノ利ハ會社之レアルヲ見ス何トナレハ會社存在スレハ會社財產先取ノ權ヲ有スレトモ無効ト爲ルトキハ此權ヲ失フノ損アリ且

他ニ一モ利益ナケレハナリ然レトモ會社ノ債主カ會社ノ無効ヲ請求セシメテ惟會社條約中某箇條ノ取消ヲ請求スルノ利益ハ之アリ例ヘハ會社ノ契約中ニ社員中甲社員ノミ會社管理ノ權アリトノ一箇條アランニ或ル人乙社員ト契約ヲ爲シテ會社ノ債主ト爲リタルトキ若シ此箇條ニシテ存スルトキハ此契約ハ無効ニシテ或人ハ債主權ヲ失ハサルヘカラス此時倘此箇條未タ公告ノ手續ヲ履テ新聞紙ニ掲載セラレサリシトキハ或人ハ之ヲ口實トシテ此箇條ノ無効ヲ主張シ其債主權ヲ回復スルコトヲ得可シ次ニ會社ノ無効ヲ主張スルコトヲ得ヘキ者ハ社員ノ義務者カ會社ニ對シテ債主タルトキ會社ノ無効ヲ主張シテ其權利者タル社員ニ相殺ノ權ヲ指向ルコトヲ得ヘシ次ニ社員ノ債主ハ會社ノ無効ヲ主張スルコトヲ得ヘキヤ若シ會社ニ債主ナキトキハ社員ノ債主ハ會社ノ無効ヲ他社員ニ對シテ主張スルコトヲ得ヘシ



トハ略輿論ノ是認スル所ナレト別ニ債主アリテ之ニ抗スル場合ニ至  
 リテハ論者ノ議論未ダ一定セス但裁判例ニ於テハ社員ノ債主モ亦會  
 社ノ無効ヲ主張スルコトヲ得ヘシト決定セリ即會社無効ナルトキハ  
 其財産ハ社員ノ財産トナリ社員ノ債主ハ之ヲ分取スルノ權利アルナ  
 リ(千八百五十五年二月十三日大審院判決)千八百六十九年三月六日(セ  
 ーヌ)控訴院判決此裁判例ノ判決ハ果シテ間然スル所ナキヤ請フ之ヲ  
 論セン蓋シ此判決ノ第一ノ理由ハ千八百六十七年ノ法律第五十六條  
 ニ凡テ利害ヲ有スル者ニ對シテ會社ハ無効タルヘシトノ文ニ依リ彼  
 社員ノ債主ハ最モ利害ヲ有スル者ナルコトハ復疑フヘカラスト爲ス  
 ナリ其第二ノ理由ハ社員ノ債主ハ會社設立ノ廣告ニ付テ最モ利益ヲ  
 有セリ何トナレハ其負債者カ會社ヲ組織シテ之レニ加入スルトキハ  
 其會社ニ醸出スル財産ハ此債主ノ復タ如何スヘカラサルモノトナル

カ故ニ彼レ預メ之レヲ知ルコト是モ緊要ナリ然ルニ此緊要ナル公  
 告ヲ爲サ、リシハ此債主ニ對シテ大ニ欠ク所ナリト云ヘシ然則社員  
 債主カ會社ノ無効ヲ主張スルハ決シテ其理ナキコアラサルナリ然レ  
 ト千八百六十七年以前及ヒ今日ニアリテモ尙反對ノ說ヲ唱ヘテ社員  
 ノ債主ハ會社ノ債主ニ對シテ會社ノ無効ヲ主張スルコト能ハスト主  
 張スルモノアリ其理由ニ曰ク社員ノ債主ハ會社ノ債主ニ對シテ主張  
 スヘキ固有ノ權利トテハ毫モ之レナク唯其義務者タル社員ノ權利ヲ  
 主張スルコトヲ得ルノミ(即チ民法第七百六十七條ノ權利是レナリ)  
 然ルニ社員ハ會社ノ債主ニ對シテ會社ノ無効ヲ主張スルノ權ナキハ  
 勿論ナルカ故ニ社員ノ債主モ亦此權アルコトナシト且ツ千八百六十  
 七年法律草案ノ主意ニ因リテ之ヲ觀ルニ會社ノ契約ヲ公布スルハ專  
 ラ會社ト直接ノ關係ヲ生スヘキ者ノ爲メニ設ケタルモノニシテ社員

ノ債主ノ爲メニ設ケタルモノニアラス社員ノ債主カ會社ノ設立ヲ知ルニ利益アルコトハ勿論ナリ然レモ其知リテ利益アルコトハ此ニ止ラス即チ其義務者タル社員ノ所爲ハ利害得失一々已レニ關セサルナシ今一々之ヲ公布スヘキヤ已ニ能ハサルニアラスヤ然則何ソ獨リ會社設立ノ所爲ノミチ公布シテ之レヲ知ラシムルヲ要センヤ

茲ニ又一疑問アリ曰ク一ノ社員ノ債主ハ他ノ社員ニ對シテ會社ノ無効ヲ主張スルコトヲ得ルヤト此問題ハ會社ニ他債主ナキモノト見做シテ云ナリ蓋會社無効トナルトキハ社員ノ債主ハ其義務者タル社員ヨリ會社ニ讓出シタル財産ヲ取ルコトヲ得ルノ利益アリ故ニ此疑問ニ對シテハ輿論此權アリトセリ

尙又一疑問アリ曰ク一ノ社員ハ他ノ社員ニ對シテ會社ノ無効ヲ主張スルノ權ヲ有スヘキヤト今此疑問ヲ一讀スルトキハ疑フヘキ者ナキ

カ如シ何トナレハ公告ノ手續等ハ社員ノ爲メニ設ケタル者ニアラサレハ社員カ會社ノ過失ヲ幸トシテ其無効ヲ主張スルコト能ハサルハ勿論ナルカ如クナレハナリ然レモ熟ラ之ヲ考フルニ社員ヲシテ此權ヲ有セシメサルハ實ニ社員ノ爲メニ苛酷ナリト云ハサルヲ得ス何トナレハ社外人ハ皆其利ノアル所ニ從ツテ會社ノ無効ヲ主張スルモ之ヲ主張セサルモ其隨意ナルニ獨リ社員ハ不完全ノ會社ト雖モ之ヲ維持セサルヘカラストスルハ實際ニ於テ甚ダ不都合ナレハナリ故ニ裁判例ニ於テハ左ノ判決ヲ下セリ曰ク社員ハ既往ニ溯リテ會社ノ無効ヲ主張スルコト能ハサレトモ未來ノ爲メニ之ヲ主張スルコトヲ得ルト(千八百七十三年七月七日大審院判決)若シ會社契約ノ條款ヲ變更スルトキハ其變更ノ簡條ヲ公布スヘシ但シ其公布スヘキ事件ハ他人ニ必要ナル事件ニ限ル即チ會社ノ契約ヲ公布スルトキノ如シ

## ○第三節 合名會社ノ管理

本節ニ於テハ先ツ管理者ハ何人ナルヤヲ説キ次ニ管理者ヲ解任スルコトヲ得ルヤ否ヤヲ説キ終リニ管理者ノ權限ヲ説クヘシ

第一○管理者タル者ハ何人ナルヤ曰ク會社ノ契約中ニ管理者ヲ定メサルトキハ社員悉ク事務ヲ管理スルコトヲ得ヘシ(民法第千八百三十九條以下)若シ已ニ之ヲ定メタルトキハ他ノ社員ハ管理スルコトヲ得ス且ツ管理者ノ管理ヲ拒ムコトヲ得ス

第二○管理者ヲ解任スルコトヲ得ルヤ否ヤ曰ク已ニ管理者ヲ會社契約ニテ定メタルトキハ社員悉ク之ヲ解任スルコトヲ得ス之ヲ解任スルニハ惣社員ノ承諾ヲ要シ且ツ管理者モ亦社員ナルトキハ管理者ノ承諾ヲモ要ス蓋シ會社契約中已ニ之ヲ定メタル以上ハ之ヲ解任スルハ會社ノ契約ヲ變更スル者ニシテ凡テ會社契約ノ條款ヲ變更スルニ

ハ總社員ノ承諾ヲ要スレハナリ然レモ管理者其義務ヲ盡サス詐偽過失ヲ爲シタルトキハ社員ハ民法第千八百八十四條ニ因リテ管理者ノ解任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ヘシ之ニ反シ會社契約中ニテ管理者ヲ指定スルコトナク後ニ之ヲ命シタルモ此管理者ハ通常ノ代理人トモ異ナルコトナシ故ニ代理ノ規則ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得ヘシ而ルニ代理ノ規則ハ本人ノ都合ニヨリ代理人ヲ隨意ニ解任スルコトヲ得ル故ニ社員モ亦管理者ヲ隨意ニ解任スルコトヲ得ヘシ

第三○管理者ノ權限ハ如何曰ク管理者ハ凡テ會社ノ營業ニ關スル事件ヲ行フコトヲ得但シ會社ノ契約ニ於テ管理者ノ權利ヲ制限スルコトヲ得ヘシ管理者ヲ會社ノ契約中ニ定メタルトキハ他ノ社員ハ該管理者ノ行爲ヲ妨クルコトヲ得ス何トナレハ若シ之ヲ妨クルコトヲ得ルトスレハ恰モ一個ノ事件ニ就テ管理者ヲ解任シタルニ等シケレハナリ

之ニ反シ會社契約中ニ定メサル管理者ナルトキハ社員カ其所爲ヲ妨止スルヲ得ルナリ管理者ハ普通ノ法理ニ從ヒ社員ニ對シテ其過失ヨリ生スル損失ヲ負擔セサルヘカラス但シ管理者不注意ニテ會社ノ爲メニ損失ヲ免レサル契約ヲ他人ト取結フトキハ會社ハ此契約ヲ履行セサルヘカラス唯其損失ノ價ヲ管理者ニ要求スルコトヲ得ルノミ時トシテハ數人ノ管理者ヲ置クコトアリ此場合ニ於テハ各管理者ハ會社契約中ニ定メタル各自ノ權限ヲ守ルヘシ若シ契約中ニ其權限ヲ定メサルトキハ各管理者隨意ニ一人ニテ諸事ヲ營ムコトヲ得ヘシ但シ契約中ニ管理者事ヲ行フニハ一統ノ同意ヲ要ストアルトキハ此限ニアラス(民法第千八百五十七條及第千八百五十八條)○管理者ハ會社ノ不動産ヲ賣却シ又ハ書入トスルコトヲ得ヘキヤ(契約中ニ之ヲ言ハサルトキ)曰ク管理者ト雖モ此權利ヲ有セサルナリ何トナレハ會社契

約中定ムル所ノ管理者タルト否ラサルトキ問ハス凡テ管理者ハ社員ニ代リテ事務ヲ執ル者ニシテ所謂代理人ニ過キス而シテ尙シ會社ノ契約中ニ其權限ヲ定メサルトキハ此管理者ハ總理代人ノ權アルモノナリ今民法第千九百八十八條ニ據ルニ凡ソ總理代理ハ不動産ヲ賣却シ又ハ書入トナスノ權ヲ含蓄セス此權利ヲ與フルコトハ必ス特別契約ヲ要ス故ニ管理者ハ會社不動産ヲ賣却シ又ハ書入トナスコトヲ得サルナリ

○第四節 合名會社他人ニ對スルノ義務

○第一款 會社他人ニ對シテ義務ヲ負擔スル爲メニ要スル條件  
 會社カ他人ニ對シテ義務ヲ負擔スルニハ左ノ二箇ノ條件ヲ要ス  
 第一會社ニ義務ヲ負擔セシムルニ足ルヘキ權ヲ有スル管理者カ自ラ此義務ヲ生スル契約ヲナシタルヲ(民法第千八百六十四條)故ニ若シ此

義務カ管理者ニアラサル者ノ所爲ヨリ生シ又ハ管理者カ權限ヲ越ヘテ之ヲ作リタルトキハ會社ハ此義務ヲ負擔スルニ及ハス然レモ會社若シ此義務ヲ承認スルトキハ會社ハ其義務ノ全部ヲ負擔スヘシ又之ヲ承認セスト雖モ此義務ヲ生シタル契約ニヨリテ會社利益ヲ被リタルトキハ其利得ニ滿ツルマテノ義務ヲ負擔スヘシ(民法第千八百六十四條)

第二契約ヲナシタル管理者カ會社ノ名義ニテ之ヲ爲シタルハ故ニ管理者自己ノ名義即チ一箇人ノ名義ヲ以テ契約シタルトキハ會社ハ責任ヲ負フコトナシ茲ニ人アリ會社ト契約ヲナシタリト主張シ會社ハ然ラスト主張スルトキハ如何ニシテ之ヲ判決スヘキヤ曰ク若シ此契約口頭ノ契約ニシテ證書ナキトキハ裁判官事實ヲ探求シテ之ヲ判決スヘシ若シ證書アルトキハ之ヲ判決スルコト容易ナリ何トナレハ管

理者會社ノ爲メニ契約セシトキハ會社ノ名義即チ社名ヲ證書ニ記載スヘク自己ノ爲メニ契約セシトキハ自己ノ姓名ヲ記載スヘケレハナリ茲ニ一疑問アリ管理者ハ社名ヲ用ヒテ契約ヲナシタリト雖モ其實此契約ヨリ生スル利益ハ已レ之ヲ占取セリ此場合ニ於テ會社ハ果シテ他人ニ對シテ義務ヲ負擔スヘキヤ曰ク予ノ考フル所ヲ以テスレハ左ノ如ク答フヘシ

第一〇若シ管理者ト契約ヲナシタル者管理者ハ詐僞ヲ發見スルコト能ハサリシトキハ會社ハ義務ヲ負擔セサルヘカラス例ヘハ管理者會社ノ名ヲ用ヒテ或人ヨリ金ヲ借受ケ之ヲ其私用ニ供シタリトセン此時ニ當リ此人豈ニ其詐僞ヲ知ルコトヲ得ンヤ而シテ此場合ニ臨ミ會社義務ヲ負擔セストスルトキハ該貸主ハ最初先ツ管理者カ如何ナル用ニ此金ヲ供スルヤヲ探究セサルヘカラス是レ豈ニ實際ニ行ハルヘキ

コトナランヤ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ會社ハ義務ヲ負擔セサルヘ  
 カラス  
 第二〇契約者ハ管理者ノ詐僞即チ管理者カ會社ノ名義ヲ用ヒテ自己ノ  
 私利ヲ營ムコトヲ知レリ然レモ後來會社ニ義務ヲ負擔セシメント欲  
 シテ此契約ヲ爲セリトセン例ハ管理者自己ノ名ヲ以テ或人ニ金ヲ  
 借ランコトヲ乞フ或人之ヲ謝絶シタルニヨリ管理者ハ更ニ會社ノ名  
 義ヲ用ヒテ借受ケンコトヲ約シ遂ニ金ヲ貸附セシメタルカ如キ場合  
 是ナリ此場合ニ於テハ會社固ヨリ義務ヲ負擔スルノ理ナシ  
 第三〇管理者ハ自己ノ負債ヲ辨濟スルカ爲メニ會社ヨリ發スル手形ニ  
 會社ノ印ヲ押シテ之レヲ債主ニ交付セリ此場合ニ於テ會社果シテ義  
 務ヲ負擔シ手形面ノ金額ヲ辨濟スヘキヤ此場合ハ第二ノ場合ト異ナ  
 レリ第二ノ場合ニ於テハ契約者全ク管理者ノ詐僞ヲ知レリ然レモ第

三ノ場合ニ於テハ契約者カ果シテ管理者ノ詐僞ナルコトヲ知リシヤ  
 否ヤ會社之ヲ證明スルコト能ハサルナリ故ニ予ハ此第三ノ場合ニ於  
 テハ第二ノ場合ニ反シ會社ハ義務ヲ負擔セサルヘカラスト思考ス蓋  
 シ管理者ノ所爲ハ詐僞ナルヤ否ヤ未タ之ヲ知ルヘカラスト或ハ勿論詐  
 僞ノ所爲タリト云フモ過言ニアラサルヘシ然レモ熟ラ之ヲ考フルニ  
 或ハ他ノ社員カ會社ノ手形ヲ管理者ノ私用ニ供スルコトヲ許シタル  
 ヤモ知ルヘカラスト何トナレハ管理者ノ身代不如意ニシテ遂ニ分産ニ  
 至ル如キコトアルトキハ會社ノ爲メニ甚タ不都合ナルヲ以テ社員ハ  
 之ヲ防カン爲メ會社手形ノ私用ヲ許スコト間々其例アレハナリ故ニ  
 契約者此事アリシヲ信シテ手形ヲ領掌セシヤ是レ亦未タ知ルヘカラ  
 ス然ラハ則チ會社ハ契約者カ管理者ノ詐僞ヲ知レリト斷言スルコト  
 チ得サルヲ以テ義務ノ負擔ヲ免カル、コト能ハスト決セサルヲ得サ

ルナリ況ンヤ此ノ如ク決セサレハ他人ハ容易ニ管理者ト契約セサル  
カ故ニ會社ノ爲メモ亦此ノ如ク決スルヲ以テ最モ利アリトスルニ  
於テチヤ(千八百六十年二月二十一日大審院判決)

### ○第二款 會社カ負擔スル義務ノ結果

會社ノ債主ハ二個ノ訴權ヲ有ス第一會社ニ對スル訴權第二社員ニ對  
スル訴權債主ハ先ツ負債ノ全額ヲ會社ニ要求シ會社辨濟スルコト能  
ハサルトキハ一社員ニ對シテ之ヲ要求スルコトヲ得ヘシ若シ一社員  
悉皆辨濟ヲ了シタルトキハ此社員カ他ノ社員ニ對シテ各自ノ分擔額  
ヲ請求スルヲ得ルハ勿論ナリ社員ノ債主ノ權利ハ如何ナルモノナリ  
ヤ曰ク社員ノ債主カ假令會社ニ債主ナキトキト雖モ會社ノ財産ヲ取  
ルコト能ハサルハ明カナリ故ニ義務者タル社員カ破産シタルトキハ  
其債主ハ止タ此社員カ會社ヨリ取ルヘキ利益金ヲ差押フルコトヲ得

ルノミ且ツ社員ノ債主ハ此社員カ會社ニ有スル權利ヲ賣却スルコト  
ヲ得ス何トナレハ合名會社ハ素ト社員ノ人物ヲ觀察シテ組織シタル  
者ナルカ故ニ今他人一社員ニ代リテ入社スルカ如キハ會社ノ性質ニ  
於テ許サ、ル所ナレハナリ

今社員ノ權利讓渡ニ就テ一言ヲ述ヘ以テ此章ヲ終ルヘシ上ニ言ヒシ  
如ク合名會社ノ性質ニ於テハ社員其權利ヲ人ニ讓渡スコト能ハサル  
ハ然ラサルヲ得サルモノアルナリ然レ左ノ二件ヲ備フルトキハ讓  
渡ヲ許サ、ルヘカラス第一社員悉皆之ヲ承諾スルコト第二此讓渡ア  
リシコトヲ公告スルコト(蓋讓渡アルトキハ會社ノ契約變更シタルニ  
均シケレハナリ)且ツ以上ノ二件ヲ備ヘテ讓渡シタル時ト雖モ退社員  
ハ決シテ會社ノ債主ニ對シテ義務ヲ免カル、コト能ハス何トナレハ  
此債主ハ此社員アルコトヲ知リテ契約ヲナシタルモノナレハナリ但

シ讓渡ノ公告アリシ後會社ノ債主トナリタル者ニ對シテハ退社員ハ義務ヲ負擔スルコトナシ又時トシテハ一社員他ノ社員ノ承諾ヲ得ス且ツ公告ノ手續ヲモ履行セスシテ社員權利ノ全部又ハ幾分ヲ他人ニ讓渡スコトアリ此場合ニ於テ讓渡人讓受人會社ニ關係ノ都合如何曰ク此讓渡ハ讓渡シタル者ト讓受ケタル者トノ間コノミ効アリテ其他ニ對シテハ無効ナリトス故ニ此讓受人ハ會社ノ事務ニ關スルコト能ハス又會社ノ債主ニ對シテ義務ヲ負擔スルコトナシ但シ債主タル者民法第千百六十六條ノ權利ヲ主張スルキハ此限ニアラス又讓受人ハ讓渡人ニ對シテ權利ヲ主張シ及ヒ讓渡人ハ讓受人ニ對シテ權利ヲ主張スルコトヲ得ヘシ

## ○第二章 無名會社

### ○第一節 無名會社特有ノ性質

無名會社ハ三箇ノ特有性質ヲ備フ

第一性質○各社員ノ責任ハ其會社ニ指出シタル價額ヲ超過スルコトナシ合名會社ニ於テハ各社員ノ責任無限ナルハ既ニ之ヲ説ケリ今無名會社ニ於テハ全ク之ニ反セリ無名會社ニハ役員アリテ社務ヲ管理シ會社ノ名ヲ以テ社外人ト契約ヲナスナリ而シテ役員カ會社ノ名ヲ以テ社外人ト契約スルトキハ役員自ラ之レヨリ生スル義務ヲ負擔セサルハ猶ホ代理人カ義務ヲ負擔セサルカコトシ然レモ役員若シ過失アルキハ過失ノ爲メニ特別ノ責任ヲ負フコトアリ但シ其特別ノ責任ハ社員タルノ資格ヨリ生スルニアラスシテ代理人タルノ資格ヨリ生ス蓋シ會社ノ役員ハ會社ノ代理人タレハナリ無名會社第一ノ性質ハ實ニ此會社ヲシテ大事業ヲ營ムニ恰好ノ會社クラシムルモノナリ何ントナレハ茲ニ若干ノ資金ヲ有スルモノアラン其人商業ヲ營ムコト



ヲ欲セスト雖モ亦此資金ヲ用ヰテ若干ノ利益ヲ獲ント欲セリ然レモ之レカ爲メ其他ノ財産ヲ併セ失フノ危険ヲ犯スコトヲ欲セス此場合ニ於テハ蓋シ其資金ヲ無名會社ニ出スニ如クハナシ然ルモ其會社利益ヲ擄取スレハ其人亦利益ノ一部ヲ得會社損失ヲ生スルモ其人會社ニ醜出シタル資金ノ外一錢モ失フコトナシ此ノ如キ人物ハ世間最モ多シ故ニ此輩ノ資金ヲ集ルトキハ忽チ莫大ノ資本ヲ得ヘシ之ニ反シ社員ハ皆無限ノ義務ヲ負擔セサルヘカラストスルトキハ入社セント欲スル者先ツ他ノ社員ノ人物ヲ檢シ之ニ信ヲ置クニアラサレハ容易ニ入社セサルヘシ此ノ如クナレハ巨多ノ資本ヲ集ムルコト頗ル難シト云フヘシ且ツ茲ニ注意スヘキ事件ハ巨多ノ資本ヲ集メテ大事業ヲ營ム會社ノ爲メニハ其中一二無限責任ノ社員アルモ是レ實ニ大海ノ一滴ニシテ之ヲ以テ會社ノ信用ヲ増スカ如キコトアルコトナシ若シ

夫レ一小會社ノ資本多カラサルモノニテハ社員カ無限ノ責任ヲ負フカ爲メ會社ノ信用ヲ増スコト莫大ナルハ疑フヘカラスト問フ然ラハ則無名會社ノ信用ヲ得ル理由ハ如何曰ク會社ト契約ヲ爲サントスル社外人カ會社ニ信ヲ措クハ左ノ諸點ニ在リ第一資本ノ巨多ナルコト第二其事業ヲ公告スルニ勉ムルヲ蓋シ合名會社ノ事業ヲ秘密ニスルカ爲メニ社外人ハ容易ニ其内情ヲ知ルコト能ハサルニ反シ無名會社ハ其營業ノ狀況ヲ報告スルヲ屢ナル(佛蘭西銀行ハ八日毎ニ一回ノ報告ヲ爲ス)ヲ以テ之ト契約セント欲スル者ハ其内情ヲ明知シテ後之ヲ行フヲ得テ復タ不安心ノコトアルナシ故ニ其社員ノ如キモ亦會社ノ事業退縮スルトキハ忽チ其株ヲ賣却スルノ機會ヲ失フヲナカルヘキナリ第三會社カ他人ヲ欺クヲ防ク爲ニ法律ニ制定シタル豫防法アルト是無名會社ノ信用ヲ博スル理由ナリ然レモ法律上豫防法アルニ關セ

ス詐偽ノ所爲ハ合名會社ニ於テヨリモ無名會社ニ行ハルコト最モ容易ナリトス是又知ラスンハアルヘカラス(詐偽豫防法ハ載セテ千八百六十七年法律第五十六條乃至六十三條ニ在リ)

第二性質 無名會社ハ社名ヲ有セス蓋シ此會社ニハ無限責任ヲ負フノ社員一人モアルコトナシ又自己退社シテ他人ヲシテ自己ニ代ラシムルコトヲ得サルモノナシ此ノ如ク新陳交代スル社員ノ姓名ヲ合シテ姓名ヲ造ルモ毫モ益アルヲ見サレハナリ然レモ無名會社モ亦之ヲ指示スルノ社號ナカルヘカラス其社號ハ或ハ隨意ニ之ヲ造ルモノアリ鳳凰會社太陽會社太陰會社等ノ如シ或ハ其營業ヲ以テ社號トナスモノアリ即鑛業會社運輸會社鐵道會社等ノ如シ但シ此社號ハ彼ノ社名ニアラス故ニ會社カ他人ト契約ヲ爲ス片社號ヲ以テ署判スルコト能ハス必ス役員ノ署名ヲ用ユヘキモノナリ

第三性質 無名會社ノ資本ハ株金ヲ以テ組成ス社員ノ會社ニ有スル權利即其指出シタル割前ハ合名會社ニテ之ヲ利益(エンテレー)ト云ヒ無名會社ニテハ之ヲ株式ト云フ利益ト株式トノ差ハ何レニ在リヤ又何ヲ以テ利益トシ何ヲ以テ株式トスルヤ是會社法ノ一大難問ナリ今先ツ此問題ニ付利益タルト株式タルトニヨリテ實際利益上ニ如何ナル區別ヲ生スルヤヲ示シ而シテ後問題ニ應スヘシ第一(エンテレー)會社ハ普通ノ法律ヲ以テ之ヲ規定シ株式會社ハ千八百五十六年及ヒ千八百六十七年ノ二法律ヲ以テ之ヲ規定ス第二讓渡ノ場合ニ於テ其之ヲ讓渡ス者カ利益ナルト株式ナルトニ隨ヒ政府ニ收ムヘキ租稅ノ額等シカラス且株式ノ讓渡ハ普通ノコトナレモ利益ニ至リテハ之ヲ讓渡スコト甚タ稀レナリ或ル論者ハ利益ト株式トヲ區別シテ曰ク利益トハ合名會社及ヒ單純差金會社又ハ利益差金會社ニ於テ社員ノ有スル權

利ナリ株式ハ無名會社及ヒ株式差金會社ニ於テ社員ノ有スル權利ナリト是實ニ勿論ノコナリ然レモ此問題ヲ生スル理由ハ會社ノ何レノ種類ニ屬スルヤヲ知ラサルニ因ル例ヘハ茲ニ一ノ差金會社アラシ然ルニ差金會社ニハ二類アリ一ハ利益差金會社(又單純ノ差金會社ト云フ)ニシテ一ハ株式差金會社ナリ今此差金會社ハ何レノ部類ニ屬スルヤヲ知ラント欲セハ如何ニシテ之ヲ知ルコトヲ得ヘキヤ論者ノ說ハ之ヲ知ルニ足ラサルナリ次ニ又左ノ說ヲ爲ス者アリ曰ク社員ノ責任其權利ノ額ニ限ルルハ之ヲ株式トシ之ニ反シ無限ナルルハ之ヲ利益トスト蓋シ論者ノ言ノ如ク合名會社ニテハ社員ノ責任無限ニシテ其權利ハ實ニ利益ナリ而シテ無名會社ニテハ社員ノ責任其權利ノ額ニ限リテ其權利ハ株式ナリ故ニ此點ニ於テハ論者ノ說毫モ間然スル所ナシ然レモ彼ノ利益差金會社中ニ間々某社員ハ其權利ノ利益タルニ關

係セス其權利ノ額ノ外ニ責任ヲ負フコトナキ者アリ此ニ至リテ論者ノ說ヲ適用スルコト能ハサルヲ如何センヤ故ニ此二說ハ取ルニ足ラサルモノナリ予ノ說ハ即チ左ノ如シ曰ク會社ノ契約ニ因リテ會社ノ設立ハ社員ノ人物ヲ觀察シテ成リシモノニアラサルコトヲ證シ得ルルハ社員ノ權利ハ株式ナリ之ニ反シ社員ノ人物ヲ觀察シ初メテ結社シタルコトヲ證シ得ルルハ社員ノ權利ハ利益ナリ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ會社ニ二種アリ一ハ社員ノ人物ヲ信用スルニヨリ成ルモノ一ハ資本ヲ重ンシテ社員ノ何人タルヲ問ハサルモノ是ナリ即チ一ハ人物ノ會社ト云ヒ一ハ資本ノ會社ト云フヘシ而シテ人物ノ會社ハ利益會社ニシテ資本ノ會社ハ株式會社ナリ此區別ヨリシテ左ノ結果ヲ生ス曰ク株式ノ讓渡ハ容易ナルヲ要ス蓋シ株式ニシテ若シ容易ニ讓渡サレサルルハ是レ社員ノ人物ヲ重ンシ最初ノ社員ヲシテ永ク會社ニ在ラシメン

トスルニ異ナラサレハナリ株式ヲ讓渡スノ方法ハ種々アリ或ハ手ヨリ手ニ渡スヲ以テ足レリトスルモノアリ或ハ會社ノ帳簿ニ登記スルヲ要スルモノアリ株式會社ハ社員ニ分ツニ證書ヲ以テス此證書ハ其權利ヲ代表スルモノニシテ即チ株券ト名ツクルモノナリ社員ハ其權利ノ多少ニヨリテ或ハ一ノ證書ヲ有シ或ハ數多ノ證書ヲ有ス而シテ社員其權利ヲ人ニ讓ラント欲セハ此證書ヲ讓渡スヲ猶一ノ動産ヲ讓渡スカ如シ利益トハ株式ニ反シ讓渡スヘカラサルヲ通則トス蓋シ會社ハ人物ヲ觀察シテ始メテ成リシモノナレハナリ故ニ此種ノ會社ニテハ利益ヲ代表スルニ證書ヲ以テスルカ如キヲナシ但シ稀ニ會社契約中ニ利益ノ讓渡ヲ許スヲアリ然レモ此場合ニテモ尙ホ容易ニ讓渡スヲ能ハス何トナレハ若シ讓渡容易ナル片ハ此會社ハ社員ノ人物ヲ觀察シテ成リシモノナリト云フヲ得サレハナリ株式會社ノ資本ハ大

抵之ヲ若干株式ニ分チテ各株式同額トナスヲ常トス各株式同額ナルカ故ニ各株式皆同様ノ利益配當ヲ受ケ又同價額ヲ有スルナリ蓋此ノ如クスル所以ノモノハ元來株式ハ之ヲ讓渡スヘキモノナルヲ以テ其價額ヲ均一ニシテ之ニ相場ヲ附スルコト容易ナラシメンカ爲メナリ其他各株價額ヲ同一ニスルノ利益ハ則チ社員會議ノ時其投票權ヲ計算スルニ甚ク便利ナレハナリ蓋社員ノ權利ハ各等シカラス故ニ其投票權ヲ有スルコトモ亦異ナラサルヲ得ス若各株式皆同株ナルトキハ社員權利ノ多少ハ其有スル株數ヲ觀テ直チニ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ故ニ一株ヲ有スル者ハ投票權一ヲ有シ二株ヲ有スル者ハ投票權二ヲ有スト定ムルコトヲ得ヘシ此ノ如クスレハ投票ヲ計算スルニ甚ク便利ナリ其外各株式ヲ同額ニスルノ利益ハ尙一アリ即チ會社カ利益配當ノトキ各株式同額ナルトキハ計算極メテ簡便ナリ利益ハ株式ニ反

シ利益同額ナルコトナシ蓋利益會社ハ如キハ知己相寄リテ各其所持ノ物品等ヲ持寄ルノミナラス其一人ハ他社員ヨリモ信用ヲ有スルコト大ニシテ其一人ハ才能ヲ有スルコト超越スルカ如キコトアルヲ常トス故ニ各社員ノ權利ヲ精細ニ調査シテ各利益ヲ同額ニスルカ如キハ實際ニ於テ能ハサル所ナリ且ツ此種ノ會社ハ社員ノ數僅少ナルヲ以テ投票又ハ利益金配當ノ時ノ如キ容易ニ計算ヲナスコトヲ得ヘシ然レモ利益ヲ同額ニナスコト決シテ能ハサルニハアラサルナリ(ブウドン氏著ルヴェーケルチツク)第三十四卷第百三十四項以下及千八百六十八年十二月二十九日大審院三局會議ノ判決ヲ參看スヘシ)

○第二節 資本ノ組織

今第二節ニテ將サニ說カントスル所ノ規則ハ當ニ無名會社及之ト大同小異アル株式差金會社ニ適用スヘキモノ、ミナラス全ク會社ニア

ラサルモノニモ適用スヘキ規則ナリ例ハ政府ノ發行スル所ノ公債証書其他總テ債券類及手形ノ類ニ適用スヘキモノ是ナリ

無名會社ノ資本ハ二種ノ資本ヲ以テ組織ス因テ此節ヲ二款ニ分チ説クヘシ第一○款株式資本此資本ハ此會社ヲ設立スルニ必要ノ資本ナリ第二○款負債資本此資本ハ必要ノ資本ニアラス此種ノ資本ヲ集ムルモ集メサルモ會社ノ隨意ナリ

○第一款 株式資本

今此款ヲ解説スルニ四問題ヲ設ケテ一々之ニ答フヘシ

第一問 如何シテ株式資本ヲ組織スルヤ

茲ニ一大會社ヲ設立セムトスルアリ而シテ此會社ハ一千万法ノ資本ヲ要ス此場合ニ於テ會社ハ一株五百法ノ株式四万ヲ造リテ一千万法ヲ得ヘシ而シテ此四万ノ株券ヲ悉皆賣却シ得タルトキハ會社ノ株式

資本全ク組織シタル者ナリ然レモ此五百法ト云フハ虚價ニシテ株ノ實價ニアラス蓋株券ハ猶ホ公債証書ノコトシ三分利子ノ公債トハ政府カ券面百法ニ付毎年三法ノ利子ヲ拂ヒ竟ニ元金百法ヲ拂フテ義務ヲ消盡スヘキ公債ナリ而シテ此公債ハ發行ノ初メ百法ノ實價ヲ以テ賣却セスシテ六十法乃至七八十法ノ價ヲ以テ賣却スルモノナリ今會社ノ發行スル株券モ亦然リ券面ノ金額ハ五百法ナレモ其實四百八十分法ニアラサレハ賣却スルコトヲ得ズ然レモ會社解散ノ期限ニ至レハ則チ券面ノ金額五百法ヲ辨濟スヘキモノナリ又各株券ニハ番號ヲ附シテ互ニ相混スルコトナカラシム又會社ノ契約ニテ大概ハ株券ヲ分割スヘカラスト定ム分割スヘカラストハ一株ヲ二分シテ其一分ヲ賣却スルカ如キヲ能ハスト云フノ意ナリ若之ヲ分割賣却スル者アルモ是レ賣者ト買者トノ間ニ効アリテ會社ニ對シテ効ナキ者ナリ又株券

ハ分割スヘカラスルカ故ニ一株ヲ有スル株主死シテ數人ノ相續人アルモ各相續人皆株主トナルコト能ハス只其一人ニ全株ヲ附與セサルヘカラス蓋株ヲ分割スヘカラストスル所以ハ此ノ如クセサレハ利益金配當及株主投票等ニ大不便ヲ生スルカ故ナリ最初金ヲ出シテ株式ヲ買取リタル株主ノ外ニ品物ヲ出シテ株主トナルモノアリ此場合ニ於テハ此品物ノ價額ヲ定メテ之ニ附與スヘキ株數ヲ定メサルヘカラス且ツ適當ノ價額ヲ此品物ニ附スルノ弊實際ニ生スルカ故ニ法律ハ夙ニ之ヲ豫防スルノ法ヲ設ケタリ

## 第二問 株主ノ權利ハ如何

第一ノ權利○株主ハ會社純益金ノ配當ヲ受クルノ權アリ而シテ別ニ各株主ハ其所持ノ株數ニ應シテ多少ノ利足金ヲ受クルナリ會社カ利益ヲ配當スルハ其營業ニ於テ利ヲ得タルトキニ限ルヘキハ尋常ノコ

トナレト時トシテハ會社利ヲ得サルニ利益金ヲ配當スルコトアリ其所以ハ會社利益金ヲ配當セサルトキハ人皆此會社ノ損失ヲ醸生シタルヲ知ルカ故ニ會社ノ役員ハ世人ヲシテ會社ノ隆盛ナルヲ信セシメント欲シ虚偽ノ利益ヲ配當スルニヨルナリ法律ハ虚偽ノ利益金ヲ配當スル者ニ對シテ嚴重ノ方法ヲ設ケ之ヲ罰スルコト甚タ嚴ナリ盖虚偽ノ利益金ヲ配當スルトキハ世人ヲ欺キ故ナク株式ノ價ヲ騰貴セシムルノ罪アリ又會社ト契約ヲ爲ス者ヲ欺クノ罪アリ何トナレハ虚偽ノ利益金ヲ配當スルトキハ會社ノ資本之カ爲メ滅却スルハ勿論ナリ然レト會社ト契約ヲナス者ハ此利益配當ノ虚偽ナルヲ知ラサル故ニ會社ノ廣告シタル資本ハ尙ホ依然トシテ存セリト思料スヘケレハナリ是レ法律上虚偽ノ利益ヲ配當スル者ニ對シテ頗ル嚴重ノ法ヲ設クル所以ナリ然レト法律ハ虚偽ノ利益ヲ配當スル者ニ對シ如此嚴ナ

ルニ反シ之ヲ受クル株主ニ對シテハ甚タ寛ナリ盖株主虚偽タルヲ知リテ利益ノ配當ヲ受ケタルトキハ之ヲ返却セシムト雖モ若シ知ラスシテ之ヲ受ケタルトキハ假令會社ノ債主カ虚偽ノ利益金ノ返却ヲ請求スルモ法律上之ヲ返却セシムルヲナシ(千八百六十七年ノ法律第十條)或人ハ善意ノ株主ニ對シテ斯ク法律ノ寛宥ナル所以ヲ説テ曰ク善意ニテ虚偽ノ利益配當ヲ受ケタル者ハ猶ホ善意ノ占有者カ菓實ヲ收取シタルニ同シト亦一理アルニ似タリ巨大ナル會社ニテ利益金ヲ配當スルニハ尋常ノ會社ノ如ク毎一年一度即年末ニ利益ヲ配當スルノ方法ヲ用ヒス別ニ一方法ヲ用ユ其法ハ株券ニ附スルニ二種ノ小札ヲ以テシ其一ハ株金ノ利足ヲ領収スルノ証トシ其一ハ利益ノ配當ヲ受クルノ証トス例ヘハ株ノ金額ヲ五百法トスレハ之ヲ所有スル者毎七年月ニ於テ五百法ノ利息(年四分)ト及翌年ノ一月ニ於テ別ニ利益金ノ配

當チ受クルナリ然レモ利息ト云ヒ利益ト云フ皆會社純益金ノ配當ニ過キス唯之ヲ配當スルノ方法稍尋常ノ會社ニ異ナルノミ蓋此ノ如ク利益配當ニ特別ノ法ヲ設クル所以ノ者ハ株主タラントスル者ニシテ其ノ指出シタル金額ノ利息丈ケハ常ニ之ヲ得ント欲スル者世ニ其人多キヲ以テ此方法ヲ設ケ此等ノ株主ヲ蒐集セント欲スルニ過キス而シテ此方法ハ決シテ法律ヲ犯スコトナシ然レモ巨大ナル會社ニテハ其營業上未ダ利益ヲ得サルニ先ヲ利息ノ配當ヲ爲スモノアリ例ハ鐵道會社ノ如シ創立ノ際數年間ハ出スコトアルモ曾テ入ルヘキモノナキニ關セス創立ノ際ヨリ直ニ利息ノ配當ヲ爲スコトアリ是レ果シテ法律ノ許ス所ナリヤ否請フ此疑問ハ後日ヲ待テ之ヲ論セン

第二ノ權利○株主ハ株主總會ニ出席シテ會議ニ關スルコトヲ得(株主總會ノ職務ハ後段ニ於テ之ヲ説明スヘシ)時トシテハ會議ニ參與スル

コハ若干株以上ヲ所有セサルヘカラスト定ルコトアリ

第三ノ權利○株主ハ會社解散スルトキ其所持ノ株數ニ應シテ會社資本ノ配當ヲ受クルコトヲ得且ツ會社ハ其解散ノ時期ニ至ルニ及ヒ各株主ヲシテ皆株券面ノ金額ヲ領取セシメサルヘカラスト而シテ尙ホ剩餘アルトキハ之ヲ株主ニ分配スヘシ然レモ實際ニテハ資本ノ返却ハ大抵會社存在ノ時ヨリシテ之ヲ行フ其方法ハ會社解散前ヨリ例ヘハ抽籤ノ法等ヲ以テ毎年若干ノ株ヲ辨濟シ次第ニ其數ヲ減スルニアリ蓋シ如此スル所以ノモノハ會社解散ノトキニ及ンテ悉ク株ヲ辨濟スルコト能ハサルカ如キ患ヲ防クニアルナリ就中鐵道會社ノ如キニ至テハ數十年ヲ永續シテ會社解散ノ時期ニ近クトキハ其所有ノ鐵道建物機械等皆大ニ價額ヲ減シテ會社ノ資本ハ爲メニ減少スヘシ此會社ニシテ毎年ノ利益金ヲ悉ク配當シ終リタルトキハ解散ノ時ニ及ンテ



株主ニ返済スヘキ金額不足スルノ恐レアリ是レ預メ毎年若干ノ株ヲ  
辨済スル所以ナリ

### 第三問 株主ノ義務ハ如何

株主ハ一ノ義務ヲ有スルノミ即チ其約シタル金額ヲ會社ニ収ムルノ  
義務是ナリ蓋シ株主株式ヲ買フニ當リ直チニ其全額ヲ會社ニ拂フコ  
トナシ時トシテハ最初一錢ヲモ拂フコトナシ時トシテハ幾分ヲ拂フ  
コトアリ株主ハ所謂未タ拂ハサル金額ヲ會社ニ拂フノ義務アルノミ  
株ノ金額ハ概ネ數期ニ分納スルヲ常トス又或ル種類ノ會社ニテハ一  
度株ノ一部ヲ拂ヒタル後其餘額ハ會社之ヲ要スル時ニ至リ拂フヘシ  
ト定ムルコトアリ例ヘハ保險會社ノ如キハ株金ノ入用ナルハ非常ノ  
災害生シテ許多ノ死人アリ又ハ許多ノ家屋燒失シタル等ノ時ニアリ  
故ニ保險會社コテハ初メヨリ悉皆株金ヲ収ムルコトナシ又會社ノ契

約中ニ通常左ノ箇條ヲ載スルヲ例トセリ曰ク定期ヲ株金ニ収メサル  
者アルトキハ其株式ヲ賣却スヘシト蓋シ是ハ所謂義務者カ辨済ヲ爲  
サ、ルトキハ其財産ヲ賣却シテ負債ノ金額ヲ收取スルノ尋常手續ヲ  
用ユルトキハ實際ニ於テ不便ヲ生スルコト大ナルカ故ニ株式ヲ他ニ  
賣却スルノ簡便法ヲ用ルナリ然レモ是レ會社ノ株主ニ對スル權利ニ  
シテ株主ノ主張スヘキモノニアラス故ニ會社此方法ヲ用ユルコトヲ  
欲セサレハ尋常ノ手續ヲ用ユルコトヲ得ヘシ株主ハ其約シタル株金  
額ヲ拂フノ義務アリ即チ一ノ義務者ナリ然則株主ハ何人ニ對シテ義  
務者タルヤ曰ク株主ハ會社ニ對シテ義務者タルナリ其他會社ニ債主  
アルトキハ此債主ハ民法第千百六十六條ニ據リテ會社ニ代リ株主ニ  
對シテ其訴權ヲ行フコトヲ得ヘシ茲ニ一疑問アリ曰ク會社ノ債主ハ  
此間接ノ訴權會社ヲ經テ株主ニ對スル者ノ外ニ尙ホ直接即チ固有ノ

訴權(直チニ株主ニ對スル者)ヲ有スルヤ今深ク思考ヲ費サスシテ之ヲ  
 觀ルトキハ此疑問ハ實際ニ於テ利益ヲ見サルカ如シ何トナレハ苟モ  
 會社ノ債主タル以上ハ皆第千百六十六條ノ訴權ヲ有セサルハナク又  
 會社ノ債主株主ニ對シ直接ノ訴權ヲ有ストスルトキハ債主タル者差  
 別ナク悉ク之ヲ有スルカ故ニ何レノ訴權ヲ用ユルモ之カ爲メニ一部  
 ノ債主カ特權ヲ得ルノ利益ナケレハナリ然レモ左ノ場合ニ臨テハ直  
 接ノ訴權ヲ有スルノ利益ヲ觀ルナリ例ヘハ茲ニ會社ノ發起人ノ欺騙  
 ニ因リテ若干ノ株式ヲ買取りシ者アラン此場合ニテハ會社ヨリ株金  
 收納ノ督責ヲ受ルコトアルモ株主タル者其詐僞ヲ主張シテ之ヲ拒ム  
 コトヲ得ヘシ然ルニ會社ノ債主ニシテ只第千百六十六條ニ據リ會社  
 ノ訴權ヲ有スルニ過キサルトキハ株主亦之ニ對シテ會社ノ詐僞ヲ主  
 張シ株金ノ辨濟ヲ拒ムコトヲ得ヘシ之ニ反シテ債主若シ直接ノ訴權

ナ有スルトキハ株主之ニ對シテ詐僞ヲ主張シ以テ辨濟ヲ拒ムコトヲ  
 得ス何トナレハ此詐僞ハ債主ノ關知セサル所ナレハナリ此疑ニ對シ  
 輿論ハ會社ノ債主ニ附與スルニ固有ノ訴權ヲ以テスルヲ理アリトセ  
 リ其理由ハ第一債主ニ過失ナケレハナリ第二如此スレハ債主ハ株主  
 ト約シタル金額ハ必ス請求シテ之ヲ取り得ヘシト確信シ爲ニ會社ニ  
 信ヲ措クコト大ナルヘシ即チ會社ノ利益ナレハナリ蓋シ此ノ如クナ  
 ラサレハ世人ハ容易ニ會社ト契約ヲ爲サ、ルノ恐アルナリ

第四問 各株主皆同種類ナリヤ

各株式皆同性質ヲ有スルヤ曰ク否數多ノ種類アリ蓋シ前問答ニ解説  
 シタル株式ハ利益金ノ配當ヲ受ルノミナラス會社資本ノ一部ヲ受ク  
 ヘキモノナリ之ヲ通常ノ株式トス此通常株式ノ外ニ収實株式ト稱ス  
 ルモノアリ収實株式ハ利益金ノ配當ヲ受ルノミニシテ資本ノ配當ヲ

受クルコトナシ収實株式ノ起ルハ左ノ場合ニアリ第一上ニ已ニ云ヒ  
シ如ク會社遠慮アルトキハ解散前預メ毎年若干ノ株式ヲ辨濟シ而シ  
テ已ニ株金ノ辨濟ヲ得タル株主ニ對シテ尙ホ續テ利益金ノ配當ヲ行  
スナリ其譯ハ茲ニ七百法ヲ出シテ五百法ノ株式ヲ買フ者アリ其次年  
此株主抽籤ニ當リテ會社ヨリ五百法ノ辨濟ヲ得タリ然ルキハ此株主  
ハ一年ノ利益金ヲ受ケタルノミニテ全ク二百法ヲ失ハサルヘカラス  
此ノ如クナレハ世亦此會社ノ株式ヲ五百法以上ノ價ヲ以テ買フ者ナ  
キニ至レハナリ故ニ已ニ株金ノ辨濟ヲ得タル株主ト雖モ尙ホ續テ之  
ニ利益金ヲ配當セサルヘカラス此場合ニ至リテ此株主名ケテ収實株  
式ト云フ第二社員ノ中ニ資本ヲ齎出セスシテ其勞力ヲ齎出スルニ止  
ルモノアリ例ヘハ工藝師土木師ノ如シ會社ハ此種ノ社員ニ収實株式  
ヲ附與シ利益ノ配當ヲ受ケシムルナリ

欠

MISSISSING

## ○第二一欸 負債資本

第一問 負債資本ハ如何シテ組成スルヤ

負債資本ハ會社ニ必要ノモノニアラス左ノ如キ場合ニ於テ初メヲ生  
スルモノナリ茲ニ一會社アリ二千万法ノ資本ヲ以テ己ニ數年間營業  
ヲ爲セリ然ルニ尙ホ其事業ヲ擴張セン爲メ又ハ減損シタル資本ヲ補  
フ爲メニ更ニ若干ノ資本ヲ要セリ此時ニ當リ會社ハ再ヒ株券ヲ發行  
シテ此資本ヲ募集スルコトヲ得ヘシ然レトモ此ノ如キハ通常會社ノ  
ナスヲ好マサル所ナリ其理由ハ若シ利益ヲ得ルコト薄少ナレハ世人  
ハ容易ニ其株主トナルコトヲ肯セサルヘシ又莫大ノ利益ヲ得ルトセ  
ンカ新タニ株主ヲ募ルハ會社ノ得策ニアラス何トナレハ會社ハ新株  
主ニ對シテモ此大利益ヲ配當セサルヘカテサルカ故ナリ但シ會社ハ  
新株主ト約定シテ幾年間新株主ハ一定ノ利息ヲ領収スルノミニテ利

益ノ配當ヲ受ケサルヘシトナスコトヲ得ヘシ然レトモ此約束ハ年期アリテ永遠ニ繼續スヘキモノニアラサル故ニ竟ニハ會社ノ利益ヲ新株主ニモ配當セサルヘカラス會社ノ爲メニ不利益ナリ於是會社ハ株券ヲ發行スル代リニ其入用資金ヲ普通ノ利息ヲ以テ他ヨリ借受クヘシ蓋シ會社隆盛ナルトキハ隨テ金主モ皆喜ンテ低利ニテ之ヲ貸スヘシ而シテ其借入レノ手續ハ一人ノ金主ヨリ資金ノ全部ヲ借入ルノ尋常手續ニ依ラス債券ナルモノヲ發行シテ之ヲ得ルナリ債券ヲ發行スルトハ其要スル所ノ資金ヲ數百ノ証書ニ配記シ廣ク公衆ニ告ケテ之ヲ購求セシムルナリ乃チ債券ノ發行ハ左ノ諸方法ニ因ル○其最モ簡易ナルモノハ例ヘハ一債券ヲ五百法トナシ五百法ヲ拂フ者ニ之ヲ附與シ而シテ毎年之ニ六分ノ利息ヲ拂フナリ然レトモ會社ハ大抵此方法ニ因ラスシテ通常三百法ヲ以テ債券ヲ發行ス此三百法ハ債券ノ實

價ニシテ之ヲ發行定額ト名ク而シテ後ニ券面ノ通五百法ヲ辨濟スルコトヲ約ス又辨濟ノ期限ハ或ハ幾年ノ後ニ一同ニ悉ク之ヲ辨濟スヘシト定ルコトアリ或ハ毎年抽籤ニ因リテ若干券宛ヲ辨濟スヘシト定ルコトアリ辨濟前ニハ會社毎年三分ノ利息ヲ拂フヲ常トス然レトモ此三分利息ハ虛稱ニシテ其實五分ノ利息ニ相當スルナリ其理由ハ券面ニハ三分利附ノ五百法ヲ借受ケタルコトヲ証スト記セリ此五百法ハ券面所有者カ後ニ會社ヨリ領受スヘキ金額ニシテ之ヲ債券ノ虛價ト名ク乃チ債券ノ虛價ト實價即チ發行價額トノ差ハ實ニ二百法ニシテ此二百法ハ債券所有者カ全ク利スル所ナク之ヲ名ケテ償金ト云フ債券所有者ハ後ニ二百法ヲ利スルノミナラス原金ヲ得ル迄ニハ毎年十五法ノ利息ヲ得ヘシ而シテ此十五法ヲ其拂ヒタル三百法ニ比較スレハ實ニ百分ノ五トナル是レ債主カ毎年領収スル利息ハ其實五分ナ

リト云フ所以ナリ  
 上ニコ述ヘタル所ニヨリテ之ヲ觀レハ債主ノ利益ハ成丈ケ速カニ債  
 券ノ辨濟ヲ得ルニ在ルコト亦論ヲ待タス例ヘハ債券ヲ購求シタル年  
 幸ニ抽籤ニ當ルトキハ債主ハ只一年ノ間二十五法ノ利子ト二百法ノ  
 元金ト合セ二百十五法ヲ博スルノ僥倖アリ斯ノ如ク債主カ三百法ヲ  
 出シテ一年間ニ二百五十法ノ利益ヲ博取スルヲ觀レハ一見シテ高利  
 貸タルヲ免レサル如キモノアリ何トナレハ佛國ニテハ年六分以上ノ  
 利息ヲ以テ貸借スルヲ禁スレハナリ然レトモ予カ上ニ記シタル數ヲ  
 變セサルトキハ此方法ハ決シテ高利貸ニアラサルナリ蓋シ會社ハ債  
 券毎ニ十五法ノ利息即チ年五分ノ利息ヲ拂ヘリ是レ法律ノ許ス所タ  
 ルノミナラス商業ニテハ年六分ノ利息ヲ拂フコトヲモ得ヘシ故ニ會  
 社ハ毎年一分ノ利息ヲ留メ置キ之ヲ以テ抽籤ニ當リタル債券ヲ辨濟

スルトキ之ニ附與スヘキ償金二百法ヲ拂フノ資ニ供スルヲ得ヘシ  
 此ノ如クスレハ會社ハ恰カモ年六分ノ利子ヲ拂ヒタルニ異ナラサル  
 ナリ又會社カ通常債券ヲ發行スルニ前ノ簡易法ヲ用ヒスシテ後ノ混  
 雜ナル方法ヲ用ユル所以ノ者ハ後ノ方法ハ世人ノ僥倖心ヲ喚起シテ  
 多ク希望者ヲ得ルノ利アレハナリ今若シ予カ上ニ記シタル數ヲ變シ  
 發行價額ヲ三百法トセシテ二百五十法トシ尙ホ毎年十五法ノ利子  
 ヲ拂ヒ辨濟ノ時五百法ヲ拂フヘシトスルトキハ是レ純然タル高利貸  
 借タルヲ免レサルナリ何トナレハ二百五十法ノ元金二十五法ノ利息  
 ヲ拂フトキハ年六分ノ利子トナルヘシ然ラハ則チ會社ハ利子ヲ拂フ  
 ノミニテ已ニ法律ニ制限シタル利息ノ額ニ達シタルモノニシテ亦一  
 歩モ進ムコト能ハサルモノナリ然ルニ尙ホ二百法ノ償金ヲ拂ハント  
 スルハ法律ノ制限ヲ超過スルモノト謂ハサルヲ得サレハナリ

上ニ述ヘタル如ク債券發行ノ方法ニ依リテハ會社ハ利息制限法ヲ犯サ、ルコトヲ得ルヲ實ニ瞭然タリ然レトモ此方法ハ富籤禁止法ニ背馳セサルヤ會社カ毎年抽籤法ニ因リテ二百法ノ償金ヲ附與スルハ頗ル富籤ニ類スルモノナキヤ裁判例ニ依レハ此方法ハ富籤ニアラストセリ若シ夫レ會社ハ株主ト約定シテ毎年抽籤ノ時上位ノ番號ヲ得タル者ニ特別ノ金額ヲ附與スヘシトスルカ如キ例ヘハ一番ヲ得タル者ハ一方法ヲ得二番ヲ得タル者ハ三千法ヲ得三ヨリ十ノ番號ヲ得タル者ハ各一千法ヲ得ヘシトスルトキハ之ヲ富籤ト觀做スヘキヤ裁判例ニ依レハ此場合ニテハ之ヲ富籤ト觀做セリ

又會社前陳ノ方法ニ因リテ富籤ノ法律ヲ犯スコトアルモ之ニ依リテ同時ニ利息制限法ヲ犯スニ至ラサルコトアリ例ヘハ會社抽籤ノ時上位ノ番號ヲ得タル者ニ莫大ノ金額ヲ附與スルモ其毎年拂フ所ノ利息

ハ三百法ノ元金ニ對シ僅カニ五法ニ止ルトキハ其利子ハ年一分六強ニ當ルニ過キス會社ハ則チ殘餘ノ利四分強ヲ集メテ充分ニ上位ノ番號ヲ得タル者ニ附與スル丈ノ金額ヲ得ヘシ(一千八百七十年三月二十五日巴里控訴院判決)

### 第二問 債券所有者ノ權利ハ如何

今此問題ニ答フルルコトハ債券所有者ト株主トヲ比較スルノ了解シ易キニ如クハナシ

債券ト株券ト同一ナル點ハ此二券ハ皆之ヲ商法ノ特別法ニ依リテ賣買スルコトヲ得復通常ノ債主權讓渡手續ヲ用ユルヲ要セサルニ在リ又其異ナル點ハ株主ハ社員ニシテ債券所有者ハ貸主ナルニ在リ○株主ハ社員ナリ故ニ株主ハ債券所有者ニ對シ辨濟ノ義務ヲ終リタル後ニアラサレハ會社ノ財産ヲ取ルコト能ハス○次ニ左ノ結果ヲ生ズ即



チ株主ハ會社ヨリ毎年利益ノ配當ヲ受ルノ權アリ而シテ此配當ハ年々同額ニアラス會社大利益ヲ得レハ株主亦多分ノ利益配當ヲ得會社損失ヲ醸ストキハ株主亦一錢ヲモ受リコト能ハス之ニ反シ債券所有者ハ常ニ一定ノ利息ヲ領受シ會社ノ損益ニ關スルコトナシ故ニ債券ハ損失ヲ被ムルノ危險ヲ侵シテ大利益ヲ博セント欲スル射利者流ノ好シテ購求スル所ニシテ債券ハ危險ヲ侵スコトヲ欲セスシテ常ニ一定ノ利益ヲ得ント欲スル者ノ購求スル所ナリ○又左ノ結果ヲ生ス即チ株式ハ會社ナクシテ之アルコトナシ之ニ反シ債券ハ會社ニアラサル者尙ホ之ヲ發行スルコトヲ得ヘシ例ヘハ政府又ハ府縣郡村等モ債券ヲ發行スルコトヲ得ヘシ債券ハ會社ノ契約ニテ分割スヘカラスト定ムルコト猶ホ株券ニ於ケルカコトシスルヲ常トス

### ○第三款 株券及ヒ債券ノ讓渡

#### 第一問 株券及ヒ債券讓渡ノ方法ハ如何

此讓渡ノ方法ハ株券債券ノ種類ニ因リテ殊異アリ故ニ此問題ニ答フルニ先ツ其種類ヲ解説セサルヘカラス蓋シ會社株主ヲ募集シ若クハ負債ヲ起ストキハ前款ニ於テ陳ヘタル如ク其株主若クハ債主タルヘキ者ニ證書ヲ渡スヲ常トス是其權利ノ讓渡ヲ容易ニセンカ爲ナリ而シテ其證書ヲ二部ニ區別シ其一ハ株主ノ權利ヲ証認スル者ニシテ之ヲ名ケテ証券ノ根基ト云フ是レ證書所有者カ所有權繼續ノ間常ニ所持スルモノナリ其一ハ之ヲ數多ノ切り取ルヘキコトヲ得ヘキ小札ニ別チテ毎年利息并ニ純益金ヲ領収スルトキノ証トス之ヲ利賦札ト云フ且此証券ニ三種アリ第一種ノ証券ハ無記名証券ト云ヒ第二種ハ記名証券ト云ヒ第三種ハ裏書証券ト云フ

無記名証券○無記名証券トハ其証券ニ株主或ハ債主ノ姓名ヲ記載セ

サルモノヲ云フ故ニ此証ニテハ証券ノ根基及ヒ利賦札皆無記名タリ  
 ○今此証券ハ如何シテ讓渡シ得ルヤト問フニ全ク有形ノ動産ト同様  
 ノ手續ヲ以テ讓渡スナリ商法第三十五條ニ曰ク無記名証券ハ証券ヲ  
 引渡スヲ以テ讓渡完結スト此條ニ據レハ証券ヲ引渡サ、レハ讓渡完  
 結セサルカ如クナレド此條ヲ此ノ如クニ解スルハ誤リナリ証券ハ猶  
 ホ一ノ動産ノコトク之ヲ讓渡スノ契約調ヒタルトキ其所有權ハ直チ  
 ニ引移ルヘシ故ニ第三十五條ノ意ハ之ヲ左ノ如ク解セサルハカラス  
 曰ク讓受人未タ証券ヲ領収セサル間ハ甚タ危險ノ位地ニ在ルヲ免カ  
 レス何トナレハ民法第二百七十九條ニ動産ハ現ニ之ヲ所有スル  
 チ以テ其所有權ヲ有スルノ効アリトストアルニ據テ觀レハ讓渡人此  
 証券ヲ再ヒ他ニ賣渡シテ之ニ証券ヲ引渡シタルトキハ前ノ讓受人ハ  
 其權利ヲ失フヘケレハナリ

**記名証券** ○記名証券トハ之ヲ購求シタル者ノ姓名ヲ記載シタル証券  
 ナリ又此購求者ノ姓名ハ會社ノ帳簿ニモ記載スルナリ商法第三十六  
 條ニ據レハ記名証券ノ讓渡ハ現ニ之ヲ所有スル者カ之ヲ他人ニ讓渡  
 スコトヲ會社ニ通知シ其旨ヲ會社ノ帳簿ニ登録シ署名スルヲ以テ完  
 結スルモノトス予ハ此ノ條ニ就テモ亦第三十五條ニ於ケルト同様ノ  
 注意ヲナスヘシ即チ記名証券ハ之ヲ讓渡スノ承諾アリタルトキ其所  
 有權直チニ引移ルコト猶ホ無記名証券ノコトシ故ニ讓渡人ト讓受人  
 トノ間ニ契約アリタルトキ直チニ讓渡完結スヘシ然レトモ讓受人其  
 權利ヲ會社又ハ社外人ニ對シテ主張セント欲セハ須ラク讓渡人ト共  
 ニ會社ニ至リテ會社帳簿ニ讓渡ノ旨ヲ登記シ名義ノ切換ヲ爲シテ兩  
 人署名スルヲ要ス然ル後此証券ハ何人ニ對シテモ全ク讓受人ノ所有  
 ニ歸スヘシ若シ此手續ヲ履行セサル前ニ讓受人其証券ヲ更ニ他人ニ

賣渡シテ第二ノ讓受人完ク此手續ヲ履行シ了ルトキハ前ノ讓受人ハ其權利ヲ失フノ恐アリ株主ハ假令會社無記名証券ヲ發行スルトキト雖モ隨意ニ記名証券ヲ請求スルコトヲ得ヘシ之ニ反シ會社カ無記名証券ヲ發行スルニハ特別ノ條件ヲ履マサレハ能ハス斯ノ如ク記名証券ノ發行ヲ容易ニシ無記名証券ノ發行ヲ容易ニセサル所以ハ無記名証券ハ上ニ説シ如ク之ヲ讓渡スコト甚容易ニシテ之カ爲メニ射利投機ノ具トナルコト記名証券ヨリモ甚シキカ故ナリ証券ノ根基ヲ記名ニシテ其利賦札ハ之ヲ無記名トナスコトヲ得ヘシ此場合ニテハ證書全体ヲ讓渡スルニハ記名証券讓渡ノ手續ニ因リ利賦札ヲ讓渡スルニハ無記名証券讓渡ノ手續ニ因ルナリ証券所有者カ証券ヲ賣却セントスルトキ往々自ラ購求者ヲ求メテ直チニ之ニ賣却スルコトナキニ非サレモ多クハ媒介人ヲ用ヰルヲ常トス然レモ媒介人ヲ用ヰルニハ必

ス株式仲買人ニ依頼セサルヘカラス蓋シ株式仲買人ハ証券賣買ノ媒介人タル專有權ヲ有スル者ナレハナリ且ツ會社ハ大抵其約束中ニ記名証券ヲ讓渡スルニハ必ス株式仲買人ノ媒介ニ因ルヘシト定ム故ニ此ノ如キ會社ニテハ所有者自ラ其証券ヲ他人ニ讓渡スルコト能ハス蓋シ斯ノ如クセサルハ他人ノ記名証券ヲ盜取リテ他ニ賣却セントスル者其購求者ヲ率ヒテ會社ニ至リ証券ノ書換ヲ求ムルハ會社ノ書記ハ一々株主ヲ熟知セサルカ爲メニ容易ニ盜人ニ欺カル、ル恐レアリ是レ証券ノ讓渡ハ必ス株式仲買人ノ媒介ニアラサレハ能ハスト定ムル所以ナリ蓋シ株式仲買人ハ讓渡人カ果シテ眞ノ所有者ナリヤ否ヲ檢査シテ之ヲ媒介スルカ故ニ會社ハ上ノ危難ヲ免ル、コトヲ得ヘシ

株券債券ノ類ヲ賣買シテ利ヲ博スル者ハ概シ其賣買シタルヲ他人

ニ知ラル、ヲ欲セス於是之ヲ賣ラント欲スレハ先ツ之ヲ株式仲買人ニ讓渡シテ再ヒ之ヲ轉賣セシムルコトヲ委任ス然レモ仲買人ニ對シタル讓渡ハ純然タルモノニアラス故ニ收稅官吏ハ兩度ノ讓渡ニ就テ只一度ノ讓渡稅ヲ徵收スルニ止ル(凡テ記名証券ヲ讓渡ストキハ讓渡稅ヲ納メサルヘカラス)記名証券ハ之ヲ抵當ニ用ヰルコトヲ得ヘシ証券ヲ抵當トシテ人ニ渡ストキハ之ヲ名ケテ抵當ノ讓渡ト云フ抵當ノ讓渡ト雖モ亦之ヲ會社ノ帳簿ニ記載スルヲ要ス然ラサレハ會社ハ証券ノ尙ホ其所有者ノ手裡ニ在ルヲ信スヘケレハナリ

記名証券ヲ無記名トナシ又ハ無記名証券ヲ記名トナスコト屢々之アリ但シ無記名証券ヲ記名トナスハ常ニ許サ、ル所ナレモ之ニ反シ記名証券ヲ無記名トナスコト能ハサルコトアリ

裏書証券○裏書証券トハ其証券ニ券面ノ元金及ヒ利子ヲ某又ハ某差

圖人へ支拂フヘシト記シタルモノナリ乃チ之ヲ讓渡スルニハ讓渡人其証券ノ裏面ニ讓受人又ハ讓受人ノ差圖人へ元金及ヒ利子ヲ辨濟スヘシト裏書スルヲ以テ足レリトス(裏書証券ハ其用狹少ナルヲ以テ之ヲ詳論セス)

第二問 無記名証券ト記名証券トノ差異如何

第一ノ差異○納稅ノ額同シカラス、記名証券ヲ讓渡スルニハ讓渡毎ニ價額ノ千分ノ十五ノ稅ヲ納ムルヲ要ス且ツ記名証券ノ讓渡ハ會社ノ帳簿ニ記載スルヲ以テ政府ハ容易ニ讓渡ノアリシコトヲ知ルヲ得ヘシ之ニ反シ無記名証券ノ讓渡ニ至リテハ殆ント之ヲ知ルコト能ハスト云フモ可ナリ故ニ讓渡稅アルコトナシ然レモ政府ハ讓渡ノ有無ニ關係セス毎年稅金トシテ其價額ノ千分ノ四ヲ徵收ス

第二ノ差異○無記名証券ハ之ヲ讓渡スコト容易ヨシテ記名証券ハ之

ヲ讓渡スルコト容易ナラス、但シ讓渡ノ手續ハ上ニ已ニ論セシヲ以テ  
茲ニ贅セス

已上二項ノ差異ヲ觀ルトキハ兩証券ノ各如何ナル場合ニテ如何ナル  
者カ購求スルヤヲ知ルコト難カラサルナリ茲ニ一ノ射利者アリ証券  
ヲ賣買シテ利ヲ博セント欲センカ必ス無記名証券ヲ購求スヘシ何ト  
ナレハ無記名証券ヲ賣買スルモ讓渡稅ヲ納ルニ及ハサルノミナラス  
之ヲ讓渡スコト適カニ記名証券ヨリモ容易ナレハナリ又茲ニ一ノ資  
本家アリ株券ヲ購求シ永ク之ヲ所持シテ毎年若干ノ利足ヲ得ント欲  
センカ必ス記名証券ヲ購求スヘシ何トナレハ若シ無記名証券ヲ所有  
スルトキハ毎年定稅ヲ納メサルヘカラス之ニ反シ記名証券ヲ所持ス  
ルモ稅ヲ納ルニ及ハサレハナリ且ツ記名証券ヲ讓渡ストキハ讓渡稅  
ヲ納メサルヘカラスト雖モ其之ヲ購求スルハ之ヲ人ニ轉賣セント欲

スルニアラサルカ故ニ讓渡稅ノ有無ハ其問フ所ニアラサレハナリ  
第三ノ差異○証券紛失ノ場合ニ當リテ無記名証券ハ紛失ハ記名証券  
ハ紛失ヨリモ適カニ危険ナリ記名証券紛失ノ場合例ヘハ余ハ一ノ記  
名証券ヲ所有セシニ一日之ヲ紛失セリ蓋シ遺失シタルカ又ハ盜取セ  
ラレタルナリ此場合ニテ必スシモ大ナル不都合ヲ生スルコトナシ何  
ントナレハ余ハ直ニ會社ニ至リテ若シ該証券ヲ會社ニ持參スル者ア  
ルモ元金并ニ利益ヲ拂フコト勿レト告知シ以テ以後ノ讓渡ヲ防クコ  
トヲ得ルノミナラス若シ利賦札ニシテ無記名ナルトキハ會社ハ余ノ  
來ル已前ニ已ニ他人ニ利子ヲ拂ヒ了リ余ハ爲メニ此利子ヲ失ハサル  
ヘカラサルコトアレ元金ニ至リテハ決シテ之ヲ失フ患アルコトナ  
シ何トナレハ証券ヲ讓渡スルニハ必ス之カ所有者タルモノ即チ余カ  
自ラ會社ノ帳簿ニ記名調印シテ讓渡ノアリシコトヲ証セサルヘカラ

本會社ハ又所有者タル余ノ署名アルニアラサレハ元金ヲ拂フコトナ  
 ケレハナリ且ツ余ハ徒ニ會社ヲシテ他人ニ元金并ニ利子ヲ拂フコト  
 ナ止メシムルヲ得ルノミナラス尙ホ紛失シタル証券ヲ廢物ト觀做シ  
 別ニ之ニ代ルノ新証券ヲ會社ニ請求スルコトヲ得ヘシ蓋シ此ノ如ク  
 スルモ會社ノ爲メニ不都合ヲ生スルコトナケレハナリ今又一步ヲ進  
 メテ說カシニ假令ハ余ハ証券ヲ他人ニ賣却シナカラ僞リテ之ヲ紛失  
 シタリト云ハンニ此賣渡ヲシテ已ニ會社ノ帳簿ニ記載シアルトキハ  
 會社ハ直チニ余ノ僞リヲ看破スルコトヲ得ヘシ若シ又未タ記載シナ  
 キトキハ會社ハ新証券ヲ余ニ渡シテ舊証券ヲ廢物トナスヘシ然レモ  
 舊証券ヲ買取りシ者ハ之カ爲メニ會社ニ對シテ不都合ヲ責ムルコト  
 能ハサルナリ何トナレハ會社ハ其帳簿ニ讓渡ノ記載アラサル間ハ未  
 タ讓渡ナキモノト觀做スコトヲ得ヘケレハナリ但シ右ノ場合ニテ買

取人ハ直チニ余ニ對シテ其不都合ヲ責メ新證書ヲ請求スルコトヲ得  
 ヘケレハ未タ買取人ノ爲メニモ大イナル不都合ヲ見サルナリ然レモ  
 余ハ已ニ新証券ヲ他人ニ賣却シ又其讓受人ハ已ニ會社ノ帳簿ニ讓渡  
 ナ記載シ了リタルトキハ舊証券ノ買取人ハ余ニ對シテ損害ノ償ヲ要  
 求スルニ止ルナリ

無記名証券紛失ノ場合○無記名証券紛失スルトキハ數人ノ利害ニ關  
 係ヲ及ホスヘシ故ニ此利害ヲ有スル者ヲ一々保護セサルヘカラス即  
 チ其保護スヘキ者ハ第一紛失者第二紛失品タルヲ知ラスシテ買取り  
 タル者第三會社は是レナリ

今先ツ一千八百七十二年以前ニテ証券紛失ノ處分方如何ナル有様ナ  
 リシヤヲ叙述セン蓋シ此時代ニテハ証券紛失ニ就テ商法中一條ノ之  
 ナ規定スル者ナク且ツ無記名証券ハ法律上之チ一ノ動産ノ如クニ觀

做セリ故ニ無記名証券紛失ノ場合ニテハ猶ホ動産ニ於ケルカコトク  
 民法第二千二百七十九條及ヒ第二千二百八十條ヲ適用シ即チ現ニ証  
 券ヲ所持スル者ヲ以テ權利ヲ有スル者トナサ、ルヘカラサリキ然レ  
 凡此ノ如クスルトキハ種々ノ不都合ヲ生スルヲ免レサルナリ試ニ先  
 ツ証券紛失ノ場合ニテ之ヲ紛失シタル者ト現ニ之ヲ所有スル者トノ  
 關係如何ヲ見ルニ若シ現所有者善意即チ紛失品タルヲ知ラサルトキ  
 ハ第二千二百七十九條ニ因リ現所有者全ク之カ所有主トナリ紛失者  
 之ニ對シテ返還ヲ求ムル能ハサルナリ且ツ紛失者カ反對ノ證據ヲ舉  
 ケサル間ハ現所有者ヲ以テ善意ナル者ト觀做サ、ルヘカラス紛失者  
 若シ其紛失シ又ハ盜難ニ遇タル證據ヲ舉ルトキハ第二千二百八十條  
 ニ因リ紛失者ハ現所有者ニ對シテ証券ヲ請求スルコトヲ得ヘシ然レ  
 凡之ヲ請求スルコトハ現所有者カ証券ヲ買取リタル代價ヲ辨濟セサル

へカラス若シ現所有者惡意即チ紛失品タルヲ知ルトキハ紛失者代價  
 ヲ償ハスシテ之ヲ取戻スコトヲ得ヘシ

次ニ紛失者ト會社トノ關係如何ヲ見ルニ此ハ其場合ニ從フテ異ナラ  
 サルヲ得ス第一ノ場合ハ証券ノ紛失確實ニシテ其証券現ニ竊盜者又  
 ハ拾得者ノ手ニ在ルトキ第二ノ場合ハ其紛失確實ナレトモ証券ハ已  
 ニ轉シテ善意者即チ紛失品ナルヲ知ラサル者ノ手ニ在ルトキ第三ノ  
 場合ハ所有者偽リテ証券紛失セリト唱ルトキ是ナリ然レトモ此三ノ  
 場合ハ假リニ之ヲ設ルコトヲ得ルノミニテ豫メ明知シ得ル者ニアラ  
 ス何トナレハ所有者會社ニ至リテ予ハ所有ノ証券ヲ紛失セリト云ハ  
 ンニ會社必ス答ヘテ曰ハン會社ハ卿カ証券ノ所有者ナルヤ否ヤヲ知  
 ラサルナリト是ノ時ニ當リ余カ囊ニ証券ヲ得ルヤ之ヲ通常人ヨリ購  
 求シタリシトキハ余ハ會社ニ對シテ所有者ナルコトヲ証スルコト能

ハス若シ又之ヲ株式仲買人ノ手ヲ經テ購求シタリシトキハ余ハ其所  
 有者タリシヲ証スルヲ得ヘシ何トナレハ株式仲買人ハ証券賣買者  
 ノ姓名ヲ其帳簿ニ記載シ置クカ故ナリ然レモ更ニ之ヲ推說スレハ余  
 ハ假令自ラ証券ノ所有者ナリシコトヲ証スルモ會社ハ尙ホ余ニ對シ  
 テ曰ハン會社ハ卿カ證書ヲ買取リシコトヲ承認セン然レトモ卿カ之  
 ナ紛失シタリト云フニ至リテハ果シテ其實ナルヤ否ヤヲ知ラス或ハ  
 卿己ニ之ヲ他人ニ賣却シナカラ紛失シタリト云フヤモ未ダ知ルヘカ  
 ラスト故ニ上ニ假說セシ三ケノ場合ハ豫知シ得ル者ニアラス此ヲ以  
 テ觀レハ所有者証券紛失シタリト告ルトキハ會社ニテハ未ダ不確定  
 ノモノト觀做シテ之カ處置ヲナサ、ルヘカラス但シ紛失ヲ告ル者ハ  
 先ツ自己証券ノ所有者タルコトヲ證明セサルヘカラス之ヲモ證明シ  
 得サルトキハ會社ハ一切之ニ對シテ關係ヲ有スルニ及ハサルナリ然

テハ則チ紛失ヲ告クル者果シテ証券ノ所有者ナルコトヲ證明シタル  
 トキハ如何今當時裁判官カ承諾シタル諸點ヲ左ニ陳セン先ツ前所有  
 者會社ニ至リ利息及ヒ純益ノ支拂ヲ停止シ之ヲ預金局ニ預ケンヲ  
 請フヘシ此ノ如クスレハ後ニ現所有者現出スルトキ余ハ之ニ對シテ  
 双方ノ權利ヲ一定スヘシ即チ現所有者善意ナルトキハ此預ケアル利  
 足ト利益トヲ併セテ取り余ハ全ノ一物ヲ取ルコト能ハス若シ又惡意  
 ナルトキハ余ハ之ヲ全取シテ現所有者一物ヲ取ルコト能ハス而シテ  
 會社ハ此間ニテ一錢モ損スルヲナキナリ若シ又利息利益ノ期限後五  
 年間現所有者現出セサルトキハ余ハ此利益ヲ預金局ヨリ取ルコトヲ  
 得ヘシ是民法第二千二百七十七條ニ貸金ノ利銀及ヒ其他ニテモ凡テ  
 一年毎ニ拂ヒ又ハ更ニ短キ期限毎ニ拂フヘキ約定ノモノニ就テハ五  
 年ヲ以テ期滿免除ヲ得ヘシトアルニ因ル故ニ現所有者五年ノ後會社ニ



來ルモ會社ハ之ニ五年前ノ利息利益ヲ拂フニ及ハサルナリ  
 利息利益ニ就テハ上ニ述ヘタル如クニ規定シ得レトモ元金ニ至リテ  
 ハ之ヲ規定スルノ最モ困難ナリ何ントナレハ所有者ハ會社ニ對シテ  
 新証券ヲ請求スルノ決メ能ハサレハナリ其譯ハ會社左ノ理由ヲ述テ  
 之ヲ拒ムヘシ曰ク若シ卿ニ新証券ヲ渡ストキハ後日舊証券ヲ所有ス  
 ル者現出スルトキ果シテ如何スヘキヤ此時卿尙ホ新証券ヲ所有セハ  
 或ハ可ナリ若シ然ラサルトキハ此新証券ヲ卿ヨリ買取リシ者モ亦早  
 晚會社ニ來リテ元金ヲ請求スヘシ會社ハ爲メニ二重ノ辨濟ヲナサ、  
 ルヘカラスト此ノ如クナルカ故ニ紛失者ハ決テ新証券ヲ得ルコト能  
 ハサリキ然レモ紛失者元金辨濟ノ期限來ルニ及ンテハ其辨濟ヲ會社  
 ニ求ムルコトヲ得ヘキヤ曰ク尙ホ未タ能ハサルナリ此場合ニテハ會  
 社必ス曰ハン元金ノ辨濟ハ期限後三十年ヲ經サレハ期滿免除ヲ得ス

故ニ此三十年間ニ証券ノ現所有者出ツルトキハ會社之ニ元金ヲ拂ハ  
 サルヘカラスト故ニ今直チニ之レヲ卿ニ拂フハ會社ノ能ハサル所ナリ  
 ト(民法第二千二百五十七條)加之假令辨濟期限後三十年ヲ經ルモ會社  
 ハ尙ホ之ヲ紛失者ニ拂フコトヲ敢テセサリキ何トナレハ若シ証券ノ  
 現所有者ニシテ幼者又ハ嫁婦等不能力ナルトキハ三十年ノ期滿免除  
 後尙ホ幾年間辨濟ヲ要スルコトヲ得ヘケレハナリ已上一千八百七十  
 二年前ノ有様ナリ  
 一千八百七十二年六月十五日ノ法律ハ實ニ此不都合ナル有様ヲ矯正  
 センカ爲メニ制定シタル者ナリ此法律ニ據レハ無記名証券ヲ一種特  
 殊ノ動産ト觀做シテ紛失ノ際其處分方ニ特別ノ規則ヲ用ヒ復タ民法  
 第二千二百七十九條及ヒ第二千二百八十條ヲ用ヒサルナリ而シテ此  
 ノ如ク看做シ得ル所以ノ者ハ証券ニ番號アルヲ以テ一々之ヲ類別ス

ルヲ得復々他証券ト混スルノ患ナキカ故ナリ此法律ノ目的ハ左ノ  
四點ニ在リ

第一紛失者ヲシテ成丈ケ速カニ利足及ヒ利益ヲ取ラシムルコト

第二紛失者ヲシテ幾年ノ後ニ至リテ元金ノ辨濟ヲ求ムルコト得セシムルコト

第三紛失者ニ新証券ヲ附與スルノ方法ヲ定ルコト

以上ノ三點ハ紛失者ト會社トノ關係ヲ規定シタル者ナリ

第四善意ノ現所有者ニ對シテモ尙紛失者ヲ保護スルコト

此諸特典ヲ受ケント欲スルニハ紛失者ハ先ツ會社ニ至リテ紛失ノ届  
ヲナスヘシ此届ヲナシタル後一年間現所有者出テサルトキハ紛失者  
ハ會社ニ對シ現所有者ノ出テサリシ證明書ヲ請求スヘシ而シテ此証  
明書ヲ以テ自己住所ノ始審裁判所ニ至リ裁判所長ニ對シテ利足及ヒ

利益并ニ元金ヲ期限ノ來ルニ從フテ會社ヨリ請取ルコトヲ得セシメ  
ノコトヲ請求スヘシ斯ク紛失者住所ヲ管轄スル裁判所長ノ認可ヲ要  
セシムル理由ハ紛失者住所ノ地ノ裁判所長ハ兼テ紛失者カ正直者ナ  
ルヤ否ヤヲ知ルカ故ニ正直者ナルトキハ紛失ノ申立ニ偽ナキ者ト觀  
做シテ其願ヲ許可シ之ニ反シ不正者ナルトキハ其申立ニ偽アル者ト  
觀做シテ之ヲ拒ム等ノ便利アルカ爲ナリ但シ裁判所長其願ヲ聞届ケ  
サルトキハ紛失者之ヲ裁判所ニ訴ヘテ裁判ヲ乞フコトヲ得ヘシ紛失  
者右ノ許可ヲ得タルトキハ會社ニ至リテ利足及ヒ利益ヲ請求スヘシ  
然レトモ之ヲ請求スルニハ保証ヲ出サ、ルヘカラス是レ現所有者出  
ツルトキノ用ニ備ルナリ而シテ此保証ハ全二年ノ後ニ至リテ引取ル  
コトヲ得ヘシ蓋シ二年ノ後ニ至リ現所有者出ツルコトナキヲ保セサ  
レトモ已ニ二年間出テサルハ紛失者カ証券ヲ他へ賣却シタルニアラ

サルヲ推測スルニ足り且ツ二年ノ後ニ出ツルカ如キハ現所有者ニ在  
 リテ疎虞不注意ノ罪ヲ免レサルヲ以テナリ次ニ元金ノ辨濟期限來ル  
 トキ紛失者之ヲ請求スルコトヲ得ヘシ但シ之ヲ請求スルカ爲メニ出  
 ス所ノ保証ハ裁判所ノ許可アリシヨリ五年元金辨濟ノ期限來ルヨリ  
 十年ノ間繼續スルヲ要ス但シ十年ノ後ト雖モ善惡ノ所有者現出スル  
 コトナシト斷言スヘカラス然レモ此ノ如キハ大抵實際ニ之レナキ所  
 ニシテ且ツ此ノ如キ疎虞ノ所有者ハ其權利ヲ失フモ亦大ニ他人ヲ尤  
 ムルコト能ハサル者アリ紛失者ヨリ會社ニ指出スヘキ保証即チ抵當  
 品又ハ証人ヲ得サルトキハ會社ニ乞フテ元金并ニ利息ヲ預金局ニ預  
 ルコトヲ得ヘシ此場合ニテハ保証期限ノ滿ツルニ及ンテ預金局ヨリ  
 預ケ置キタル元金并ニ利息ヲ取戻スコトヲ得ヘシ次ニ紛失者ハ元金  
 ノ辨濟期限來ラサル前ニ新証券ヲ得テ之ヲ賣却センコトヲ欲スルコト

トアルヘシ然レモ此ノ如キ請求ヲ許スハ最モ危険ナカル故ニ此場合  
 ニ於テハ左ノ諸條件ヲ要ス

第一會社ニ到ツテ紛失ノ届ヲナシ及ヒ裁判所ノ許可ヲ得ルコト上ニ  
 述ヘタル如クスヘシ

第二裁判所ノ許可ヲ得タルヨリ十年ヲ經過スルヲ要ス

第三紛失ノ届ヲ會社ニ出シタルコトヲ株式仲買人ノ役所ニ通知シテ  
 該紛失券ノ讓渡ヲ拒ムコトヲ乞フヘシ然ル片ハ役所ニテハ此紛失シ  
 タル証券ノ番號ヲ採式仲買人會社ヨリ發行スル報告書ニ掲載シテ全  
 國ノ仲買人ニ通知スヘシ此手續ヲ履行スルトキハ全國ノ仲買人ハ此  
 証券ノ讓渡ヲ媒介スルコトヲ得サルナリ

第四該報告書ニ紛失証券ノ番號ヲ掲載スルコト十年間繼續スルヲ要  
 ス

第五紛失者モ亦十年間同様ノ掲載ヲナスコトヲ約スヘシ  
 此五條件ヲ履行スルトキハ紛失者ニ於テ始テ新証券ヲ請求スルノ權  
 アリ但シ此ノ如キ手續ヲ履ムノ後ト雖モ現所有者出ツルコト決シテ  
 ナシト云フヘカラス然レモ此ノ如キハ實際ニ於テ絶テナキコトナリ  
 已上ハ一千八百七十二年ノ法律ニ規定スル所ナリ  
 以上説明シタル所ハ專ラ紛失者及ヒ現所有者ト會社トノ關係ヲ規定  
 シタル規則ナリトス即チ以上ノ手續ヲ履行スルトキハ會社ハ現所有  
 者出ツルモ之ニ對シテ責任ヲ負フコトナシ乞フ更ニ紛失者ト現所有  
 者トノ關係ヲ説カン其場合ハ種々アリ  
 第一余カ証券紛失セシコトヲ會社ニ届ケ出テタル後現所有者出テタ  
 リ然レモ余ハ彼ノ惡意ナルコト即チ彼レ此証券ヲ途ニ拾ヒシカ或ハ  
 之ヲ竊取セシカ若シクハ紛失ヲ知リテ之ヲ買受ケシカヲ證明セリ此

場合ニテハ彼一毫モ所有ノ權利ヲ有スルコトナク余ハ毫モ紛失前ノ  
 權利ヲ損セサルナリ  
 第二現所有者現出シテ先ツ自己其紛失品タルヲ知ラサル善意者ナル  
 コトヲ証シ次ニ前所有者ノ惡意ナルコト即チ前所有者カ紛失シタリ  
 ト云フハ僞ニシテ正ニ之ヲ賣却シタルコトヲ証セリ此場合ニテハ勿  
 論現所有者全勝ヲ得テ前所有者ハ一毫モ權利ヲ有セサルナリ然レモ  
 以上ノ場合ハ實際上ニ於テ稀レニアル所ニシテ其最モ多キ場合ハ第  
 三ノ場合ナリトス  
 第三証券ノ紛失確實ニシテ其証券ハ善意ノ購得者ノ手ニ渡レリ此場  
 合ニテ紛失者其旨ヲ會社ニ届ケ又之ヲ株式仲買人ノ役所ニ通知シテ  
 全國ノ株式仲買人ニ廣告スルノ手續ヲ履行スルトキハ此廣告後ニア  
 リタル讓渡ハ紛失者ニ對シテ無効ナリトス故ニ購得者善意ナルモ民

法第二百七十九條ヲ主張シ以テ前所有者ヲ退ルイテ得ス但シ此  
 購得者若シ証券ヲ賣却シタル者及ヒ株式仲買人ノ手ヲ經テ得タルト  
 キハ該株式仲買人ニ對シテ賣却スヘカラス者ヲ賣却シタルコトヲ  
 責メ損害ノ償ヲ要スルコトヲ得ヘシ若シ紛失ノ廣告出ル前ニ讓渡ア  
 リタル場合ニテハ專ラ民法第二百七十九條及ヒ八十條ヲ適用ス  
 ルノミ復タ一千八百七十二年ノ法律ノ關知スヘキ所ニアラス故ニ購  
 得者善意ナルトキハ全勝ヲ得ト雖モ左ノ諸條件ヲ備ルトキハ紛失者  
 全勝ヲ得ヘシ第一○証券ヲ遺失シタルカ又ハ盜取セラレタルコト確實  
 ナルコト第二○紛失者紛失後三年間ニ於テ取戻シヲ要求スルコト第三○  
 購得者証券ヲ通常人ヨリ購得シタルコト是ナリ若シ現所有者之ヲ株  
 式仲買人ノ手ヲ經テ購得シタルトキハ紛失者之ヲ取戻スニハ其購得  
 セシ代價ヲ辨償セサルヘカラス現所有者証券ヲ取戻サレタルトキハ

何レノ場合ニテモ賣却者ニ對シテ損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得ヘシ現  
 所有者証券ヲ購求スルニ株式仲買人ノ手ヲ經タルトキハ株式仲買人  
 ハ之ヲ帳簿ニ記載スルヲ以テ其購得ノ時ハ廣告前ニアリシヤ將タ後  
 チニアリシヤヲ知ルコトヲ得ヘシ此場合ニテハ上ノ規則ヲ適用スル  
 コト容易ナリ若シ又購得者証券ヲ購得スルニ株式仲買人ノ手ヲ經ス  
 私ニ之ヲ購得シタルキハ其時日ヲ證明スルコト容易ナラス蓋シ民法  
 第一千三百二十九條ニ依ルニ凡テ事件ノアリタル時日ヲ證明スルニ  
 ハ三箇ノ條件ノ一ヲ要ス故ニ購得ノ証券ニ此三條件ノ一ヲ備ヘサル  
 トキハ此証書ハ時日ノ確証ナキモノニシテ即チ購得者其購得セシ時  
 ノ廣告前ニアリシコトヲ証スルコト能ハス隨テ紛失者全勝ヲ得ルナ  
 リ現所有者全勝ヲ得タル場合ニテ若シ紛失者利息及ヒ利益ヲ収取シ  
 タルトキハ之ヲ現所有者ニ返還セサルヘカラス但シ第二百七十

七條ニ依リテ期滿免除ヲ得タルトキハ此限リニアラス若シ又元金ヲ受取リタルトキハ正ニ之ヲ返還セサルヘカラス但シ紛失者利息及ヒ元金ヲ返還スルコト能ハサルコトアルモ會社ハ一切現所有者ニ對シテ責任ヲ有スルコトナシ

以上ノ規則ハ管ニ會社ヨリ發行スル証券ニ適用スルノミナラス其他各所ヨリ發行スル証券ニモ適用スヘキモノナリ但シ政府ノ發行スル公債証券及ヒ銀行紙幣ハ此限ニアラス

### ○第二節 會社成立ノ規則

無名會社ヲ構成スルニ就テ規定スル法律ハ商法頒布アリシヨリ三度ノ改革ヲ經テ今日ニ來レリ之ヲ無名會社ノ三期ト稱ス

第一期○商法頒布ノ時ニ初ル商法第三十九條ニ因レハ無名會社ハ政府ノ許可ヲ須テ初メテ成立ツコトヲ得又會社ノ規則ヲ改正スルニモ

同シク政府ノ許可ヲ要スルモノトシ而シテ該商法中ニハ會社ノ成立ヲ許可スルニ必要ノ條件ナルモノヲ設ケス故ニ政府ハ其意ノ欲スル所ニ從フテ或ハ之ヲ許可シ或ハ之ヲ許可セサル等變更極リナキコトヲ得タレトモ實際ニアリテハ參事院ニテ一定ノ規則ヲ設ケ此規則ヲ遵奉シタル會社ハ悉皆之ヲ許シ否ラサル會社ハ之ヲ許サ、ルニ至レリ然レトモ此規則ハ參事院ノ內規ニ過キスシテ法律上効力ヲ有セサルモノナリ

已上ノ法律ハ種々ノ弊害ヲ生スルコトヲ免レズ先ツ政府ノ許可ヲ得ンカ爲メニハ種々ノ手續ヲ履ミ多クノ時間ヲ費ヤサ、ルヲ得ズ是其一ナリ次ニ政府某會社設立ヲ許可スルトキ世人ハ此會社ヲ以テ確定ナリト信シ大ニ信用ヲ措クニ當リ其實ハ然ラスシテ會社ハ度々ノ失策ヲモ重ネ遂ニ世人ニ損害ヲ蒙ラシムルコトアリ此ニ於テ世人ハ噴

々政府ヲ咎メ政府ハ恰カモ世人ニ對シテ會社ヲ保証スルノ責任アルモノ、如クニ思惟セリ此ノ如クナルトキハ一ハ以テ世人ヲ欺キ一ハ以テ政府ノ信用ヲ害スルノ恐アルヲ免レス是レ其二ナリ

已上ハ所謂第一期ニシテ此法律ハ一千八百六十三年迄繼續セリ

第二期〇第一期ノ法律ハ一千八百六十三年ニ至リテ一事件ノ生セシカ爲メニ變更セリ是レヨリ先キ一千八百六十年那保翁三世ノ政府ハ海關稅ヲ改革シ從前ノ保護稅主義ヲ廢シテ大ニ自由交易ノ主義ヲ採用セリ此ニ於テ英國ノ產物頻リニ佛國ニ輸入シ來リ英國ノ商人ハ大ニ其力ヲ佛國內ニ逞フスルニ至レリ然ルニ英國ノ法律ニテハ商業會社ニ係ル規則甚タ寬大ナルユヘニ莫大ノ資本ヲ有スル會社續々トシテ創起シ佛國ノ如キ嚴密ナル法律ノ下ニ成立チタル會社ハ亦之レト競フコト難キヲ覺ヘタリ是ニ於テ佛國ノ商人ハ爭フテ法律ノ改正ヲ

請願セリ政府ハ乃チ之ヲ許シテ一千八百六十三年五月二十九日ノ法律ヲ制定スルニ至レリ然レモ政府ハ尙ホ未タ其許可ヲ得ヘキノ規則ヲ全廢セス無名會社ヲ二類ニ分チ其第一類ハ資本二千万法以下ノモノトナシ此一类ノ會社ヲ構成スルニハ政府ノ許可ヲ要セスト定メ別ニ數多ノ規則ヲ設ケテ之ヲ限制シ其第二類ハ資本二千万法以上ノモノトシ此二類ノ會社ヲ構成スルニハ從前ノ如ク許可ヲ要スルモノト定メタリ

以上ハ所謂第二期ニシテ此法律ハ一千八百六十七年迄繼續セリ

第三期〇一千八百六十六年ノ法律ハ未タ不完全ナルヲ免レサルヲ以テ世人ハ再ヒ改正ヲ乞フテ止マズ是ニ於テ一千八百六十七年七月二十四日ノ法律制定セラル是レ即チ現行法ニシテ余ノ將サニ此節ニ於テ説明セント欲スル所ナリ此法律ハ如何ナル會社タルヲ問ハズ之ヲ

構成スルニ政府ノ許可ヲ要スルノ法ヲ廢シ更ニ總テ會社ニ適用スヘキ規則ヲ制定シ會社ヲシテ之ヲ遵守セシメ以テ其詐譌ノ所業ヲ防制セリ然レモ今日ニ在リテモ尙ホ左ノ諸會社ノ爲メニハ許可ヲ得ルコトヲ要スルナリ第一外國ノ會社佛國裁判所ヘ對シ會社ノ資格ヲ以テ訴訟ヲ起サントスルトキ第二生命保險會社ヲ構成セントスルトキ其他「トンチン」會社ニ於テモ亦然リ然レモ「トンチン」會社ハ眞ノ會社ニアラサルコトハ己ニ前ニ説ケリ以下應サニ一千八百六十七年ノ法律ニ制定シタル無名會社成立ノ規則ヲ説明スヘシ此規則ハ一千八百六十七年ノ法律第一篇即チ差金會社ノ篇ニ掲載セリ但シ其第二十四條ニ至リテ第一篇ニ掲載セル差金會社ノ規則ハ無名會社ニモ適用スヘシトアルニヨリ今無名會社ノ條下ニ於テ之ヲ説クニ至リシナリ看者之ヲ諒セヨ

### ○第一 無名會社ノ存在ヲ證明スル法

無名會社ノ存在ヲ證明スルニハ必ス一ノ證書ヲ要ス但シ其證書ハ公正證書タルト私印證書タルトヲ問ハサルナリ然レトモ私印證書ナルキハ四通ノ正本ヲ作ルヲ以テ足ル是レ普通ノ規則ニテハ許サ、ル所ナリ蓋シ民法第一千三百二十五條ニ依レハ契約者ノ數丈ケ正本ヲ調フルコトヲ要スルハ普通ノ規則ナリトス今會社ニテ契約者即チ社員ノ數幾何ナルヲ問ハス常ニ四通ノ正本ヲ調フルヲ以テ足レリトスル所以ハ會社ノ社員概ネ數百千人アルヲ以テ其數丈ケ正本ヲ調フルハ殆ント能ハサル所ナルカ故ナリ又普通ノ規則ニ從フトキハ正本ノ上ニハ必ス各契約者ノ署名ヲ要ス然レモ數百千人ノ社員ヲ以テ成ル會社ニ在リテ此ノ如キ手續ヲ履ムコトハ殆ト能ハサル所ナリ故ニ會社契約ノ正本ニハ發企人ノ署名ヲ要スルノミニテ他ノ社員ハ會社ニ對



シテ株ヲ買取ルトノ約ヲナシタルヲ以テ入社ノ結約ナリタル者ト親  
做スナリ

### ○第二 株式ノ金高

株式ノ金高ハ隨意ニ之ヲ定ムルコトヲ得ヘキヤ余ハ此篇ニ於テ資本  
ニ係ル株券ノ例ヲ舉ルニ常ニ一株五百法ノモノヲ以テセリ今會社ハ  
隨意ニ五百法以下ノ株ヲモ造ルヲ得ヘキヤ曰ク否株券ノ金高ニハ  
必ス制限アリ此制限アル所以ハ金高少ナレハ會社ノ所行ニ危險ヲ加  
フルノ恐アレハナリ假令ハ茲ニ五十法ノ株ヲ發行スル會社アラン此  
會社ヨリ世上ニ廣告シテ大ニ利益ヲ分與スヘキコトヲ約セハ世ノ愚  
民ハ爭フテ儲蓄錢ヲ出シテ株券ヲ購求スヘシ蓋シ小民ト雖モ僅々五  
十法ヲ出スハ甚タ難キコトニアラサレハナリ此株主ハ欣々然トシテ  
數年ノ間ニ倍蓰ノ益ヲ得ント信スルニ當リ會社忽チ破産セハ五十法

ノ金ハ水泡ニ歸シ憫ムヘキ不幸ニ陷ルニ至ラン今其原由ヲ尋ルニ株  
券ノ金高低クシテ貧民容易ニ之レヲ購求シ得タルカ故ナリ若シ金高  
ニ制限ヲ置キ若干法以下ノ株券ヲ發行スルコトヲ禁スト定ルトキハ  
此患ハ大ニ減スヘシ何トナレハ五百法若クハ一千法ノ株ニ至リテハ  
小民ノ購得シ得ル者ハ多少世故ニ熟練シテ亦容易ニ會社ノ欺騙ニ罹  
ルノ恐ナケレハナリ故ニ法律ハ株券ノ金高ヲ五百法以下トナスコト  
ヲ禁セリ是レ會社ノ株券ハ大抵之ヲ五百法トナス所以ナリ  
已上ノ規則ニ例外アリテ資本二十万法以下ノ會社ハ百法ノ株ヲ造ル  
コトヲ得ヘシ蓋シ世人ヲ欺カントスルニハ莫大ノ資金ヲ費用シテ種  
々ノ手段ヲ行ハサルヘカラス然ルニ二十万法以下ノ小會社ニテハ世  
人ヲ欺クヘキ程ノ方法ヲ實行スルノ資力ナキカ故ナリ

### ○第三 株主ノ數

株主ノ數ヲ制限スルニ其最多數ハ法律上若干名ト限ルコトナシ然レトモ其最少數ハ之ヲ七人ト定メタリ即チ無名會社ハ七人以下ノ株主ヲ以テ創立スルコトヲ得ス此七人ノ數ハ英國ノ法律ヲ摸倣セシニ過キサルナリ何ヲ以テ七人以下ノ數ヲ禁スルヤ曰ク無名會社ハ一大事業ヲ營ムカ爲メニ起ルモノニシテ必ス數百千人ノ集ルコトヲ望ムモノナリ今僅カニ七人以下ノ社員ニテ會社ヲ創立セントスルカ如キハ其事業決シテ巨大ナル能ハサルナリ斯ノ如クナレハ寧ロ他ノ種類ノ會社ヲ創立スルニ如カサルナリ且ツ社員僅カニ七人以下ナルトキハ世人ハ此會社ヲ以テ合名會社ナラント誤認スルノ恐レアリ是レ社員ノ數ヲ七人以下トナスコトヲ得サラシムル所以ナリ

#### ○第四 會社成立ノ手續

會社成立ノ前ニ履行スヘキ手續ハ如何○會社ヲ創立スルニハ實際左

ノ手續ヲ履ムヲ常トス先ツ會社ヲ創立セント欲スル者即所謂發企人ナル者相集リテ互ニ相議シ會社契約ノ草案ヲ作り株券ヲ發行シテ株主ヲ募集スルナリ時トシテハ發企人ノ中ニテ悉ク株券ヲ領取シ世上ニ廣告スコトヲ要セサルコトアリ然レトモ大抵ハ發起人ヨリ會社ヲ創立スルコトヲ世上ニ公告シ株券ヲ發行スルヲ以テ常トス於是世人ハ續々來リテ之ヲ購求スルコトヲ約スヘシ此場合ニテ發起人ハ一々其旨ヲ會社ノ帳簿ニ記載スルナリ然レトモ發企人ノ株券ヲ發行スルヤ種々アリ或ハ自ラ發行ノ手續ヲ爲スコトアリ或ハ他ノ銀行等ニ委託シテ之ヲ爲スコトアリ之ヲ銀行等ニ委託スルトキハ委託ヲ受ケタル銀行ニ於テ之カ廣告ヲナシ及ヒ購求ヲ望ム者ノ姓名ヲ帳簿ニ記載スル等ノ手續ヲナスナリ株券ヲ發行スルノ初ニ當リ第一ニ之ヲ購求スル者ハ果シテ何者ナリヤト問フニ實際ニテハ多クハ投機者流ニテ

通常人ノ之ヲ購求スル者ハ至リテ稀レナリトス而テ其之ヲ購求シタル投機者ハ株券價額ノ騰貴スルヲ待テ直チニ之ヲ他ニ轉賣シテ利益ヲ得ント欲スル者ナリ且ツ投機者ハ株券ノ騰貴ヲ促サンカ爲メニ相謀リテ頻リニ詐僞ノ廣告等ヲナスヲ常トセリ此ノ如クニシテ株券騰貴スレハ直ニ之ヲ賣却スルナリ此ニ於テ株券始メテ通常人ノ手ニ落チテ之ヲ得タル者ハ概ネ永ク所有シテ會社ノ株主トナルナリ

已上ハ會社ヲ創立スル實際ノ手續トス以下會社ヲ創立スルニ付法律上制定シタル條件ヲ説クヘシ其條件ハ四アリ

(第一)株券悉ク購求ノ約アルコトヲ要ス

(第二)各株主各其指出スコトヲ約シタル金高ノ四分ノ一以上ヲ指出スコトヲ要ス

(第三)發企人ハ公証人ノ造リタル公正証書ヲ以テ上ノ二條件ヲ履行シ

タルコトヲ證明スルヲ要ス

(第四)株主總會ヲ開クコトヲ要ス

第一條件○株券悉ク購求ノ約アルコトヲ要ス何ヲ以テ此條件ヲ要スルヤ曰ク是レ最初ニ購求ヲ約シタル株主ヲ保護スル所以ナリ蓋シ此規則ヲ設ケサルハ會社ハ若干株ノ申込約定濟ミタル後直チニ營業ヲ擧ムヘシ然ルニ其營業若シ宜ヲ得スシテ損失ヲ生スルトキハ株券ヲ購求スル約定ヲナシタル株主ノミ損害ヲ被リ其負担スル所ハ悉ク皆約定濟ミタルトキヨリ迥カニ重大ナルコト論ヲ待タサルナリ法律ハ斯ノ如ク一部分ノ株主ニ損害ノ全部ヲ負擔セシムルコトヲ欲セス是ヲ以テ株券悉皆約定濟ムノ後ニアラサレハ會社成立タスト定メタリ然レトモ時トシテハ最初會社カ廣告シタル資本ノ高ヲ集ムルコトヲ得ルコトアリ此ノ如キ場合ニテハ己ニ集リタル金ヲ返還シテ會社

解散スルカ又ハ株券購求ノ申込ナシタル株主ヲ集會シテ其惣員  
 ノ一致ヲ得テ會社ノ資本ヲ減少シ以テ成立ヲ遂クルカノ二途ニ出テ  
 サルヘカラス然レトモ惣員ノ一致ヲ得ルハ頗ル難事ニシテ殆ント行  
 フヘカラサル所ナリ因テ會社ノ契約中ニ社員(過半数)ノ同意ヲ以テ會  
 社ノ資本ヲ減スルコトヲ得ヘシトノ一條ヲ插入シ此ケ條ニ因テ資本  
 ノ高キ當時廣告シタル高ヨリ減少シテ直チニ營業ヲ擱ムルコトヲ得  
 ヘシ但シ更ニ之ヲ廣告スルヲ要ス時トシテ會社最初ノ預定高ヨリモ  
 多クノ貸本ヲ要スルニ至ルコトアリ此場合ニテハ更ニ新株券ヲ發行  
 スルカ又債券ヲ發行スヘシ  
 第二條件○各株主各其支出スヘキ金高ノ四分ノ一以上ヲ會社ニ納ム  
 ルヲ要ス例ヘハ株ノ高五百法ナル片ハ一株ヲ購得シタル者ハ百二十  
 五法ヲ會社ニ納メサルヘカラス

此ノ規則ニ依ル片ハ各株主各四分ノ一以上ノ金高ヲ納ムルヲ要スル  
 モノトス故ニ通計上資本金四分ノ一ヲ集メタルモ未ダ果シテ第二條  
 件ヲ履行シタルモノト謂フヘカラス何トナレハ若シ單ニ資本四分ノ  
 一ノミヲ集ルモノトセハ株主中或ハ四分ノ一以上ヲ出スモノアリ或  
 ハ四分ノ一以下ヲ出スニ止マルモノアルコトヲ得ヘケレハナリ何ヲ  
 以テ此ノ條件ヲ要スルヤ曰ク是レ資力ナキ投機者流カ漫リニ株券ヲ  
 買入レ未タ一錢ヲモ拂込マサルコト己ニ之ヲ他ニ轉賣シ其間ニ於テ利  
 益ヲ博セントスルモノヲ防ク所以ナリ且ツ此條件ナキ片ハ株券悉ク  
 約定濟ムモ其申込ナシタル株主ハ悉ク多少ノ資力アルモノナルヤ  
 甚タ覺束ナク會社カ拂込ヲ求ムルニ當リ之ニ應スルコトヲ得サル者  
 續々輩出スル恐ナキヲ保タサレハナリ此ノ條件ヲ設クルトキハ金高  
 四分ノ一以上ヲ拂込マサレハ會社成立タス會社成立タサレハ株券ヲ

賣買スルコト能ハス果シテ然ラハ世ノ資力ナキ投機者流カ未ダ一錢ノ拂込ヲモ爲サスシテ株券ヲ購求シ之ヲ他ニ轉賣セントスルカ如キノ弊ヲ絶ツコトヲ得ヘシ是レ此ノ條件ヲ設クル所以ナリ或ハ曰ク然ラハ則チ何リ資本金額悉ク集ルニアラサレハ會社成立セストノ條件ヲ設ケサルヤ若シ之ヲ設レハ株券ノ金高ヲ拂フコト能ハサル無資力者ハ跡チ株主ノ中ニ絶ツニ至ルヘシ彼ノ四分ノ一以上ヲ拂込メハ可ナリト云フカ如キニ至リテハ僅カニ四分ノ一ヲ拂ヒ込ムタケノ資力アル者尙ホ株券ヲ購求シテ投機賣買ヲ試ミルノ弊アルヲ免レサルナリト然レトモ此ノ如キハ實際ニ行ハルヘキコトニアラス且ツ此ノ方法ハ已下ノ諸弊害アリ第一○世ニハ株券ノ惣高チ一時ニ拂込ムコト能ハサルモ之ヲ數年ニ分納スルコトヲ得ヘキ者甚タ多シ然ルニ今此ノ方法ニヨレハ此種ノ人亦株券ヲ購求スルコト能ハス第二○會社概ネ初

メヨリ資本ノ物高ヲ用ユルモノニアラス然ルコ今資本悉皆チ一時ニ會社ニ集ムルトキハ會社ハ之ヲ用ユルニ處ナク空シク庫中ニ積マサルヲ得サルノ損アリ

第三條件○發企人ハ公証人ノ作りタル公証証書ヲ以テ己上ノ二條件備リタルヲ証明スヘシ何チ以テ此ノ如キ証書ヲ要スルヤ是レ他チシ公証人ハ法律ヲ諳スルノ人ナルヲ以テ發企人ニ對シテ法律ノ疑點ヲ解説スルコトヲ得ルカ故ナリ且ツ此ノ証書ニハ已下ノ諸書ヲ副フヘシ第一株主申込人ノ連名第二拂込金ノ模様第三會社ノ契約是ナリ但シ初メ會社ノ契約書ヲ作りタル公証人ニ委頼スルトキハ會社契約書ハ之ヲ副フルニ及ハス何トナレハ此契約書ノ原本ハ正サコ此公証人ノ手裡ニアレハナリ

第四條件○株主ノ惣會アリタルヲ要ス株主惣會ハ左ノ諸件ヲ行フ

(第一)上ニ述ヘタル三條件ノ已ニ履行シ得タルヤ否ヤヲ検査スルコト  
 (第二)或社員ノ醸出シタル物件ノ價格ヲ定メ又或社員ノ會社ノ爲メニ  
 盡シタル勤勞ノ價直ヲ定メ以テ此社員ニ若干ノ株ヲ附與スルコト是  
 ナリ  
 蓋シ此等ノ價格ヲ定ムルコトハ獨リ株主惣會ノ專ラニスヘキ所ニシ  
 テ發企人ノ關知スヘキ所ニ非ス往日法律ノ未タ完備セサルヤ此一件  
 ハ全ク發企人ノ專行スルヲ許シタルヲ以テ發企人ハ已レノ出シタル  
 物品ト己レノ盡シタル勤勞トニ過大ノ價額ヲ附與スルノ弊アルヲ免  
 カレサリキ今株主惣會ニテ之ヲ決スルコトニ定メシハ正サニ此弊ヲ防  
 カンカ爲メナリ且ツ法律上此點ニ就テハ最モ注意ヲ加ヘ株主カ調査  
 ナ疎略ニシテ容易ニ價格ヲ定ルコトヲ豫防センカ爲メニ惣會ヲ開ク  
 コト再度ノ後ニアラサレハ物品及ヒ勤勞ノ價額ヲ定ムヘカラスト定

ム其順序ハ先ツ第一會ニテハ發企人ヨリ物件及ヒ勤勞ノ目錄ヲ造リ  
 假リニ若干價額ヲ附シテ株主ノ參考ニ供スルナリ而シテ株主ハ委員  
 ナ撰ンテ其當否ヲ調査スルコトヲ委任ス委員ハ調査ヲ爲シタル後第  
 二會開會五日前ニ之ヲ衆株主ニ報知スヘシ然ル後第二會ヲ開キ株主  
 ノ決議ニ因リテ始メテ其價額ヲ一定ス但シ物件ノ醸出人及ヒ勤勞ア  
 ル者ハ決議ノ數ニ加フルコトヲ得ス己ニ此ノ如ク惣會ノ決議ニ因リ  
 テ物件及ヒ勤勞ノ價額一定シタル後ト雖モ發企人ノ報告又ハ委員ノ  
 調査ニ詐僞アルトキハ株主ハ何時ニテモ此決議ヲ取消スノ訴ヲ起ス  
 コトヲ得ルハ勿論ナリ但シ會社ニ醸出シタル物件惣株主ノ共有物件  
 ナルキハ其價額ヲ一定スルニ及ハス次ニ株主惣會ニ於テ行フ件ハ第  
 三會社ノ役員及ヒ監督委員ヲ撰舉スルナリ茲ニ一疑問アリ發企人ノ  
 中ニテ悉ク株券ヲ領取シタルトキハ會社成立シ四條件ヲ履行スルコ

トヲ要スヤトノ疑問是ナリ蓋シ彼ノ四條件ハ發起人ニアラサル社員ヲ保護スル爲メニ設ケタルモノ、如シ然レハ則チ發企人ニアラサル社員之レナキトキハ此ノ條件ヲ要スルノ理由ナキカ如シ是レ此ノ疑問ノ起ル所以ナリ

○第五 株式ノ賣買

上ニ述ヘタル如ク株式ノ賣買トハ民法第一千六百九十條ニ規定シタル債權讓渡ノ普通手續ヲ履マスシテ別ニ簡易ノ方法ヲ用ヒテ之ヲ讓リ渡スコトヲ云フ然ルニ法律ハ株式賣買上ニ制限ヲ設ケテ容易ニ之ヲ許サス是レ投機者ヲ抑制スル所以ナリ之ニ關スル規則左ノ如シ  
(第一則)上ニ述ヘタル如ク株式ハ會社成立ノ後コアラサレハ之ヲ賣買スルコトヲ得ス故ニ會社成立ニ必要ナル四條件ヲ履行シタル後ニアラサレハ株式ノ賣買ヲ始ムルコト能ハス

(第二則)株式購求ヲ申込ミタル者ハ之ヲ所有スルト其之ヲ他ニ讓渡シタルトキ問ハス約定シタル金高ハ必ス之ヲ拂フノ責任アリ是レ普通ノ原則ヲ適用シタルニ過キサルナリ何トナレハ凡ソ負債主ハ自己ノ隨意ニ義務ヲ他ニ移シテ自ラ責ヲ免ル、コトヲ得サルハ即チ普通ノ原則ナレハナリ但シ約定ノ金高ヲ會社ニ拂込ムノ義務ハ獨リ申込人ノミアルニアラス現ニ此ノ株式ヲ讓リ受ケテ之ヲ所持スル者及ヒ曩ニ一度之ヲ買取り再ヒ他ニ讓渡シタル者モ亦此ノ義務ヲ負擔スヘシ蓋シ讓受人ハ株式ヲ讓受ルヲ以テ直チニ申込者ノ位置ヲ襲フ者ニシテ申込人ノミアルニアラス現ニ此ノ株式ヲ讓リ受ケテ之ヲ所持スル者及ヒ曩ニ一度之ヲ買取り再ヒ他ニ讓渡シタル者モ亦タ此ノ義務ヲ負擔スヘシ蓋シ讓受人ハ株式ヲ讓受ルヲ以テ直チニ申込者ノ位置ヲ襲フ者ニシテ申込人ノ權利ヲ得ルト同時ニ其義務ヲ併セテ得タルモ

ノナレハナリ故ニ會社ハ凡テ三ツノ訴權ヲ用ヒテ申込ノ金高ヲ拂込  
マシムルコトヲ得ヘシ第一、申込人ニ對スル訴權第二、現ニ株券ヲ所持  
スル讓受人ニ對スル訴權第三、現ニ株券ヲ所持セサル讓受人ニ對スル  
訴權是ナリ

此ノ第二則ハ株券無記名ナルトキハ充分ニ之ヲ實際ニ適用スルコト  
能ハサルノ恐レアリ何トナレハ若シ無記名ナレハ其之ヲ讓リ渡スヤ  
猶ホ一動産ヲ讓リ渡スカ如ク忽チニシテ數人ノ手ヲ經ルニ至ル可シ  
故ニ一々讓受人ヲ穿索シテ之ヲシテ約定ノ金額ヲ拂ハシムルコト能  
ハサルナリ即チ會社ハ僅カニ申込人及ヒ現ニ株券ヲ所有スル讓受人  
ニ向ツテ此金額ヲ請求スルコトヲ得ルノミ且ツ申込人會社ノ請求ニ  
應ジテ其金額ヲ拂込ムコトアルモ讓受人ニ對シテ其價ヲ請求スルノ  
道極メテ難シトス故ニ法律ハ此不都合ヲ除キ凡テ讓受人ヲシテ皆義

務ヲ免ルコトヲ得サラシメシカ爲メ左ノ規則ヲ設ケ

(第三則)株券ハ其金額ヲ悉ク會社ニ拂込ム迄記名証券タルヲ要ス此規  
則ニ因レハ株式ノ金額ヲ悉ク會社ニ拂込ム迄ハ株券ヲ讓渡スニ一々  
之ヲ會社ノ帳簿ニ記載セサルニカラス此ノ如クニシテ始メテ會社ハ  
總讓受人ヲ知り之ニ向テ拂込ヲ求ムルコトヲ得ヘシ故ニ此第三則ハ  
正ニ第二則ヲ實際ニ適用セシムルノ方法ニ過キサルナリ然レトモ此  
第三則ハ實際上不便利ヲ免カレス何レナルハ記名証券ヲ賣買スルニ  
ハ一々會社ノ帳簿ニ記載スルノ煩ヲ取ラサルヘカラス彼手ヨリ手ニ  
渡スヲ以テ讓渡完結スル無記名証券ノ如ク簡且ツ便ナルコト能ハサ  
レハナリ於是乎法律ハ左ノ規則ヲ設ケ第三則ノ例外ヲ許スニ至レリ

(第四則)已下ノ三條ヲ備フルトキハ株式ノ金額ヲ悉ク會社ニ拂込マサ  
ル前ト雖モ株式ヲ無記名証券トナスコトヲ得ヘシ第一、株主ノ總會



ニテ無記名証券トナスコトヲ許スコト第二條各株主一同ニ約定金額ノ半額ヲ納ムルコト故ニ今無記名トナサント欲スル株券ニ就テシテ其金額ノ半額ヲ納ムルモ其効ナク又會社惣資本ノ半額集リタルノミニテモ其効ナク必スヤ各株一同ニ其金額ノ半額ヲ納ムルヲ要スルナリ何ヲ以テ此第二條ヲ要スルヤ曰ク是レ既ニ金高ノ半額ヲ納ルトキハ株主ノ申込着實ニシテ徒ラニ投機賣買ヲサシカ爲メコ之ヲ爲シタルニアラサルコトヲ証スルニ足ルヲ以テ無記名証券ノ賣買ヲ許スモ最早危險ノ恐レナキカ故ナリ第三條會社ノ契約ニテ總會ニ許スニ此等ノ權ヲ以テスルコト何ヲ以テ此第三條ヲ要スルヤ曰ク若シ契約中ニ之ヲ定メサルトキハ會社ト契約ヲナス者ハ必ス株券ノ投機賣買即チ無記名証券ノ賣買ハ株金悉皆集リタル上ニアラサレハ始ルコトナシト思料スヘシ此時ニ當リテ早ク已ニ株券ノ投機賣買アルト

キハ是レ契約者ヲ欺クニアラスシテ何ソヤ若シ夫レ會社ノ契約中ニ此條ヲ載スルトキハ契約者ハ兼テ此事アルヲ覺悟シテ契約ヲ爲スカ故ニ之ヲ欺クノ誹リアルコトナシ是レ第三條ヲ要スル所以ナリ  
 (第五則)株券ヲ無記名トナスコトハ前則メ如ク株主總會ニテ之ヲ許スト雖モ尙ホ三年間ハ申込人ニ於テ約定ノ金額ヲ拂フノ義務ヲ免ルコト能ハス但シ二年ヲ過ルトキハ約定ノ金額ヲ悉ク拂込マサルモ其殘額ヲ拂フノ義務ヲ免ルヘシ  
 蓋シ二年間義務ヲ負ハシムル所以ハ尙シ斯ノ如クセサレハ會社失敗ヲ爲スニ當リ株主等集會シテ株券ヲ無記名株トシ其賣買ヲ容易ニシ其機ニ乘シテ速ニ之ヲ轉賣シ直チニ殘金ヲ拂フノ義務ヲ免ル、カ如キコトナキヲ保セサレハナリ是レ法律ノ是認セサル所ナリ故ニ法律上ニハ尙ホ二年間ノ義務ヲ負ハシメ以テ株主等ヲシテ此策ヲ行フモ

到底益ナキコトヲ知ラシメント欲スルナリ  
 株式ノ記名券ナリシモノヲ無記名券トナスコトニ就キ尙ホ一言ヲ述  
 べ以テ株式賣買ノ篇ヲ終ルヘシ  
 第一ノ場合○會社契約中ニ會テ株券ヲ無記名トナスコトヲ掲ケサル  
 場合ニテハ株金悉皆拂込アリタル後ニアラサレハ之ヲ無記名トナス  
 コト能ハス此時迄ハ必ス記名タラサルヘカラス故ニ申込人并ニ讓受  
 人假令現ニ株券ヲ所有セスト雖モ株式ノ金額ヲ拂込ムノ義務ヲ免ガ  
 ル、コト能ハス  
 第二ノ場合○會社契約中ニ株主總會ノ決議ニ因リ株券ヲ無記名トナ  
 スコトヲ得ヘシトノ條アリテ此條ニ從ヒ株主總會ヲ開キ意見ヲ問フ  
 ニ物會ハ之ヲ否決セリ此場合ニテハ全ク第一ノ場合ト結果ヲ同フス  
 ヘシ

第三ノ場合○會社契約中ニ株主總會ノ決議ニ因リ株券ヲ無記名トナ  
 スコトヲ得ヘシトノ條アリ而シテ總會ハ之レヲ可決セリ此場合ニテ  
 ハ株主ノ意見ニ從フテ其株券ヲ無記名トナスコトヲ得ヘシ但シ此株券  
 ナ悉皆無記名トナスコトヲ強ルコト能ハス且ツ株券ノ記名タルト無  
 記名タルトヲ問ハス申込人及ヒ總會ノ決議前ニ之ヲ讓受ケタル讓受  
 人ハ三年間義務ヲ免ル、コト能ハス之ニ反シ總會ノ決議後ニ之ヲ讓受  
 ケタル讓受人ハ現ニ株券ヲ所有スルニアラサレハ株金拂込ノ義務ヲ  
 負擔スルコトナシ

第六節 無名會社成立規則ノ制裁(即チ無名會社成立規則  
 中ニ規定スルノヲ犯ストキノ罰則)

會社成立ノ規則ヲ履マサルトキハ種々ノ罰則アリ其最も重要ナル者  
 ハ會社ノ無効トナルコト是ナリ例ヘテ各株式ニ就テ四分ノ一以上ノ

株金ヲ拂込マサル前ニ會社ノ營業ヲ初メタルトキハ此會社ハ無効タルヘシ然レハ則チ會社ノ無効ヲ主張スルコトヲ得ヘキ者ハ何人ナリヤ曰ク會社ノ債主是ナリ又彼ノ廣告ノ規則ヲ履マサルトキニ於ケルカ如ク社員(株主)ハ自ラ會社ノ無効ヲ他人ニ對シテ主張スルコト能ハサルハ勿論ナリ次ニ又株主ノ一人他ノ株主ニ對シテ會社ノ無効ヲ主張スルコトヲ得ヘシ何トナレハ法律ニ株主ハ他人ニ對シテ無効ヲ主張スルコト能ハストアルニヨリテ見レハ株主ガ他ノ株主ニ對シテ無効ヲ主張スルハ法律ノ禁制内ニ入ラサルヲ以テナリ

第二ノ罰則(會社成立ノ規則ヲ履行セサルヨリ生スル損害ハ左ニ列擧スル者無限連帶ニテ之レヲ償フノ義務アリ

第一發企人詐偽又ハ不注意アリタルトキ

第二役員過失アリタルトキ

或曰役員ナル者ハ會社成立シタル後ニアラサレハ之ヲ撰任スルコト大シ然レハ則チ如何シテ應サニ成立ノ際ノ規則ヲ履行スルヲ擔任スヘキニ已ニ其擔任ニアラサル已上ハ役員ニ過失アルノ理ナシト曰ク否時トシテハ會社ノ契約中ニ會社未タ成立セサル已前已ニ役員ヲ撰定シ置クコトアリ此場合ニテハ役員タル者會社成立ノ規則ヲ履行セシムルノ義務アレハナリ故ニ此事ニ就キ役員ニ過失アレハ其役員ハ之カ責任ヲ免ルコト能ハサルナリ

第三株主ノ内物件ヲ會社ニ讓出シ株主總會ノ決議ニテ之カ價額ヲ決定セシムルコトヲ怠リタル者

此數者ハ何レニ對シテ責任ヲ負擔スヘキヤ曰ク先ツ會社ノ債主ニ對シテ之ヲ負擔シ次ニ株主ニ對シテ之ヲ負擔スヘキナリ然ラハ其負擔ノ程限ハ如何曰ク其過失ニ因リテ生シタル損害ヲ償フニ止ルノミ

第三罰則 ○會社成立ノ規則ヲ履行セズシテ營業ヲ扱ムルモキハ民事上ノ責任ノ外尙ホ刑事上ノ責罰アリ其罰例ハ一千八百六十七年ノ法律第十三條ヨリ第十六條ニ之ヲ記載ス但シ此條ハ差金會社ヲ爲メコ設ケタル者ナレトモ第四十七條ヲ案スルニ無名會社ニモ適用ストア

○第七 無名會社成立ノ廣告ノ手續

第一會社ハ會社契約書ノ正本(契約書ヲ私印證書ニ認メタルトキ)若クハ副本(契約書公証人ノ手ニ成リタル紙)キチ一部宛商事裁判所及ヒ治安裁判所ノ書記局ニ納付スルニ當リ其納付ノ事實ハ該所ニ對シテ此契約書何人ニ限ラズ裁判所ニ到リテ一見スルコトヲ得ルシヨリ第二會社ハ會社契約書ヲ披書チ新聞紙上ニ廣告スルニ當リ此披書及ヒ社外人ニ要ナル部分ハ該紙ニ載スベシ而シテ之ヲ記載スル

キ條件ハ合名會社ノ條下ニ於テ解説シタルモノト大同小異ナリ但シ其異ナル處ハ無名會社ニ於テハ社名ヲ捺シ又社員交名ヲ載スルニ及ビサルニシテ何トナレハ社員即チ株主ニ其讓出シタル株金ノ外ニ負擔スルコトヲキチ以テ其姓名ヲ記載スルモ大ナル利益ヲキカ故ナリ第三會社契約書ヲ會社ノ役所ニ揭示スベシ又右ノ如ク裁判所及ヒ會社ニ備ヘ置ク會社契約書ニハ左ノ諸書ヲ副フヘシ  
第一株券悉皆申込アリタルコト及ヒ各株四分ノ一以上拂込済ミタルコトヲ證明スル公証人ノ作りタル證書ノ寫  
第二株主總會議事錄  
第三株主ノ姓名表  
第四何人タルヲ問ハ會社ニ至リテニ法ヲ拂フトキハ契約書及ヒ之ニ

附属スル書類ノ寫ヲ受領スルコトヲ得  
 法律上ニ一法ヲ制限シタル所以ハ斯ノ如クセサレハ過重ノ金ヲ請求  
 シ爲メニ人ヲシテ會社ノ契約書等ヲ知ルヲ能ハサラジムルノ弊アル  
 ナリテナリ  
 第五會社ハ其他人ニ送ル書類ニハ必ス其營業ノ種類及ヒ成立ノトキ  
 ノ資本ノ額ヲ記載スヘシ  
 蓋シ實際ニ於テハ此二件ヲ會社ノ用紙ニ印刷シ置クナリ此第五ノ手  
 續ハ少シク不完全ナリトシテ議ヲ免レサルヘシ何トナレハ會社ノ資本  
 ナル者ハ時々増減アルヲ免レス故ニ會社ヨリ出ス書類ニ常ニ最初ノ  
 資本額ヲ記載シ置クトモハ其現資本額ト異ナル場合ヲ生シ爲ニ世人  
 ナ欺クノ恐レアリ寧ロ時々ノ現資本額ヲ記載スルノ正當ナルニ如カ  
 サルナリ

○第五節 無名會社ノ管理

○第一款 無名會社ヲ管理スルニ必要ナル機關

無名會社ヲ分拆スルトキハ之ヲ管理スルニ必要ナルモノ三ツアルコ  
 トヲ發見スヘシ  
 第一役員第二監督委員第三株主總會是ナリ  
 第一役員○役員ノ性質ヲ列擧スレハ左ノ五項ヲ有スルモノトス  
 第一ノ性質○會社ノ役員ハ必ス株主總會ニテ之ヲ撰擧スルコトヲ要  
 ス但シ時トシテハ最初發起人ノ造リタル會社契約中ニ何某ヲ以テ役  
 員トスヘシト定メ置クコトアリ發起人自ラ役員トナラント欲スル場  
 合ニテハ常ニ斯ノ如クスルヲ例トス此場合ニテモ尙ホ役員ハ株主ノ  
 撰任ニ成レリト云フヲ得ヘシ何トナレハ株主ハ會社ノ契約ニ同意ヲ  
 表シ隨ツテ其契約中ニ撰定シタル役員ヲ是認シタル以上ニアラサレ

ハ株主購求ヲ申込マサルナリ既ニ之ヲ申込ミタル以上ハ此役員ハ即チ株主ノ是認シタル者ト看做サ、ルヘカラサレハナリ

第二ノ性質○役員ハ常ニ會社即チ株主ノ意ニ隨フテ之ヲ免スルコトヲ得ヘシ蓋シ役員ハ素ト代理人ニ過キズ代理人ハ常ニ本人ノ隨意ニ解任スルコトヲ得ルハ普通ノ原則ナレハナリ此事ハ一千八百六十七年ノ法律第二十二條ニ載セタリ而シテ該條ニ於テハ役員ノ種類ヲ分ツコトナキニシテハ會社契約書中ニ撰定シタル役員ニモ亦此規則ヲ適用セリ

第三ノ性質○役員ノ任期ハ四年ヲ過クルコト能ハス蓋シ屢々役員ヲ改撰スルノ不可ナルハ勿論ナレトモ永ク改撰ヲ中止スルモ亦不可ナリ是レ此ノ規則ノ由テ起ル所以ナリ或ハ曰ク會社ノ株主ハ其意ニ隨ツテ役員ヲ解任スルコトヲ得ルニシテラスヤ果シテ然ラハ此ノ規則ハ

全ク無用ニ屬スルニ似タリト曰ク否此規則ハ實際ニテ頗ル効用アルモノナリ蓋シ役員ヲ改撰スルハ之ヲ解任スルトハ大ニ異ナリ解任トハ改撰ノ期限前ニ特ニ役員ヲ解免スルナリ即チ役員ノ過失或ハ怠惰ノアリシコトヲ証スルモノナリ此ノ如キハ株主ノ容易ニ發言スルヲ憚ル情勢アリ之ニ反シ改撰期限ニ當リテ從來ノ役員ヲ再撰セルカ如キハ實ニ容易ナリ是法律上ニ改撰ノ期限ヲ短縮シテ株主ヲシテ容易ニ其欲スル所ノ者ヲ役員トナスコトヲ得セシメタル所以ナリ又役員ハ再撰スルコトヲ得ル者トス又會社契約書中ニ撰定シタル役員ハ三年ノ後ニ改撰セシムル者トス是レ法律上ニテ株主ノ議決ヲ經スシテ撰定シタル役員ニ信ヲ措ク能ハサルモノト看做ス故ナリ又佛蘭西銀行土地抵當會社ノ如キ特別會社ノ役員ハ特別ノ規則ニ因リテ之レヲ撰定セリ即チ大概政府之ヲ撰定スルモノトス

第四ノ性質○役員ハ或ハ給料ヲ受ケ或ハ無給タルコトアリ蓋シ實際ニテハ無給ノモノ甚タ稀ナリ尙シ無給ナルトキハ民法第千九百九十二條ニ因リ其責任少シク減少スルモノトス

第五ノ性質○役員ハ必ス株主中ヨリ之ヲ撰任スヘシ蓋シ此規則ハ無名會社特別ノ規則ニシテ他ノ會社ニテハ必スシモ之ヲ適用セサルナリ若シ無名會社ニテ株主ニアラサルモノヲ役員トセント欲スルトキハ會社ヨリ之ニ若干ノ株ヲ附與スルカ否ヲサレハ之ヲ役員トセスシテ雇人トシテ採用スルヲ例トス問フ此規則ノ理由ハ如何曰ク是レ第一ニハ役員ヲシテ會社管理ノ良否ニヨリ自己ノ利害ヲ有セス第二ニハ役員ノ有スル株式ヲ以テ其責任ノ保証トナサンカ爲メナリ蓋シ役員ノ有スル株式ハ之ヲ讓與スルコト能ハス且ツ之ヲ會社ニ預クルヲ要ス又會社ノ契約書中ニ役員トナルニ必要ナル株數即チ各役員ノ

有スヘキ株式ノ數ヲ定ム或曰役員ノ有スヘキ株式ハ總員ニシテ若干株ナリト定メ且ツ役員ノ責任チ一同連帶トナストキハ別ニ各役員ニ就テ共有スヘキ株數ヲ定ムルニ及ハサルヘシト然レトモ斯ノ如クズルトキハ役員中ヨテ其抵當ニ出シタル株式ノ數等シカラサルカ故ニ多數ヲ出シタル者獨リ威權ヲ占ルカ如キ弊アルヲ免レサルナリ

已上ノ五項ハ役員ノ性質ナリ以下應サニ役員ノ職務ヲ説クヘシ役員ハ會社ノ管理者ナリ故ニ會社ノ事務ハ悉ク之ヲ負擔スヘシ若シ契約書中ニ役員ノ權限ヲ規定セサルトキハ民法代理篇ノ規則ヲ適用スヘシ又役員ノ數一人ナルトキハ其權利ヲ知ルコト甚タ容易ナレトモ數人アルトキハ之ヲ知ルニ難シ故ニ役員相集リテ一局ヲ作り之ヲ役員會議ト名ケ會社一切ノ事務ヲ決定ス而シテ其中ヨリ擔當者ヲ撰シテ各事務ヲ取扱ハシム此各取扱人ノ集リタルモノヲ名ケテ常務局

ト云フ  
 巨大ナル會社ニテハ營業頭取ナルモノヲ設ケ専ラ會社ノ營業ヲ指揮  
 セシム即チ會社ノ營業事業ニ通達シタル専門家ヲ以テ之ニ充ツ此營  
 業頭取ハ或ハ役員ノ中ヨリ之ヲ命ジ或ハ他人ヲ用ユルコトヲ得ヘシ  
 又之ヲ任スルニ或ハ役員局ノ撰任ニ因リ或ハ株主總會ノ撰定ニ係ル  
 コトヲ得ヘシ余ノ見ル所ヲ以テスレハ役員局ノ撰任ニ因ルヲ好シト  
 ス何トナレハ營業頭取ハ終始役員ト共同シテ事業ヲ營ム者ナレハ其  
 間ニ不和ヲ生スルガ如キハ務メテ之ヲ避ケサルヘカラス今役員ノ欲  
 スル所ノ人ヲ用ヒテ頭取トスレハ最モ營業ノ爲メニ便宜ナレハナリ  
 役員ハ營業頭取ノ過失ニヨリ責任ヲ有スルヤ曰ク若シ營業頭取役員  
 局ノ撰定ニ因リテ任セラレタル由キハ役員責任アリ若シ株主總會ノ  
 撰定ニ因リテ任セラレタル由キハ役員自ラ過失スルニアラサルヨリ

ハ別ニ責任アルコトナシ

第二監督委員○監督委員ノ性質ハ左ノ二項ヲ有スルモノトス  
 第一ノ性質○監督委員ハ株主總會ノ撰任ニ因ル蓋シ會社ノ事實ヲ監  
 督スルニ最モ利害ヲ有スル者ハ株主ニ如クモノナキカ故ナリ監督委  
 員ハ役員ニ反シ或ハ之ヲ株主中ヨリ採リ或ハ之ヲ株主外ヨリ採ルコ  
 トヲ得ヘシ蓋シ會社ノ事務ヲ監督スルニハ會社ノ事業ニ熟達シタル  
 モノニアラサレハ能ハス然ルニ株主中ニ能ク此撰ニ當ルコトヲ得ル  
 者ナキヲアリ此場合ニテハ勢イ株主外ニ之ヲ求メサルヲ得サルナリ  
 若シ株主總會ニテ監督委員ヲ撰任セサルトキハ商法裁判所長之ヲ撰  
 任ス(一千八百六十七年ノ法律第二十五條及ヒ第三十二條參看)  
 第二ノ性質○監督委員ノ任期ハ一年ヲ超過スルヲ得ス但シ再撰ス  
 ルコトヲ得シ監督ノ事務ハ役員ノ事務ト異ニシテ必スシモ同人ニテ



數年間繼續スルコトヲ要セサレハナリ  
 監督委員ノ職務ハ如何曰ク役員ノ所爲ヲ監督スルニ在リ今其主要ナルモノヲ數フルトキハ左ノ如シ  
 第一○役員カ毎年々末ニ製スル報告書ヲ調査スルナリ第二○監督委員自ラ報告書ヲ造ルナリ就中利益金配當ノ事ニ就キ意見ヲ述フヘシ虚偽ノ利益金ノ配當ヲ防クカ如キハ監督委員ノ最モ務ムヘキ所ナリ第三○危急ノ場合ニテ臨時株主總會ヲ開クヘシ例ヘハ役員ノ管理方法宜シキヲ得スシテ非常ノ損失ヲ生スルノ恐レアル時ノ如キ是ナリ監督委員カ是等ノ職務ヲ盡ス爲メニ役員ノ所行ヲ調査スルノ方法ハ今之ヲ略ス

第三株主總會○株主總會ノ組織ハ左ノ三則ヲ以テ成ルモノトス

第一則○會社契約中ニテ株主總會ニ出席スルニ付キ必要ナル株式ノ

數ヲ定ルコトヲ得ヘシ蓋シ此ノ規則ヲ設ケテ出席株主ヲ定限セサルトキハ僅ニ一株ヲ有スル株主ト雖モ出席シテ議事ヲ妨害スルコトナキヲ保セス且ツ株主悉ク出席スルコトヲ得ルトキハ總會ヲ開クモ容易ク株主ノ過半数以上ヲ集ルコト能ハス何トナレハ一株若シクハ二三株ヲ有スル者ハ動モスレハ出席スルヲ怠ルノ弊アレハナリ  
 第二則○投票權ノ數ハ株式ノ數ニ隨フテ増減アルヲ例トス蓋シ株式ヲ有スルコト愈々多ケレハ會社ノ營業ニ利害ヲ有スルコト愈々多キハ必然ノ理ナレハナリ然レトモ若シ株式ノ數ノミヲ以テ投票權ヲ定ルトキハ非常ニ多數ノ株式ヲ有スル者獨リ議會ノ決議ヲ左右スルノ患アリ故ニ此ノ弊ヲ防カンカ爲メニ投票權ノ數ニ制限ヲ設ケ若干株迄ハ若干ノ投票權ヲ有ストシ是レヨリ以上ノ株數ヲ有スル者ト雖モ是レヨリ以上ノ投票權ヲ有スルコトナシト定ムルコトヲ得ヘシ是レ

即チ投票權ノ數ニ制限ヲ設クルナリ然レトモ世ノ富豪或ハ此制限ヲ侵シテ總會ニ權力ヲ專ラニセント欲シ他人ノ名ヲ用ヒテ株式ヲ購求シ其株主ヲシテ己レノ意見ヲ議場ニ主張セシムルコトアリ

第三則○株主總會ニ出席スルコトヲ得ヘキ株主ハ代理人ヲ出スコトヲ得ル但シ代理人ハ必ス株主ノ中ヨリ出スヲ要ス蓋シ株主ニアラサル者代理人トナルトキハ會社ノ事業ニ利害ヲ有セサルヲ以テ動モスレハ徒ラニ會議ヲ妨害スルノ患アレハナリ總會ニ出席スルコトヲ得ヘキ株主ハ書面ヲ以テ其意見ヲ總會ニ提出スルコトヲ得ス蓋シ出席セズシテ意見ヲ述フルトキハ他人ノ論議ヲ聞テ己レノ意見ヲ決定スルノ利益ヲ失フカ故ナリ

已上株主總會ニ左ノ種類アリ

第一創立會第二通常會第三臨時會(上ニ述ヘタル組織ノ規則ハ三種ノ

總會ニ悉ク適用スヘキモノナリ)

第一創立會○(千八百六十七年法律第二十四條)創立會ハ社員ノ釀出シタル物件及ヒ社員ノ盡シタル勤勞ノ價額ヲ定メ之ニ附與スヘキ株數ヲ定メ次ニ會社成立ノ規則ヲ履行シタリトノ發企人ノ申立ヲ檢査ス創立會ニハ上ニ述ヘタル一般ノ規則ノ外ニ左ノ特別ノ三規則アリ

○第一則會社契約ニ如何ナル箇條アルニ拘ハラス株主タル者ハ悉ク創立會ニ出席シテ議決ノ數ニ與フルコトヲ得ヘシ蓋シ創立會ハ實ニ會社ヲ創立スル者ナリ今會社創立ノ際ニ當リ之カ社員タラント欲スル者悉皆議事ニ參與スルハ自然ノ理ナレハナリ

○第二則會社契約ニ如何ナル箇條アルニ拘ハラス創立會ニテハ如何ナル株主ト雖モ十株以上ノ投票權ヲ有スルコト能ハス是レ多數ノ株ヲ有スル株主ノ專横ヲ防ク所以ナリ

○第三則創立會ニ出席スル株主ハ合シテ全株數ノ二分ノ一以上ヲ代表スルヲ要ス故ニ株主ノ人數ハ法律ノ問フ所ニアラス出席ノ株主甚タ少數ナルモ其所有ノ株券ヲ合シテ總株數ノ二分一以上ヲ得ルキハ充分ナリ此ノ規則ヲ設ケタル所以ハ創立會ハ最モ重要ノ會タルヲ以テ少數ノ株主ニテ之ヲ組成スルコトヲ得サラシメンカ爲ナリ今出席ノ株主全株數ノ二分ノ一以上ヲ代表セサルトキハ如何スヘキヤ此ノ場合ニテハ期日ヲ延シテ更ニ開會スヘシ而シテ第二會ニテハ出席員ニテ資本五分ノ一以上ヲ代表セサルトキハ幾度ノ延期ヲナシタル後ト雖モ決シテ開會スルコト能ハス

第二通常會○通常會ハ一年一度以上之レヲ開クヘシ此會ニテハ役員ノ報告ト監督委員ノ報告トヲ聞キ利益金ノ配當ヲ決議シ及ヒ監督委員改撰等ノ事ヲナス役員ヲ改撰スルモ亦此會ニ於テ

ス

通常會ニハ左ノ特別ノ二規則アリ

第一則○通常會ニ出席スル株主ハ資本四分ノ一以上ヲ代表スルヲ要ス若シ出席員ノ株數資本四分ノ一以上ニ達セサルトキハ更ニ第二會ヲ開クヘシ但シ第二會ハ出席員ノ數ニ拘ハラズ開會スルコトヲ得ヘシ是レ通常會ハ創立會ノ如ク重要ノモノニアラサルヲ以テナリ

第二則○故ニ法律ハ左ノ規則ヲ設ク曰ク會日ヨリ十五日前ニ會社ハ總株主ニ左ノ書類ヲ渡スヘシ(株主之ヲ要求スルトキ)第一會計表第二監督委員ノ報告書第三株主ノ名簿○或人怪ミ問フテ曰ク株主ニ渡スヘキ書類中役員ノ報告書ヲ見サル如何ト余答ヘテ曰ク是レ一ニハ成丈ケ多クノ株主ヲ總會ニ集メントスルノ策ナラン蓋シ役員ノ報告書ハ會員ノ最モ見ンコトヲ欲スル所ノ者ナリ故ニ今之ヲ配達シ了リタ

ルトキハ株主中或ハ總會ニ出席スルヲ要セストテ出席セサル者多カ  
 ラン又一コハ役員ヲシテ開會ノ時迄ニ其報告書ヲ改更スルコトヲ得  
 セシメンカ爲メナリ第三臨時會〇(又非常會ト曰フ)臨時會トハ會社ノ  
 契約ヲ改更スルコトヲ目的トスル會ナリ若シ法律ニ特別ノ規則ヲ設  
 ケサルトキハ會社ノ契約ヲ變更セントスルコトハ如何スヘキヤ曰ク會  
 社ノ契約ハ衆株主ノ間ニ成リタル約束ナリ凡ソ約束ナル者ハ契約者  
 悉皆承諾セサレハ之ヲ變更スルコト能ハサル者ナリ故ニ會社ノ契約  
 モ亦總株主悉皆承諾スルコト能ハサル者ナリ然レ  
 凡此規則ヲ會社ニ適用スルトキハ殆ント會社ノ契約ヲ變更スルコト  
 能ハサルト云フテ可ナリ何トナレハ數百千ノ株主中止タ僅カニ一人  
 ノ不同意者アレハ契約ヲ變更スルコト能ハサレハナリ故ニ法律ハ臨  
 時會ニテ株主過半數ノ同意アルトキハ會社契約ヲ變更スルコトヲ得

ヘシト定メタリ但シ臨時會ニテ株主過半數ノ同意アリトモ會社ノ性  
 質ヲ變更スルコト能ハス例ヘハ鐵道會社ヲ變シテ航運會社トナスカ  
 如キ是ナリ蓋シ會社ノ性質ヲ變更スルコトハ總株主ノ一致ヲ要スレト  
 モ總株主ノ一致ヲ得ルハ頗ル難事ニシテ殆ント爲シ能ハサルハ己ニ  
 上ニ述ヘタルカ如シ故ニ會社果シテ其性質ヲ變更セサルヲ得サル場  
 合ニテハ總會ニテ一ト先ツ會社ヲ解散シ(株主總會或ハ事情アルトキ  
 會社ヲ解散スルノ權アリ)然ル後再ヒ新會社ヲ成立ス若シ株主中新會  
 社ニ入社スルコトヲ欲セサル者アレハ會社ハ之ニ株金ヲ辨濟スルナ  
 リ臨時會ヲ組織スルニハ必ス資本二分ノ一以上ヲ代表スル株主ノ出  
 席ヲ要ス若シ出席員ニテ資本二分ノ一以上ニ達セサルトキハ幾度開  
 社ヲ延期スルノ後ト雖モ決シテ之ヲ開クコト能ハス是レ會社契約ヲ  
 變更スルハ最大重要ノ事ナレハナリ又會社契約書中ニ此契約ヲ變更

スルコトハ出席員ニ於テ資本二分ノ一ヨリモ尙ホ多クノ株數ヲ代表スルコトヲ要スト定ムルコトヲ得ヘシ(第三十一條)

### ○第二款 無名會社ノ管理ニ就テ特別ノ規則

役員ハ毎年會社ノ事務ヲ調査シテ會計表ヲ作り利益ノ配當方ヲ定メテ總會ノ意見ヲ問フ抑會社ノ利益金即チ純益金トハ會社入額ノ内ヨリ出額ヲ引去リタル殘金ヲ云フ又出額トハ尋常ノ費用并ニ債券ノ利息及ヒ債券ノ元金ヲ辨濟スルニ用ヒタル金額ヲ併セ稱スルモノナリ純益金ハ如何シテ之ヲ株主ニ配當スルヤト問フニ概ネ之ヲ四ケニ分チテ處分スルヲ例トス第一積立金ノ中ニ加入スル分第二株主ニ拂フヘキ利足ニ充ツル分第三株券若干ヲ辨濟スルニ用ユル分第四利益トシテ株主ニ配當スル分是ナリ第一積立金トハ純益ノ一部分ヲ會社ニ儲蓄スルモノヲ云フ是レ法律上特ニ會社ニ對シテ命令スル所ニシテ

會社損失ヲ釀シタルキノ用ニ備フルカ爲メナリ又法律上コトテ少ナクモ毎年純益金ノ二十分一以上ヲ積立金トシテ儲蓄スルヲ命ス但シ積立金會社資本ノ十分一ニ達スルトキハ亦續テ之ヲ命スルコトナシ(第三十六條)第二利足トシテ株主ニ配當スヘキ分ハ實際ニテハ概ネ毎年七月ニ之ヲ配當スルヲ以テ例トス第三若干ノ株ヲ辨濟スルニ充ツル分第四絶益金ノ内ヨリ以上ノ三部分ヲ引去リタル殘金ハ即チ利益金トシテ株主ニ配當スヘキ者ナリ利益金ハ概ネ年ノ終リニ之ヲ配當スルヲ以テ例トス利益金配當ノ方法ハ左ニ之ヲ解説スヘシ今正理ニ從フテ利益金ヲ配當セント欲セハ必ス左ノ如クセサルヘカラス例ヘハ茲ニ會社ノ純益金一百万法ナリトセンニ先ツ第一ニ其廿分ノ一即チ五万法ヲ積立金トシテ會社ニ儲蓄シ第二ニ利益金八十万法(資本二千万法利息年四分ト看做ス)ヲ配當シ第三ニ株券二百枚ノ辨濟金十萬

法ヲ取除ケ殘余五万法ハ即チ第四ノ部分ニシテ利益金ヲ組成スルモ  
 ノナリ然レトモ實際ニテハ斯ノ如クスルコト甚タ稀レニシテ大抵利  
 息金ヲ取除ケタル上ニテ積立金ノ額ヲ算定スルヲ例トス即チ左ノ如  
 キ計算トナルナリ先ツ利息金八万法(資本二千万法利息年四分)ヲ取  
 除テ殘金二十万法ヲ得ルナリ而シテ此二十万法ノ二十分一ヲ積立金  
 トス即チ積立金一万法ナリ次ニ二百枚ノ辨濟金十万法ヲ引去レハ殘  
 金九万法アリ是即チ利益金ヲ組成スル者ナリ斯クノ如ク積立金ヲ減  
 シテ利益金ヲ増スハ畢竟株主ノ歡心ヲ得又世人チシテ會社ノ利益ノ  
 大ナルコトヲ知ラシメントスルニ過キサルナリ今斯ノ如クスルモ能  
 ク法律ニ背馳セサルヤ否ヤ是レ少シク辨セサルヘカラス或日利息金  
 ナル者ハ會社費用ノ一ナリ即チ會社收入金ノ中ヨリ利息トシテ拂フ  
 ヘキ金額ヲ引去リタルモノヲ以テ純益金トナス故ニ積立金ハ利息ヲ

引去リタル上ニテ其額ヲ算定スルハ自然ノ理ノミト是レ誤謬タルヲ  
 免レサルナリ何トナレハ株主ナル者ハ會社ヲ組成スル所ノ本人ニシ  
 テ決シテ會社ニ貸金ヲナシ利息ヲ得ントスル所謂債主ナル者ニアラ  
 サルナリ故ニ株主ハ會社純益ノ配當ヲ受ルノ外他ニ會社ヨリ受領ス  
 ヘキモノアルコトナシ然ラハ則チ彼利息金ト名ツクル者モ其實ハ純  
 益ノ一部ニ過キヌ又何ヲ以テ之レヲ會社費用ノ一部ト看做スコトヲ  
 得ンヤ

茲ニ一疑問アリ會社ハ其未タ業ヲ開カサルカ又ハ已ニ業ヲ開クモ未  
 タ利益ヲ得サルニ當リテ利息ヲ株主ニ配當スヘシト定ムルコトヲ得  
 ルヤ抑此利息ナル者ハ利益金ト同一ナルコト固ヨリ判然ナリトモ之  
 チ配當スルニ當リ別物ヲ如ク思惟シテ怪マサルハ比々皆然ラサルハ  
 ナシ余ハ則チ此所爲ヲ以テ法律ニ背馳スルコト顯然ナリト信ス今姑

ク之ヲ論スルコトヲ措キ何方故ニ斯ノ如キコトヲナスヤト問フニ一  
 ハ實際已ムヲ得サルノ事情アルカ故ナリ例ヘハ茲ニ一ノ鐵道會社ヲ  
 創立スルモノアラソ其業ヲ擧メ利益ヲ得ルニ至ル迄ハ少ナクモ數年  
 間ヲ經過セサルヘカラス若シ此數年間ハ一切利息利益ノ類ヲ株主ニ  
 配當セズト定ムルドキハ會社果シテ株主ヲ募集スルコトヲ得ルヤ是  
 レ實際ニ於テ頗ル難事ナリ故ニ會社ハ其契約中ニ初年ヨリ利益ノ有  
 無ニ關ラズ年幾分ノ利息ヲ株主ニ配當スルコト定ム斯ノ如クニシテ  
 始メテ多數ノ株主ヲ募集スルコトヲ得ヘシ○此事果シテ法律ニ許ス  
 所ナリヤ實際家及ヒ裁判例ニヨルトキハ是レ法律ニ背馳スルモノニ  
 アラスト蓋シ裁判例ノ斯ノ如キ説ヲ取りシハ實ニ上ニ述ヘタル如キ  
 事情アルニ因ル然レトモ之ヲ法理ニ照ストキハ其ノ違法ノ處置タル  
 コト顯然ナリ或日利息ハ會社費用ノ一部ナリ故ニ未ダ利益アラサル

モ之ヲ配當スルコトヲ得ヘシト予ハ己ニ此等ノ説ノ誤謬ナルコトヲ  
 論セリ且ツ利益ナキニ利息ヲ配當スルトキハ會社ノ資本減少スヘシ  
 會社ノ債主ハ其保証ノ一部ヲ失フタルモノナリ故ニ此所爲ハ止タニ  
 法理ニ反クノミナラス亦會社ノ債主ヲ害スルモノナリ況ンヤ會社契  
 約中ニ社員隨意ニ既集ノ資本ヲ減少スルヲ許スハ法律ノ固ク禁スル  
 所タルニ於テナヤ然ラハ則チ此所爲ハ益々背法ノ誹ヲ免カレサルナ  
 リ(千八百六十八年五月六日大審院判決參看)

虛假ノ利益配當ノ事虛假ノ利益トハ株主カ會社ヨリ利益配當ノ名ヲ  
 以テ純正ノ利益ニアラサルモノヲ受領シタルトキノ語ナリ○偕テ會  
 社ハ如何ニシテ虛假ノ利益ヲ配當スルヤト問フニ時ニヨリ役員ト株  
 主ト同意ニテ虛假ノ利益ヲ配當スルコトナキニアラサレトモ多クハ  
 役員ノ詐欺ニ因ルヲ常トス蓋シ役員ハ常ニ多額ノ利益ヲ配當シテ其

功ニ誇リ又會社ノ隆盛ナルコトヲ知ラシムルコトヲ欲スルカ故ナリ今其詐欺ノ方法ヲ舉示センニ例ヘハ辨濟ノ資力ナキ負債主ニ對スル債權ヲ辨濟ノ資力アル負債主ニ對スルモノト看做シテ會社ノ資本中ニ加ヘ又ハ會社所有ノ株券若クハ債券ノ類其實價ノ減少シタルニ拘ハラス券面ノ價格ヲ以テ會社ノ資本中ニ加ヘ或ハ會社所有ノ物品ニ過重ノ價額ヲ附スル等是レナリ○虛假ノ利益ヲ配當スルハ法律ノ固ク禁スル所ナリ若シ虛假ノ利益ヲ配當スルハ役員并ニ監督委員其責ニ任セサルヘカラス而シテ法律ニテハ最モ嚴重ニ之ヲ罰ス○虛假ノ利益ヲ受領シタル株主ハ之ヲ返還スルヲ要スルヤ否ヤ之ヲ決定スルハ會社分散ノ場合ニテ最モ緊要ナリ何トナレハ若シ株主之ヲ返還スルヲ要セストスレハ債主ノ損失トナリ之ヲ返還セサルヘカラストスレハ株主ノ損失トナルノ關係アレハナリ○法律ニテハ株主ヲ分テ

テ二トナシ善意ノ株主即チ虛假ノ利益ナルコトヲ知ラスシテ之ヲ受領シタル株主ハ之ヲ返還スルヲ要セストス其理由ハ善意ニテ虛假ノ利益ヲ受領シタル株主ヲ善意ノ所有者ト看做シ突然ニ其受領シタルモノヲ徵召スルトギハ其產ヲ破ルノ恐レアリト云フニ在リ然レトモ此說ニ反對シテ法律ヲ批評スルモノ亦甚タ多シ○善意ノ株主ハ虛假ノ利益ヲ保持スルコトヲ得ルハ上ニ說クトコロナリ然ラハ則チ如何ニシテ株主ノ善意タルヲ知ルヤ蓋シ法律ニテハ此點ニ於テ甚タ株主ヲ寬待セリ即チ法律上ニテハ株主ヲ以テ善意ナルモノト看做セリ而シテ其之ヲ惡意ナリトスル場合ハ只二個ニ止ルナリ第一○損益表ナクシテ利益ヲ分配シタルトキ第二○損益表ノ示ス所ニ反對シテ利益ヲ分配シタルトキ是ナリ但シ法律上ニテ已ニ善意ナリト看做ス場合ト雖モ反對ノ實証ヲ舉ケテ其惡意ナリシコトヲ證明スルハ常ニ許ス所ナ



功ニ誇リ又會社ノ隆盛ナルコトヲ知ラシムルコトヲ欲スルカ故ナリ今其詐欺ノ方法ヲ舉示センニ例ヘハ辨濟ノ資力ナキ負債主ニ對スル債權ヲ辨濟ノ資力アル負債主ニ對スルモノト看做シテ會社ノ資本中ニ加ヘ又ハ會社所有ノ株券若クハ債券ノ類其實價ノ減少シタルニ拘ハラヌ券面ノ價格ヲ以テ會社ノ資本中ニ加ヘ或ハ會社所有ノ物品ニ過重ノ價額ヲ附スル等是レナリ○虛假ノ利益ヲ配當スルハ法律ノ固ク禁スル所ナリ若シ虛假ノ利益ヲ配當スルハ役員并ニ監督委員其責ニ任セサルヘカラス而シテ法律ニテハ最モ嚴重ニ之ヲ罰ス○虛假ノ利益ヲ受領シタル株主ハ之ヲ返還スルヲ要スルヤ否ヤ之ヲ決定スルハ會社分散ノ場合ニテ最モ緊要ナリ何トナレハ若シ株主之ヲ返還スルヲ要セストスレハ債主ノ損失トナリ之ヲ返還セサルヘカラストスレハ株主ノ損失トナルノ關係アレハナリ○法律ニテハ株主ヲ分テ

百四十九頁以下百五十四頁ニ至ル分ニ頁ノ線上ケ即チ百四十九頁ハ百四十七頁ナリ

テ二トナシ善意ノ株主即チ虛假ノ利益ナルコトヲ知ラスシテ之ヲ受領シタル株主ハ之ヲ返還スルヲ要セストス其理由ハ善意ニテ虛假ノ利益ヲ受領シタル株主ヲ善意ノ所有者ト看做シ突然ニ其受領シタルモノヲ徵召スルトギハ其產ヲ破ルノ恐レアリト云フニ在リ然レトモ此說ニ反對シテ法律ヲ批評スルモノ亦甚タ多シ○善意ノ株主ハ虛假ノ利益ヲ保持スルコトヲ得ルハ上ニ說クトコロナリ然ラハ則チ如何ニシテ株主ノ善意タルヲ知ルヤ蓋シ法律ニテハ此點ニ於テ甚タ株主ヲ寬待セリ即チ法律上ニテハ株主ヲ以テ善意ナルモノト看做セリ而シテ其之ヲ惡意ナリトスル場合ハ只二個ニ止ルナリ第一○損益表ナクシテ利益ヲ分配シタルトキ第二○損益表ノ示ス所ニ反對シテ利益ヲ分配シタルトキ是ナリ但シ法律上ニテ已ニ善意ナリト看做ス場合ト雖モ反對ノ實証ヲ舉ケテ其惡意ナリシコトヲ証明スルハ常ニ許ス所ナ

リ然レトモ此ノ如キ証明ハ事實極メテ難キヲ以テ株主ハ概ネ勝利ヲ得ルナリ○惡意ノ株主即チ虛假ノ利益ナルコトヲ知テ之ヲ受領シタル株主ハ之ヲ返還セサルヘカラス然レトモ法律上ニテハ尙ホ株主ヲ優待シテ已ニ五年ヲ經過シタルモノハ縱令虛假ノ利益ト雖モ之ヲ取戻スコト能ハスト定ム○役員ノ責任ニ關スル規則左ノ如シ

第一原則○役員ハ自己ノ過失ヨリ生シタル責任ヲ免ル、コト能ハス

第二原則○役員ハ會社ノ名義ヲ以テ他人ト契約シタルトキ躬ヲ義務ヲ負擔スルコトナシ蓋シ役員ハ會社ノ代理人タルニ過キサレハナリ

○役員過失アルトキハ何人ニ對シテ責任ヲ有スルヤ曰ク先ツ會社ニ對シテ責任アリ是レ代理人カ本人ニ對シテ責任アルト同理ナリ但シ役員無給ナルトキハ其責任稍々輕シトス(民法第一千九百九十二條)例ヘハ役員會社ノ資金ヲ私スルトキ或ハ不注意ニテ會社ニ損失ヲ被ラ

シメタルトキノ如キハ會社ニ對シテ之ヲ償ハサルヘカラス○時トシテハ一部分ノ株主ノミニ對シテ責任アルコトアリ例ヘハ會社新タニ株券ヲ發行スルニ當リ役員詐僞ヲ用ヒテ株主ヲ募集シタルトキ此詐僞ニ陥リタル新株主ノミ役員ニ對シテ損害ノ要價ヲナシ或ハ株主タルコトヲ拒ムコトヲ得ルカ如キ是ナリ第一ノ場合即チ一役員會社ニ對シテ責任アルトキハ株主總會ノ決議ニヨリテ役員ト和談ヲナシ其責任ノ幾分ヲ免スコトヲ得ヘシ然レトモ第二ノ場合即チ一役員一部分ノ株主ニ對シテノミ責任アルトキハ株主總會ニテ是等ノ權ヲ有セズ又役員ハ時トシテハ社外人ニ對シテ責任アリ即チ自己過失ニヨリテ社外人ニ對シ損失ヲ醸シタルトキ是ナリ例令ヘハ役員虛假ノ利益金ヲ配當シ爲メニ會社ノ資産ヲ減シ會社債主ニ對シ義務ヲ盡スコト能ハサルニ至リタルトキ自己損害辨償ノ責任ヲ負ハサル可ラサル如

キ是ナリ○役員責任ノ程限左ノ如シ一千八百六十七年法律第四十二條ニ曰ク役員ノ過失ニ因リテ會社成立ノ規則ヲ履行セサルカ爲メ會社無効トナルトキハ役員ハ無限連帶ニテ之カ責ニ任セサルヘカラス其他ノ場合ニテハ各役員ハ自己ノ過失ノ外ニ責任ヲ負擔スルコトナシト故ニ一ノ役員過失アリト雖モ他ノ役員ハ其責ニ任セサルナリ但シ役員共同ノ過失ヲナストキハ固ヨリ無限連帶ニテ責任ヲ負ハサルヘカラス○又此一般ノ規則ノ外ニ特別ノ規則アリ曰ク各役員ハ其所有スル株ノ金額ニ達スルマテ他ノ役員ノナシタル過失ヲ連帶ニテ負擔セサルヘカラスト故ニ茲ニ一役員過失アレハ此役員ハ無限ニ責任ヲ負擔セサルヘカラス而シテ其他ノ役員ハ過失ナシト雖モ其所有ノ株ヲ以テ此役員ノナシタル過失ヨリ生スル損害ヲ償ハサルヘカラス斯ノ如ク役員間ニハ多少連帶ノ責任アルヲ相互ニ監督シテ他ノ過失

ヲ防遏セサルヘカラス或ハ之ヲ酷ナリト云フモノアレトモ決シテ然ラス若シ役員ニシテ之ニ堪ヘサルトキハ其職ヲ退クアルノミ○法律ニテハ此民事上ノ責任ノ外ニ尙ホ刑法上ノ責任ヲ設ケ役員ノ罪科ヲ懲罰セリ例ヘハ虚假ノ利益ヲ配當スルトキハ之ヲ一ノ詐偽取財會社ノ債主ニ對シテト看做シ嚴ニ之ヲ罰ス(法律第十三條以下第三章) 差金會社○差金會社ニ二種アリ單純ノ差金會社(又エンテレ)差金會社及ヒ株式差金會社はナリ而シテ此二種ノ差金會社ニハ共通ノ規則及ヒ特別ノ規則アリ

### ○第一節 差金會社共通ノ規則

差金會社ノ性質ハ如何

第一性質○差金會社ニハ二種ノ社員アリ其一ハ擔當者(又ハ連帶合名社員ト名ケ)其一ハ差金社員又ハ金主ト名ク○擔當社員即チ金主ヨリ

資本ヲ預リタル社員ハ社外人ニ對シ無限連帶ノ責任アリ之ニ反シ金主ハ其差出シタル金額限ノ責任ヲ有スルノミ故ニ差金會社ハ合名會社ト無名會社トヲ混同シタルモノトス何トナレハ擔當者ハ合名會社ノ社員ト性質ヲ同フシ金主ハ無名會社ノ社員ト性質ヲ同フスルヲ以テナリ

差金會社ハ二種ノ社員各一人ツ、アルノミニテ成立スルコトヲ得ヘシ然レトモ之ヲ非難スルモノナキニアラズ擔當者數人アルトキハ各無限連帶ノ責任ヲ有ス故ニ此數人ノ擔當社員間ニハ一ノ合名會社アルニ異ナラス是レ商法第二十四條ニ掲クル所ナリ差金會社ノ起因及ヒ其利益如何曰ク差金會社ノ起ル其源遠ク封建時代ニ在リテハ宗教及ヒ經濟上ノ思想多クハ誤謬アルヲ免カレス利息貸ヲ嚴禁シ商業ヲ卑ンテ賤業トナスニ至レリ是ヲ以テ多少ノ資金ヲ有シテ自ラ商業ニ

従事スルコトヲ屑シトセサル者ハ其資金ヲ運用シテ利益ヲ博取スルノ道ナキニ苦ミ遂ニ商人ト會社ヲ結ヒ其資金ヲ託シテ以テ利益ノ幾分ヲ受領セリ之ヲ差金會社ノ濫觴ト爲ス而シテ今日差金會社ノ存在スル理由ハ之ニ異ナリ今ヤ利息貸ノ禁已ニ解ケ又商業ヲ卑ンスルノ陋習全ク其跡ヲ斂ムト雖モ金錢貸借上ニハ利息制限法アリテ六分以上ノ利息ヲ収ムルコト能ハス是ニ於テ其資金ヲ用ヰテ六分以上ノ利益ヲ獲ント欲スルモノ商人ト相結ンテ差金會社ヲ組織スルナリ或ハ其資金ヲ商業ニ用ヰント欲スレトモ自ラ商業ヲ執ルコトヲ欲セサルニ由リ差金會社ヲ組成スルモノアリ又如何ナル事業ノ爲メ差金會社ヲ組成スルコト多キヤト問フニ壯年ノ才子カ發明工夫ヲナシテ專賣免許ヲ得タルモ資本欠乏シテ事業ヲ起スコト能ハサルカ如キ場合ニ最も多シトス蓋シ無資力ノ少年ニハ人容易ニ貸金ヲナサ、レトモ若

シ之ト結合シテ資本ヲ投スル者決シテ僅少ニアラサルヲ知ルナリ○此ニ由リ之ヲ觀レハ差金會社ハ金主カ擔當者ノ人物ヲ鑑察シ之ニ信ヲ置クヲ以テ組成セラル、モノナリ又差金會社ノ役員ハ概ネ擔當者ヲ以テ之ニ任シ金主ノ掣肘ヲ受ルコト少ナク其權力ハ無名會社ノ役員ニ比シテ遙カニ重大ナリ右ノ如ク差金會社ハ金主カ擔當者ニ其金主タル者皆擔當者ヲ熟知スル人ナラサルヘカラス又會社ノ役員ハ金主ノ掣肘ヲ受ケサルトキハ役員タラン者ヲ固ク信シテ容易ニ之ヲ疑ハサル人ニアラサレハ金主トナルコトナカルヘシ故ニ差金會社ニ加入スル者ハ勢甚ク僅少ナラサルヘカラス是レ差金會社カ無名會社ノ如ク數百千ノ株主ヲ集メテ廣大ノ事業ヲ營ムコト能ハサル所以ナリ

第二性質○差金會社ハ社名ヲ有セサルヘカラス但シ社名ノ中ニ金主ノ姓名ヲ加フルトキハ世人ハ此金主ヲ以テ無限ノ責任ヲ負フ所ノ擔

當者ナリト誤信スルノ恐レアリ且ツ金主ハ其醜出シタル金額ノ外ニ責任ヲ負フコトナキヲ以テ世人ハ其姓名ヲ知ルモ大ナル利益アルコトナケレハナリ擔當者一人ナルトキハ此擔當者ノ姓名ト商會ナル語トヲ合シテ社名トナスコトアリ或曰此ノ如クスルトキハ尙ホ他ニ擔當者アルカ如キ思ヒテナサシムルノ恐レアルヲ以テ宜シク之ヲ禁セサルヘカラスト然レトモ商會ナル語ハ必スシモ他ノ擔當者ヲ指スモノニアラス惟此擔當者ノ外ニモ社員アリトノ事ヲ示スニ過キサルノミ且ツ商會ナル語ヲ用ヒテ人ノ姓名ヲ示サ、ルトキハ其果シテ如何ナル人物ナリヤ之ヲ知ルコト能ハサルヲ以テ世人ハ亦此商會ナル文字ヲ重要視セサルヘキナリ

第三性質○會社ヲ管理スルノ職務ハ決シテ金主ニ委ヌヘカラス(法律第二十七條第二十八條)○役員ノ職務ハ之ヲ擔當者ニ任スルヲ以テ通

則トス蓋責任ノ在ル所ハ權力ノ存スル所タルハ自然ノ理ナレハナリ  
 但シ管理ノ職務ヲ社外人ニ託スルモ亦能ハサルニアラス○會社管理  
 ノ職務ヲ金主ニ委任スルコトキハ世人ヲ詐害スルノ恐アルニ由ル例  
 ヘハ爰ニ一人ノ富豪家アリ一ノ無産者ト結ンテ差金會社ヲ設立シ此  
 無産者ヲ以テ擔當者トナシ已レハ金主ノ名義ニテ專ラ會社ヲ管理シ  
 會社ノ名義ヲ以テ人ト契約チナスカ如キ一ニ之レ其管掌スル所ニア  
 ラサルナシ於是乎世人ハ皆此富豪家ヲ以テ擔當者ナリト信シ無限責  
 任アル者トセン然ルニ會社一朝失敗シテ分散チナスニ至リ何ソ料ラ  
 ノ先キノ富豪家ハ其會社ニ醸出シタル金額ノ外亦一錢ヲモ負擔スル  
 コトナク所謂有限ノ責任ニ止リ而シテ無限ノ責任ヲ有スル者ハ却テ  
 一錢ノ餘資ナキ者タリ是レ豈ニ債主ヲ詐害スルノ所爲ニアラスシテ  
 何ソヤ法律カ金主ノ役員タルヲ禁スルハ之レカ爲メナリ○法律ハ此

弊害ヲ恐ル、コト甚タシキカ故ニ啻ニ金主ノ役員タルコトヲ禁スル  
 ノミナラス其役員ノ代理者トナリテ會社ヲ代表スルコトヲモ許サ、  
 ルナリ○此他金主ヲシテ役員タラシメサルノ理由アリ即チ啻ニ世人  
 ノ欺カル、コトヲ防カント欲セシノミナラス又着實ノ擔當者ヲモ保  
 護セント欲セシ一是レナリ蓋差金會社ニ於テ無限責任ヲ負フ者ハ擔  
 當者ノミ故ニ擔當者ハ務メテ危險ヲ避ケ着實ニ就クハ言チ俟タス之  
 ニ反シ金主ハ只其醸出シタル金額限り責任ヲ有スルカ故ニ勢危險ヲ  
 犯シテ大利ヲ博取セントスルノ心ヲ生スヘシ此故ニ金主ヲシテ役員  
 タラシムルトキハ擔當者爲ノニ大害ヲ被ルコトナキヲ保セズ是レ金  
 主ヲ役員トナスコトヲ禁スル所以ノ一理由ナリ○金主ハ已ニ役員若  
 シクハ役員ノ代理トナリテ社務ヲ執ルコト能ハス故ニ其會社ノ名義  
 ニテ人ト契約チナスコト能ハサルハ論チ俟タス然レモ金主ハ會社ノ

事務ニ一切關係スルコト能ハストハ概言シ難シ一千八百四十年前ハ  
 裁判例ニ於テ金主ハ一切會社ノ事務ニ關係スルコト能ハストナセリ  
 故ニ例ヘハ金主會社ノ委託ヲ受ケテ郵便局ニ至リ會社ニ宛テタル手  
 簡ヲ受取ル如キモ亦ナスコトヲ得サル所ニシテ若シ此禁ヲ犯ストキ  
 ハ金主ハ無限責任ノ社員トナルノ法ナリキ○然レトモ一千八百四十  
 年以來裁判例一變シテ社務ヲ分チテ二種トナスコト、ナレリ其一ハ  
 外部ノ事務即チ社外人ニ對シテ爲ス所ノ契約是レナリ其二ハ内部ノ  
 事務即チ社外人ニ關係チ及ホサル事務是レナリ而シテ外部ノ事務  
 ハ金主之ヲナスコト能ハサルコト猶一千八百四十年前ノ如シト雖  
 モ内部ノ事務即チ會社ノ書記又ハ工作師トナリ若シハ監督ヲナス等  
 ノ如キハ之ヲナスコトヲ得ルニ至レリ且ツ此裁判例ハ千八百六十三年  
 ニ商法ヲ改正シタルトキ法律トナレリ即チ商法第二十三條是レ也

金主カ會社ト契約ヲナスハ法律ノ禁スル所ニアラス例ヘハ金主ハ其  
 製造品ヲ會社ニ賣込ミ或ハ會社ノ製品ヲ買求ルコト自由ナリ蓋此等  
 ノ所爲ハ全ク會社ノ事務ヲ執ルト異リテ之ヲ金主ニ許スモ世人ヲ詐  
 害スルノ恐れ毫モ之レナキカ故ナリ然レトモ昔時ハ此事ニ就テモ尙  
 疑惑ヲ生シ區々ノ裁判ヲナシタリシカ一千八百九年四月二十九日參  
 事院ノ達ヲ以テ始メテ上ノ如ク定メタリ今法律ノ禁令ニ反テ金主會  
 社ノ役員トナリ若シクハ役員ノ代理トナリテ社務ヲ管理シタルトキ  
 ハ如何ナル結果ヲ生スルヤト問フニ此點ニ就テハ法律ニ沿革アルヲ  
 知ラサルヘカラス昔時ハ此場合ニ於テ金主ハ會社凡百ノ事業ニ關シ  
 テ無限ノ責任ヲ有スヘシト定メタリシガ現今ノ法律ハ金主ヲ待ツコ  
 ト少シク寛宥トナレリ即チ商法第二十八條ニ曰ク金主社務ヲ管理ス  
 ルトキハ其ナシタル事件ニ就テノミ無限ノ責任ヲ負フヘシ然レトモ

其他ノ事件ニ就テハ裁判官ノ見込ニ因リテ或ハ無限ノ責任ヲ負ヒ或ハ負ハサルコトアルヘシト例ヘハ金主ノナシタル事件大ニ影響ヲ他ノ事件ニ及ホスカ如キ場合ニ於テハ裁判官ハ金主ヲシテ他ノ事件ニ就テモ尚ホ無限ノ責任ヲ負ハシムルコトヲ得ヘシ之ニ反シ其事件他ニ關係ヲ及ホサル場合ニ於テハ金主ヲシテ其現ニ行ヒタル事件ニ就テノミ無限ノ責任ヲ負ハシメ其他ノ事件ニ就テハ責任ヲ負ハシメサルコトヲ得ヘシ

以上ハ差金會社ノ性質トス尙ホ左ニ金主ノ性質ニ就テ一言ヲ述ヘ以テ此節ヲ終ルヘシ

上ニ論セシ所ヲ以テ之ヲ見レハ擔當者ハ無限ノ責任ヲ有シテ會社ヲ管理シ金主ハ唯資本ヲ投スルニ過キス故ニ金主ナル者恰モ貸主ニ異ナラサルカ如シ然レトモ金主ト貸主トハ自ラ差別アリ今其差別ノ基

ク所ヲ求ムレハ貸主ハ社外人ニシテ金主ハ社員ナルコト即チ是ナリ此差別ヨリシテ左ノ結果ヲ生ス

(一) 貸主ハ年六分以上ノ利息ヲ収ムルコト能ハサントモ金主ハ六分以上ノ利息ヲ収ムルコトヲモ得ヘシ

(二) 貸主ハ常ニ一定ノ利息ヲ得レトモ金主ノ得ル所ノ利益ハ會社ニ収入スル利益ノ多少ニ隨フテ年々一定セス

(三) 會社分散スルトキ貸主ハ他ノ債主ト共ニ會社ノ財産ヲ分取スルコトヲ得ヘシ然レトモ金主ハ會社ノ債主ニ辨濟シタル後ニアラサレハ會社ノ財産ヲ分散スルコト能ハス

(四) 會社ノ役員ハ金錢借入レノ約束ヲナシタル後此約束ヲ取消シテ借入ヲ謝絶スルコトヲ得ヘシ之ニ反シ金主ヲシテ其約シタル金額ヲ差出スコトヲ止メシムルコトヲ得ス蓋シ金主即チ社員ノ約シタル金額



ハ正ニ會社ノ資本ヲ組成スヘキ者ニシテ會社ノ債主ヲ頼ンテ抵當ト  
 ナス所ナレハ會社ハ自由ニ之ヲ滅却スルコトヲ得サレハナリ  
 (五) 金主其約シタル出金ヲ納ルコトヲ怠ルトキハ其金額ニ對スル利息  
 并ニ怠納ヨリ生スル損害ノ償ヲ會社ノ催促ヲ待スシテ會社ニ納レサ  
 ル可ラス(民法第千八百四十五條及ヒ第千八百四十六條然レトモ貸主  
 全ク此ノ如キ負擔アルコトナシ)

○第二節 單純ノ差金會社(又「エンテレー」)

差金會社單純ノ差金會社ノ特別ノ性質ハ社員相互ニ他ノ人物ヲ鑑察  
 シテ之ニ信ヲ置クヲ以テ始メテ組成セラル、ニ在リ此性質ヨリシテ  
 左ノ結果ヲ生ス  
 第一〇單純ノ差金會社ノ社員ハ其差金社員ニ至ルマテ其權利ヲ他人ニ  
 讓與スルコト能ハサルヲ通則トス但シ會社契約ニ於テ權利ノ讓與ヲ

許ス場合ニ於テモ之ヲ讓與セントスルニハ必ス民法ニ定メタル債權  
 讓與ノ規則ニ從フヲ要シ單ニ之ヲ賣買スルコト能ハス  
 第二〇社員ノ中一人死去シ又ハ禁治產ヲ言渡サレ若シクハ破産スル等  
 凡テ合名會社ヲ解散スヘキ一原由生スルトキハ此社員ハ假令金主ナ  
 リト雖モ會社解散スルヲ通則トス  
 此ノ如ク單純ノ差金會社ハ主トシテ其社員タルノ人物ヲ重ニスルヲ  
 以テ所謂人物ノ會社ニシテ資本ノ會社ニアラス故ニ彼ノ資本ノ會社  
 ナ主トシテ規定シタル一千八百六十七年ノ法律ハ單純ノ差金會社ニ  
 適用スヘキモノニアラス但シ該法律中會社成立ノ廣告手續ヲ規定シ  
 タル箇條ハ單純ノ差金會社ニモ適用スヘキモノタルコト猶ホ合名會  
 社ニ於ケルカ如シ然ラハ則チ單純ノ差金會社ノ規定スルモノハ何ソ  
 ヤ曰ク會社契約其一ナリ次ニ會社契約ノ不充分ナルトキハ商法ノ規

則其二ナリ

### ○第三節 株式差金會社

株式差金會社ノ特別ノ性質即チ單純ノ差金會社ト異ナル所ハ此會社ノ資本ヲ分ツテ株式幾何トナシ又其各株式ハ概テ同價額トナシ常ニ之ヲ賣買スルコト自由ナル是ナリ故ニ此株式ヲ他人ニ讓與スルニハ債權讓與ノ規則ヲ履ムヲ要セサルナリ株式差金會社ハ甚々無名會社ニ類似セリ故ニ無名會社ノ規則ハ概テ之ヲ此會社ニ適用スルコトヲ得ヘシ例ヘハ會社ノ機關ハ無名會社ノ如ク管理者監督局及ヒ株主總會ノ三ヲ以テ成レリ株式差金會社ハ實際甚々稀ナリ一千八百六十七年以前殊ニ一千八百六十三年以前ニ在リテハ此會社ノ成立スヘキ理由アリタレトモ今日ハ此理由消滅セリ其理由トハ一千八百六十七年以前ニ在リテハ無名會社ヲ創立スルニハ必ス政府ノ許可ヲ要シタレ

トモ差金會社ヲ創立スルニハ政府ノ許可ヲ要セサリキ夫レ然リ若シ無名會社ヲ立ントシテ政府ノ認可ヲ得サリシトキ或ハ會社ヲ立ルニ政府ノ許可ヲ得ルノ煩ヲ避ント欲スルトキハ株式差金會社ヲ設立シ務メテ之ヲ無名會社ニ類似セシメタリキ是レ株式差金會社ノ一千八百六十七年以前ニ多ク設立シタル所以ナリ然レトモ今日ハ無名會社ヲ立ルニ政府ノ許可ヲ要セサルヲ以テ株式差金會社ヲ立ルノ用ハ已ニ消滅セリト云フヘシ但シ今日ト雖モ尙ホ現ニ株式差金會社ヲ實際ニ見ル所以ノモノハ無名會社ノ役員ノ位地ハ甚々不充分ナレトモ株式差金會社ノ役員ノ位地ハ堅固ナルヲ以テ會社ヲ立テ、之カ役員トナラント欲スル者世間其人ニ乏シカラサルカ故ナリ蓋シ無名會社ノ役員ハ株主ノ隨意ニ解任スルコトヲ得レトモ差金會社ニ於テハ役員ハ會社契約中ニテ撰定シ永ク其職ニ在ルヘキモノニシテ株主ノ隨意

ニ之ヲ解任スルコト能ハサルモノナリ

○第一款 株式差金會社ト無名會社トノ重ナル差別

此兩種ノ會社ニ差別アルノ條件甚々多シ然レトモ其細小ノ差別ニ至リテハ之ヲ説クモ徒ニ煩雜ニ渉ルノミニテ大益ナキヲ以テ左ニ其重要ナル大差別ノミチ列擧セントス

第一。無名會社ニ於テハ無限責任ヲ有スル社員ナシ之ニ反シ株式差金會社ニ於テハ必ス一人以上ノ無限責任ヲ有スル社員即チ擔當者アルヲ要ス

第二。無名會社ハ社名ヲ有セス之ニ反シ株式差金會社ハ社名ヲ有ス

第三。無名會社ニ於テハ必ス株主ノ中ヨリ役員ヲ撰擧シテ會社ノ事務ヲ管理セシム之ニ反シ株式差金會社ニ於テハ株主即チ金主ハ役員トナルコト能ハス

第四。無名會社ニ於テハ株主總會ヲ以テ役員ヲ撰定ス且會社契約中ニテ役員ヲ撰定シタル場合ト雖モ株主總會ハ常ニ之ヲ解任スルコトヲ得之ニ反シ株式差金會社ニ在リテハ役員ハ必ス會社契約中ニテ撰定シ而シテ此役員ハ永久其職ニ在リテ株主之ヲ解任スルコト能ハサルヲ例トス

第五。株式差金會社ニ於テ會社ヲ監督スルノ方法ハ無名會社ニ比スレハ頗ル完備セリ無名會社ヲ監督スルノ方法ハ或ハ實際ニ其用ヲナサハルノ恐レアレトモ差金會社監督ノ方法ハ其設ケ甚々嚴格ニシテ且監督者ノ責任甚々重キカ故ニ實際ニ於テ其効益著大ナリ

第二款 株式差金會社ノ管理

株式差金會社ノ管理上ニ述ヘタル如ク株式差金會社ニハ無名會社ノ如ク三機關アリ而シテ其組織權限等ニ至リテモ亦大同小異ナリ

第一株主總會○株主總會ニ三種アルコト猶ホ無名會社ニ於ケルカ如シ即チ創立會通常會及ヒ臨時會是ナリ創立會ハ株主四分ノ一以上ニテ資本ノ四分ノ一以上ヲ代表スルモノ、出席アルニアラサレハ之ヲ組織スルコト能ハス株主中ニハ數多ノ株主有スルモノアリ少計ノ株主有スルモノアリ故ニ若シ出席スヘキ株主ノ數ヲ四分ノ一以上ト定メサルトキハ多數ノ株主有スル者數人ニテ創立會ハ株主四分ノ一以上ノ出席アルニアラサレハ之ヲ組織スルコト能ハストナス所以ナリ然レトモ株主ノ人員ノミニ制限ヲ置キ其株高ヲ問ハサルトキハ少計ノ株主有スル多數ノ株主ノミ集リテ創立會ヲ組織シ輕々議決ヲナスノ恐レアリ是レ創立會ヲ組成スルニハ必ス出席スヘキ株主四分ノ一以上ニテ資本ノ四分ノ一以上ヲ代表スルヲ要ストナス所以ナリ斯クノ如ク株式差金會社ノ株主創立會ノ組織ハ無名會社ノ株主創立

會ノ組織ト少シク異ナレリ又其職掌ニ至リテモ少異ナキ能ハス余ハ已ニ無名會社創立會ノ職掌ハ社員ノ釀出シタル物品ノ價額ヲ定メ社員ノ盡シタル勤勞ヲ評價シ役員并ニ監督委員ヲ撰定シ及ヒ會社成立ノ規則ヲ履行シタルヤ否ヤヲ檢閱スルニアリト述ヘタリ今株式差金會社ノ株主創立會ノ職掌如何ト言フニ其職掌ハ無名會社ノ株主創立會ノ職掌ノ一部分ニ過キササルナリ即チ其職掌ハ社員ノ釀出シタル物品ノ價額ヲ定メ社員ノ盡シタル勤勞ヲ評價シ監督委員ヲ撰定スルニ止リ役員ヲ撰定シ及ヒ會社成立ノ規則ヲ履行シタルヤ否ヤヲ檢閱スルハ其職掌ニアラス何トナレハ役員ハ已ニ會社契約ニテ撰定シ又會社成立ノ規則ノ履行セラレタルヤ否ヤヲ檢閱スルハ監督局ノ職務ナルヲ以テナリ株式差金會社ノ株主通常會ハ無名會社ノ株主通常會ニ於ケルカ如ク資本ノ幾分以上ヲ代表スル株主ノ出席ヲ要スルコトナ

ク出席員ノ多少ニ係ハラス開會スルコトヲ得第二役員(又)管理者ト云フ○役員ハ會社契約ニテ之ヲ撰定シ其職務ニ期限アルコトナク又社員ノ隨意ニ之ヲ解任スルコト能ハサルモノトス

斯ク役員ハ初メヨリ會社契約ニテ撰定シアルヲ以テ之ヲ發起人ト見做シ彼無名會社ニ於テ未タ役員ノ定ラサルトキ發起人カ假リニナスヘキ義務ノ如キハ都テ其負擔スヘキ所タリ例ハ會社成立ノ規則ヲ履行スルノ手續ヲナシ之ヲ履行シタルコトヲ株主總會ニ報告スルカ如キ是レチリ裁判例ニ依レハ上ノ規則ニ反シ株式差金會社ニ於テモ其契約中ニ役員ハ株主總會ノ隨意ニ解任スルコトヲ得ルト定ムルヲ得ヘシトセリ(一千八百六十年五月九日大審院判決)○此判決ハ株式差金會社ノ性質ニ背反セリト云ハサルヲ得ス蓋シ役員ヲ解任スルコトヲ得サルハ此會社特有ノ性質ナレハナリ然レトモ一千八百六十七年

以前ニ在リテハ無名會社ヲ成立スルニハ必ス政府ノ許可ヲ得サルヘカラサルノ制規ナリシヲ以テ單ニ此手續ヲ避ケンカ爲メニ株式差金會社ヲ創立シ之ヲシテ務メテ無名會社ノ如クナラシメントセシ者許多アリ然リ而シテ法律上別ニ差金會社ノ管理者ハ社員ノ隨意ニ解任スヘカラスト定メクル簡條ナカリシヲ以テ差金會社ヲ創立スル者ハ其管理者ヲシテ猶ホ無名會社ノ管理者ノ如ク社員ノ隨意ニ解任スルコトヲ得ル者ト定メタリ是レ此判決ノ基ク所ニシテ蓋シ已ムヲ得サルニ出テタル者ナリ今日ハ無名會社ヲ創立スルコト人々ノ自由ナルヲ以テ復タ此ノ如キ判決ヲナスノ理由アラサルナリ

管理者ノ職務ハ大抵無名會社ノ管理者ノ職務ニ同シ即チ管理者ハ會社ノ代理人ナリ其權限ハ會社契約ノ條款ニ依リ契約ニ明文ナキトキハ代理ノ規則ニ從フヘシ

第三監督 ○ 監督局ハ少ナクトモ三人以上ノ株主ヨリ成立ツテ要ス其局員ハ必ス株主ノ中ヨリ之ヲ撰擇スヘシ是レ亦無名會社トノ一差異ナリ ○ 監督局員ハ必ス會社契約ニテ定メタル株券ヲ所持セサルヘカラス是レ差金會社ノ監督局員ハ無名會社ノ監督局員ヨリモ重大ナル責任アルカ故ナリ ○ 第一期ノ監督局員ハ會社ノ創立會ニ於テ之ヲ撰任ス而シテ其任期ハ一年ナリトス以後ノ監督局員ハ會社契約ニ於テ定メタル時期ニ之ヲ撰任ス ○ 監督局員ノ職務ハ如何曰ク第一 ○ 會社ノ諸帳簿諸物品金錢現額等ヲ檢閲スルコト第二 ○ 毎年株主總會ヲ召集シテ管理者ノナシタル計算書ヲ調査シ及ヒ利益金配當ノ額ヲ定メシムルコト又監督局員モ自ラ計算書ヲ作りテ毎年ノ株主總會ニ指出スヲ要ス是レ管理者ノナシタル計算書ノ誤謬ヲ正サンカ爲メナリ第三 ○ 會社ヲ解散セサルヘカラスト思惟スルトキハ株主臨時會ヲ召集シテ其意

見テ諮問スルコト 監督局員ハ株主總會ノ意見ヲ諮問セシテ會社ノ解散ヲ法庭ニ請求スルコトヲ得ス ○ 監督局員ノ責任ハ如何一千八百六十七年法律第九條ニ曰ク監督局員ハ管理者ノ所爲及ヒ之ヨリ生スル結果ニ就テ如何ナル責任ヲモ有セス各監督局員ハ其委託サレタル職務ヲ盡スニ當リテナシタル過失ノ責ヲ負擔スヘキコト普通ノ規則ノ如シ第十五條ニ曰ク監督局員ハ管理者ノ犯罪ニ就テ民事上ノ責任ヲ負フコトナシト此二條ニ云フ所ハ左ノ二原則ニ歸スヘシ  
 第一則 ○ 監督局員ハ左ノ諸人ニ對シテ其過失ノ責任ヲ負擔スヘシ  
 第一株主ニ對シテハ其委託サレタル職務ヲ怠リタルトキ代理人ト同シキ責任アリ(民法第一千九百九十二條)  
 第二社外人ニ對シテハ管理者ヲ監督スヘキ職務ヲ怠リタルトキ民法第一千三百八十二條ニ指示スル責任ヲ負擔スヘシ凡ソ監督局員ハ其

自ラナセル過失ニアラサレハ責任ヲ負擔スルコトナシ然レトモ監督局員ハ自ラ會社ヲ管理シテ事務ヲ執ルモノニアラス其自ラナセル過失トハ果シテ何ソヤ曰ク監督局員監督ヲ怠リ又ハ監督ヲナサハルコト及ヒ管理者ト共謀シテ惡事ヲ行フコト是レナリ今左ニ一二ノ例ヲ示サン例ヘハ帳簿ヲ點檢シテ虛假ノ利益ノ配當ヲ防制スルコトヲ怠リタルトキ又ハ會社ヲ解散スヘキノ必要アルトキ株主臨時會ヲ召集スルコトヲ怠リタルトキノ如キ是レナリ此等ノ場合ニ於テハ監督局員過失ノ責アルニ因リ之レヨリ生スル損害ヲ負擔セリルヘカラス

第二則○監督局員ハ管理者ノ爲メニ民事上ノ責任ヲ有スルコトナシ凡ソ責任ニ二種アリ自個一身ノ責任及ヒ民事上擔當ノ責任是レナリ茲ニ一小兒アリ他人ノ物品ヲ毀損セシニ其父ハ其損害ヲ賠償スルノ責任アリ

而シテ父ノ其責ニ任スルヤ復其果シテ過失アリシヤ否ヤ問フニ及ハサルナリ蓋父ハ子ノ所爲ニ孰テ民事上擔當ノ責任ヲ有スル者ナレハナリ所謂監督局員ハ管理者ノ爲メニ民事上擔當ノ責任ヲ有セストノ父ノ子ニ於ケルカ如キ責任ナシト云フノ意ナリ然レトモ自ラ過失アルトキニ至リテハ其責任ヲ免ル、コトヲ得ス即チ監督局員ハ第一種ノ責任ヲ有シ第二種ノ責任ヲ有セサルナリ是ヲ以テ父ト監督局員トノ責任ニハ左ノ差異アルナリ即チ小兒カ罪ヲ犯シタルトキハ父ハ小兒ト共ニ刑事裁判所ニ召喚サレ刑事訴訟ノ費用ヲ辦濟セサルヘカラス之ニ反シ管理者罪ヲ犯シ即チ會社ノ金錢ヲ竊取シテ逃亡シタルカ如キトキト雖モ監督局員ニ過失ナク即チ監督局員管理者ノ逃亡ヲ知リテ之ヲ止メサリシカ如キコトナキ以上ハ監督局員ハ刑事裁判所ニ召喚セラル、コトナシ之ヲ監督局員ノ責任トス上來述ヘタル所ニ

因レハ監督局員ノ責任ハ甚ク大ナラサル如クナレトモ監督局員ハ株主中ヨリ撰任セラル、チ以テ其監督ハ實際ニ効用ヲナスコト少々ニアラサルナリ○株式差金會社ノ管理ニ就テハ其規則大抵無名會社ト異ナルコトナシ(一千八百六十七年法律第十三條ヨリ第十六條ニ至ル)但一ノ小差異アリ即チ無名會社ニ於テハ毎年必ス純益金ノ一部ヲ積立金ノ中ニ加ヘサルヘカラサルヲ以テ其全部ヲ配當スルコト能ハス之ニ反シ株式差金會社ニ於テハ法律上積立金ヲ設クヘキコトヲ定メタルノ簡條ナキヲ以テ純益金ノ全部ヲ配當スルコトヲ得ル是レナリ余ヲ以テ之ヲ觀レハ法律上差金會社ニ積立金ヲ設クヘキコトヲ定メサルハ大ニ理由アルヲ見出サ、ルナリ或曰株式差金會社ニ於テハ管理者ノ責任無限ナルヲ以テ凡ソ管理上ヨリ生スル損失ハ管理者ヲシテ之ヲ償ハシムルコトヲ得ヘシ復別ニ積立金ノ如キ保證物ヲ要セン

ヤト然レトモ差金會社ノ大ナルモノニ至リテハ管理者ノ責任無限ナルモ其損失莫大ニシテ得ル所ハ以テ失フ所ヲ償フコト能ハサルコトナシトスヘカラス然ラハ則チ積立金ヲ設ケテ以テ豫メ之ニ備ルノ安全ナルニ如カサルナリ

(附錄)余ハ爰ニ附錄ヲ設ケテ左ノ特別ノ諸會社ヲ解説スヘシ○(一)不定資本會社○(二)商業會社ノ形体ヲ裝ヒタル普通會社○(三)佛蘭西ニ於テ商業ヲ營ム所ノ外國ノ會社○(四)共分會社是レナリ

第一附錄○不定資本會社○不定資本會社ハ商法ニ於テ之ヲ解カンヨリモ寧ロ經濟學ニ於テ之ヲ解クヲ適當ナリトス蓋不定資本會社ハ商業上ヨリモ寧ロ經濟上ニ至大ノ關係アルモノナレハナリ不定資本會社ヲ制定シタルハ實ニ一千八百六十七年ノ法律ヲ以テ嚆矢トス不定資本會社ハ前已ニ解説シタル諸會社ト相併列シテ別ニ一種類ヲナス



資本會社トノ二種ニ區別スルコトヲ得ヘシ故ニ彼合名會社差金會社及ヒ無名會社等皆或ハ不定資本會社トシ或ハ確定資本會社トスルコトヲ得ヘシ即チ不定資本會社トハ前已ニ述ヘタル諸會社ノ一種ノ職織法ト云フニ過キササルナリ大抵會社ノ資本ハ確定シテ變更セサルヲ通則トス又其會社ノ社員ニ至リテモ變更セサルヲ通則トス合名會社ニ於テハ之ニ反シ不定資本會社ニ於テハ資本ト社員ト皆常ニ變更スルヲ通則トス一千八百六十七年以前ニ在リテハ此會社ヲ名ケテ協力會社ト云ヘリ然ルニ一千八百六十七年此會社ヲ制定スルニ當リ協力ノ二字ハ此會社ノ性質ヲ顯表スルニ足ラストナシ不定資本會社ト名ケタリキ然レトモ實際ニハ不定資本會社ノ稱呼未ダ普ク通用セラレハニ至ラサルナリ

第一款

抑モ不定資本會社ハ實際上左ノ三種ノ會社ノ資本ヲ不定トナスノ要用アルニ始マレリ曰ク消費會社曰ク資本會社曰ク製造會社はレナリ

(一)消費會社○凡ソ物ヲ買フニ多ク之ヲ買フハ少ク之ヲ買フヨリモ利益アルヲ常トセリ故ニ彼ノ職工ノ徒其日用品ヲ日々小賣店ニ就テ之ヲ買フヨリモ直チニ問屋又ハ製造元ニ至リテ之ヲ買フノ利益アルコト知ルヘキナリ然レトモ問屋製造元ハ小賣ヲ爲サス於是數多ノ職工相結ソテ若干ノ資金ヲ集メ共同シテ日用品ヲ問屋又ハ製造元ヨリ買取リ之ヲ一ノ管理者ニ附託ス而シテ此管理者ハ社員ノ求メニ應シテ之ヲ零賣ス所謂消費會社トハ即チ是トナリ此ノ如クスレハ管理者ニハ多少ノ給料ヲ與ヘサルヘカラスト雖モ尙ホ若干ノ利益アルナリ

此會社ハ佛蘭西ニ創立シタル者ニアラス此會社ノ佛國ニ發生セシハ

第一款 不定資本會社ノ起ル所以

佛國ノ職工カ獨逸及ヒ英吉利ヨリ之ヲ輸入シタルニ因レリ英國ニ於テハ一千八百四十三年「ローシユター」ニ於テ始メテ此會社起レリ當時社員僅カニ百人許ナリシカ一千八百六十三年ニ至リテハ四千人ノ多キニ及ヘリ

(二)資本會社○凡ソ僅少ノ資本ヲ以テ工業ヲ營ム所ノ職工ハ未タ其製品ヲ賣却セス或ハ已ニ之ヲ賣却スルモ未タ代價ヲ受取ラサル時ニ當リ屢々金圓ノ入用アルコトアリ此時ニ當リ職工等金ヲ他ニ借ラントスルモ人容易ニ之ニ貸スコトヲ肯ンセス何トナレハ斯ノ如キ貧窶ノ職工ニ貸金スルハ甚タ危險ナレハナリ然レトモ百人二百人ノ職工ヲ連帶セシメテ之ニ貸金スルハ必スシモ危險ノ業ニアラス何トナレハ其一八辨濟ヲナサ、ルトキハ他ノ九十九人ノ者代リテ辨濟ヲナスヘケレハナリ於是乎數多ノ職工相結ンテ會社ヲ立テ連帶ニテ資本家ヨリ

資本ヲ借入レ之ヲ會社ニ備ヘ置キテ社員ニ金圓ノ入用アルキ低利ヲ以テ之ニ貸附スルノ方ヲ發明セリ是レ即チ所謂資本會社ナル者ナリ  
(三)製造會社○製造會社トハ職工互ニ相團結シテ一ノ工業ヲ營ム者ナリ蓋シ雇主ノ願使ニ從フコトヲ屑シトセサル者ノ相結ンテ立ル所ノ會社ナリ

之ヲ總フルニ以上三個ノ會社ハ職工ノ間ニ成立スル所ノモノトス而シテ其第一第二ノ二會社ハ能ク成功セリ就中英獨ノ二國ニ於テ盛ナリ獨逸ニ於テハ「チコルツ」デリツト云ヘル經濟學者カ其一生ヲ專ラ此種ナル會社ノ成立スヘキ方法ヲ發見スルコトニ擲キタルヲ以テ其力ニ因リテ大ニ此會社ノ面目ヲ一新セリト雖モ第三種即チ製造會社ニ至リテハ至ル所概チ失敗セサルハナシ蓋シ職工團結シテ工業ヲ營ムトキハ其位置相同シキカ爲メニ督勵ノ法行ハレス遂ニ規律ヲ失ヒ怠

情ニ流ル、ノ弊アリ且ツ職工ハ企業者及ヒ商賈ノ事務ニ慣熟セサルヲ以テ取引ノ際往々損失ヲ免カレサルニ因レリ今其會社ノ成功スルト否トハ暫ク之ヲ措キ職工中ニハ此種ノ會社ヲ設立セシコトヲ欲スル者陸續トシテ輩出セリ然レトモ一千八百六十七年以前ニ在リテハ此等會社ノ成立ヲ妨ル所ノ理由ニツアリキ蓋シ一千八百六十七年以前ニ在リテハ此等ノ會社ヲ支配スル特別ノ規則ナカリシヲ以テ普通ノ規則ヲ適用セサルヘカラサリキ然ルニ普通ノ規則ニ因ルトキハ凡ソ社則ニ變更アル毎ニ必ス之ヲ公告スルコトヲ要セリ故ニ職工相結ンテ此會社ヲ設立センニ其會社ノ社員又ハ資本變更スルトキハ一々之ヲ公告セサルヘカラス然ルニ此ノ種ノ會社ニ於テハ資本時々變更スルヲ以テ其常体トナセリ蓋シ職工ナル者ハ餘裕ノ資本アル者ニアラス故ニ其會社ニ附託シタル資金ハ入用アルトキハ何時ニテモ之ヲ

取出スコトヲ得ルニアラサレハ結社スルコトヲ肯ンセサレハナリ且ツ職工ノ會社ニ於ケルヤ其入社若シクハ退社ニ付テハ通常ノ會社ノ如シ株式ノ賣買ニ因リテ之ヲ爲シ得ヘキモノニアラス何トナレハ職工ヲ以テ成ル所ノ會社ハ職工ニアラサル者ノ入社ヲ欲セサレハナリ加之ナラス退社スル者ナキニ新タニ入社セント欲スル者アルトキハ會社ハ常ニ之ヲ許サンコトヲ望メリ故ニ社員ノ數モ亦時々變更スルヲ以テ此ノ社ノ常体ト爲スナリ其レ然リ今會社ハ一々其變更ヲ公告セサルヘカラストスルトキハ其費用ヲ要スルコト莫大ニシテ會社ノ能ク堪フル所ニアラス是レ此ノ會社ノ成立ヲ妨クル所以ノ一ナリ余ハ已ニ株式會社ニ於テハ左ノ規則アルコトヲ述ヘタリ曰ク會社ノ資本二十萬法ヲ超過スルトキハ其株ハ各五百法以上タルヲ要ス又其資本二十萬法ヲ超過セサルトキハ其株ハ各百法以上タルヲ要スト抑モ

此株ノ金額タルヤ職工ノ爲メニハ實ニ莫大ノ數ナレハ株ノ金額果シテ此ノ如クナレハ職工ノ力能ク之カ株主タルコトヲ得サルヘシ且ツ爰ニ注意セサルヘカラサル事アリ何ソヤ曰ク凡ソ會社ハ其各株ノ金高四分ノ一以上ヲ納ムルコアラサレハ營業ヲ始ムルコト能ハサルコト是レナリ故ニ此職工ハ少ナクモ二十五法ヲ現納スルコアラサレハ會社其業ヲ始ムルコト能ハサルナリ二十五法ハ職工ノ爲メニ巨額ナリ故ニ此規則ニシテ存スル以上ハ職工ハ遂ニ會社ヲ設立スルコト能ハサルナリ是レ此會社ノ成立ヲ妨ル所以ノ二ナリ

不定資本會社ノ成立ヲ難キト斯ノ如シ故ニ特別ノ方法ヲ設ケテ此種ノ會社ヲシテ成立スルコトヲ得セシメサルヘカラサルナリ

### 第二款 不定資本會社ニ付キ法律ニ定メタル規則

不定資本會社ハ其屬スル種類ノ會社ノ規則ニ從フヲ通則トス乃チ合

名會社ナルトキハ合名會社ノ規則ニ從ヒ無名會社ナルトキハ無名會社ノ規則ニ從フ然レトモ不定資本會社ニハ左ノ特典アリ

第一若シ不定資本會社株ヲ以テ組成スルトキ例ヘハ差金會社又ハ無名會社ナルトキ(多クハ皆然ラサルハナシ)ハ株ノ最低額ハ通常ノ會社ノ如ク百法ニアラサシテ五十法ナリ

第二通常ノ會社ニ於テ營業ヲ始ムルニハ各株ノ金額ノ四分ノ一以上ヲ納ムルコアラサレハ能ハス不定資本會社ニ於テハ各株ノ金額ノ二十分ノ一ヲ納ムル上ハ營業ヲ始ムルヲ得ヘシ而シテ各株ノ金額ハ五十法ナルヲ以テ營業ヲ始ムルカ爲メニ納ムヘキ金額ハ五法ナリ五法ハ職工ニ於テモ巨額ト曰フ可ラサルナリ又無名會社ニ於テ株主ノ最少數ハ七人ナルヲ以テ此ノ種ノ會社ハ三十五法ノ金ヲ集メテ直チニ開業スルコトヲ得ヘシ